

横浜市男女共同参画に関するアンケート  
報告書

平成14年度

横浜市市民局男女共同参画推進室

## 目 次

第1章 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査内容	1
3 調査設計	2
4 回答結果	2
5 留意点	2
6 回答者の属性	3
7 調査結果の要約	8
第2章 男女の役割や地位に関する意識について	13
1 性別役割分担意識（問1）	13
2 男女間の不平等感の有無（問2）	24
3 「横浜市男女共同参画推進条例」、「横浜市男女共同参画行動計画」の周知（問3）	39
第3章 家事・育児・介護などの家庭生活の場面での分担について	40
1 家事における役割分担の実態（問4）	40
2 育児における役割分担の実態（問5）	42
3 介護における役割分担の実態（問6）	43
4 家事・育児・介護における役割分担の理想（問7）	44
5 育児休業制度や介護休業制度に対する意識（問8）	48
6 男女ともに家事・育児・介護の役割を担っていくために必要なこと（問9）	51
第4章 さまざまな地域活動への参加について	52
1 さまざまな地域活動への参加状況（問10）	52
2 男女ともにさまざまな活動に参画していくために必要なこと（問11）	55
第5章 女性の生き方や家庭・結婚に対する考え方について	57
1 女性の仕事や結婚についての理想像（問12）	57
2 結婚、家庭、離婚についての考え方（問13）	59
第6章 性に関する情報について	65
1 女性の性の商品化と人権侵害（問14）	65
2 女性の性が商品化される原因（問15）	66
3 性に関する正しい情報（問16）	67
4 女性の生涯にわたる健康づくりのための支援策（問17）	69

## 第1章 調査概要

### 1 調査目的

市内に居住する男女の男女共同参画に関する意識、行動等について明らかにし、今後の横浜市男女共同参画行動計画の着実な推進に資する。

### 2 調査内容

調査内容は以下の通りである。前回調査の内容、全国調査の内容などを考慮している。

\*は前回調査でも聞いている項目

男女の役割や地位に関する意識について

- ・性別役割分担意識（\*）
- ・男女間の不平等感の有無（\*）
- ・「横浜市男女共同参画推進条例」、「横浜市男女共同参画行動計画」の周知

家事・育児・介護などの家庭生活の場面での分担について

- ・家事における役割分担の実態（\*）
- ・育児における役割分担の実態（\*）
- ・介護における役割分担の実態（\*）
- ・家事・育児・介護における役割分担の理想（\*）
- ・育児休業や介護休業に対する意識
- ・男女がともに家事・育児・介護の役割を担っていくために必要なこと

さまざまな地域活動への参加について

- ・さまざまな地域活動への参加状況
- ・男女がともにさまざまな活動に参画していくために必要なこと

女性の生き方や家庭・結婚に対する考え方について

- ・女性の仕事や結婚についての理想像（\*）
- ・結婚、家庭、離婚についての考え方（\*）

性に関する情報について

- ・女性の性の商品化と人権侵害
- ・女性の性が商品化される原因
- ・性に関する正しい情報
- ・女性の生涯にわたる健康づくりのための支援策

女性に対する暴力について

- ・「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」の周知
- ・女性に対する暴力と思われる行為
- ・女性に対する暴力についての相談機関
- ・女性に対する暴力への取り組みとして必要なこと

行政への要望について

- ・「男女共同参画社会」を形成していくために取り組むべきこと（\*）

### 3 調査設計

調査対象	横浜市全域
調査対象	横浜市内在住の18歳以上の男女（外国籍市民も含む）
標本数	5,000サンプル
抽出方法	住民基本台帳及び外国人登録原票による無作為抽出
調査方法	郵送配布・回収法
調査期間	平成15年1月17日～1月31日
調査実施機関	財団法人日本総合研究所

### 4 回答結果

	18歳以上の人口	対象者数	有効回答者数	有効回答率
総数	2,878,179人	5,000人	1,736人	34.7%
	平成14年1月1日	うち外国籍市民90人	うち外国籍市民15人	
	現在			

### 5 留意点

掲載した図表については集計結果の数値の小数第2位を四捨五入したものを回答比率とした。従って、図表の合計が100%ちょうどにならないことがある。

各設問の回答数を基数とNとして算出したため、複数回答の設問についてはすべての比率を合計すると100%を超える。

標本誤差は下式により求められる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{p(1-p)}{n}}$$

nは今回の回答者数 = 1736、pは回答比率、信頼度95%

回答比率	10%または 90%	20%または 80%	30%または 70%	40%または 60%	50%
標本誤差	±1.9	±2.5	±2.8	±3.0	±3.1

20歳未満の数値については、図表は掲載するが、分析は行わない。

選択回答の中に「非常に～」と「どちらかといえば～」の選択肢がある場合、分析文中で、その2つの回答をあわせて「～（計）」と表記することがある。（例：「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「男性の方が優遇（計）」）同様に、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」は「そう思う（計）」、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」は「そう思わない（計）」と表記することがある。

市民の意識や行動の変化をみるために前回調査と今回調査の比較を行っている。ただし、調査対象者数、抽出方法、回収状況は異なっている。また、全国との比較のため、12年度と14年度に実施された「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府政策広報室）を参考とした。各調査の概要は次表のとおりである。

図表 1 - 1 前回調査、全国調査の概要

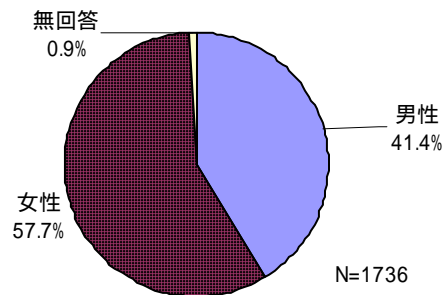
	今回調査	前回調査	男女共同参画社会に関する世論調査 (平成14年度調査)	男女共同参画社会に関する世論調査 (平成12年度調査)
調査時期	平成15年1月17日～1月31日	平成9年9月19日～10月6日	平成14年6月27日～7月7日	平成12年1月27日～2月6日
調査対象者	市内在住の18歳以上の男女(外国籍市民も含む)5,000人	市内在住の18歳以上の男女7,000人	全国20歳以上の男女5,000人	全国20歳以上の男女5,000人
抽出方法	住民基本台帳及び外国人登録原票による無作為抽出	住民基本台帳による無作為抽出	層化2段無作為抽出	層化2段無作為抽出
調査方法	郵送配布・回収法	郵送配布・回収法	調査員による面接法	調査員による面接法
回収状況	有効回収数1,736件 (回収率34.7%)	有効回収数3,192件 (回収率45.6%)	有効回収数3,561件 (回収率71.2%)	有効回収数3,378件 (回収率67.6%)

## 6 回答者の属性

### (1) 性別

1,736人の回答者のうち、性別について回答があった人の内訳は、男性718人(41.4%)、女性1,002人(57.7%)で、女性の方が多い。

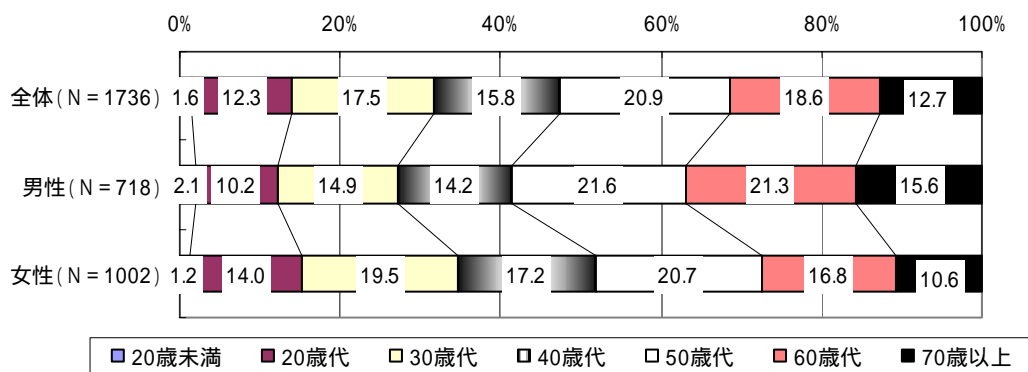
図表 1 - 2 回答者の性別



## (2) 年代

年代は、全体では、50歳代が最も多く20.9%、以下60歳代が18.6%、30歳代が17.5%となっている。性別にみると、男性は50歳代、60歳代が多いのに対し、女性も50歳代の回答が最も多いが、比較的均等に分布している。

図表 1 - 3 年代

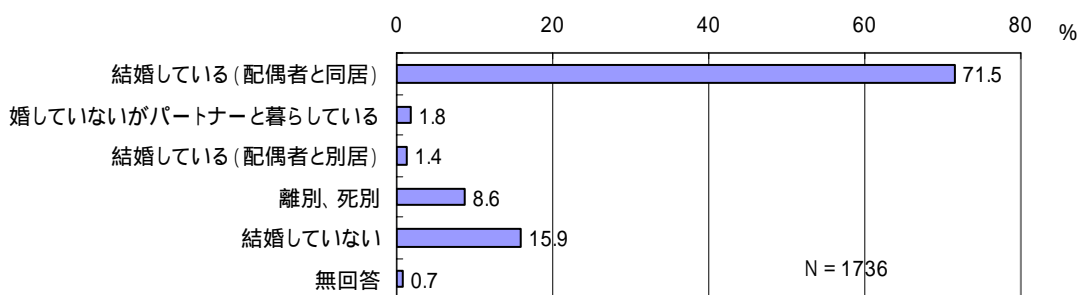


## (3) 家族構成

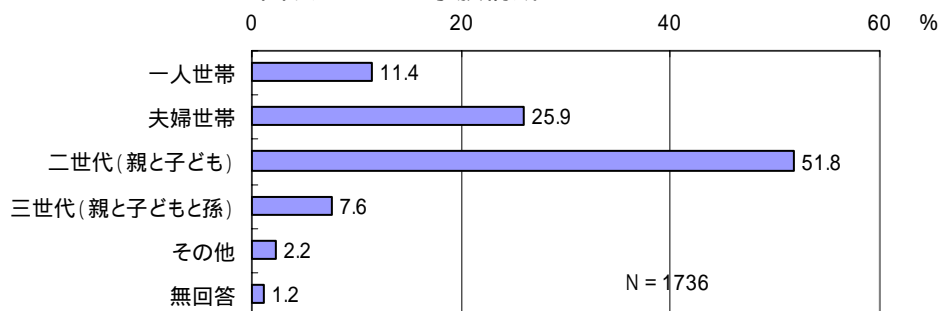
結婚の有無でみると、「結婚している（配偶者と同居）」が全体の71.5%、「結婚していない」15.9%、「離別、死別」8.6%、「結婚していないがパートナーと暮らしている」1.8%、「結婚している（配偶者と別居）」1.4%である。

家族構成では、「二世世代（親と子供）」が51.8%、「夫婦世帯」25.9%、「一人世帯」11.4%となっている。

図表 1 - 4 結婚の有無



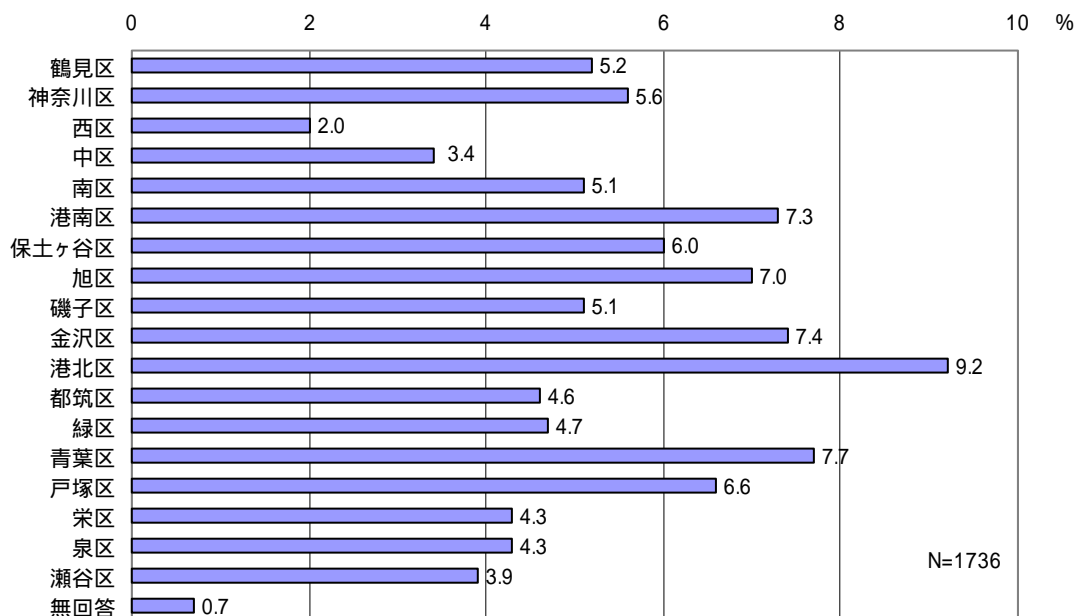
図表 1 - 5 家族構成



#### (4) 居住地

回答者の居住地は「港北区」が9.2%と最も多く、以下「青葉区」7.7%、「金沢区」7.4%、「港南区」7.3%、「旭区」7.0%と続いている。

図表 1 - 6 居住地

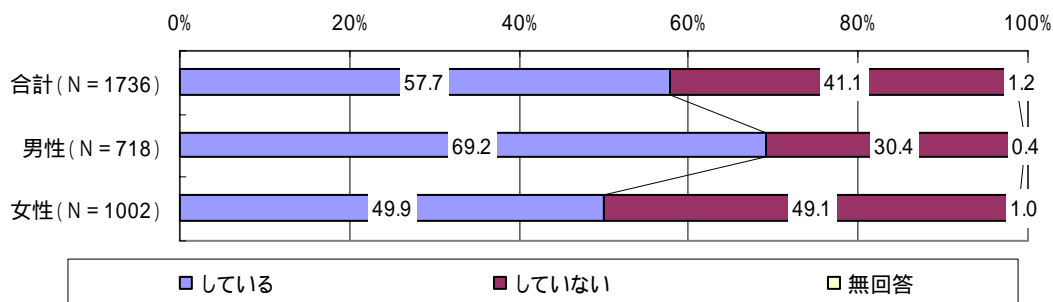


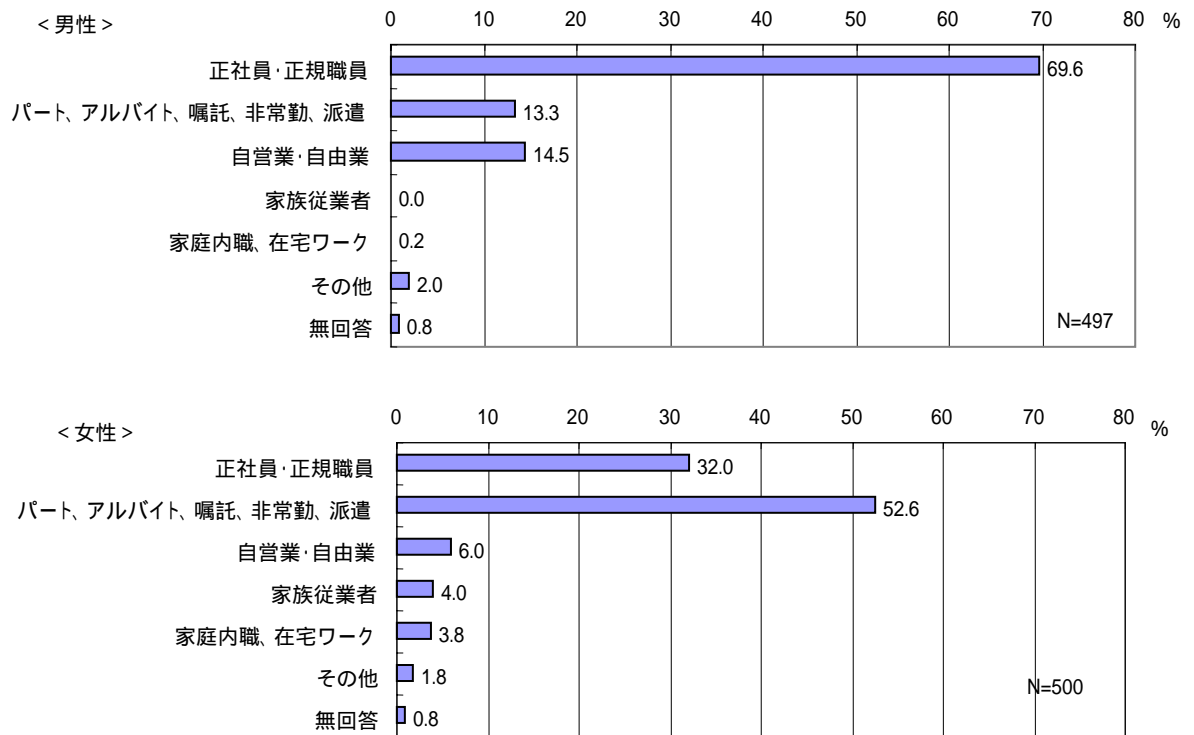
#### (5) 収入を伴う仕事

収入を伴う仕事をしている人の割合は、全体で57.7%、性別では男性69.2%、女性49.9%となっている。

収入を伴う仕事をしていると回答した人の就業形態は、男性は「正社員・正規社員」が69.6%と最も多く、以下「自営業・自由業」14.5%、「パート、アルバイト、嘱託、非常勤、派遣」13.3%となっている。女性は「パート、アルバイト、嘱託、非常勤、派遣」が52.6%と最も多く、「正社員・正規社員」が32.0%となっている。

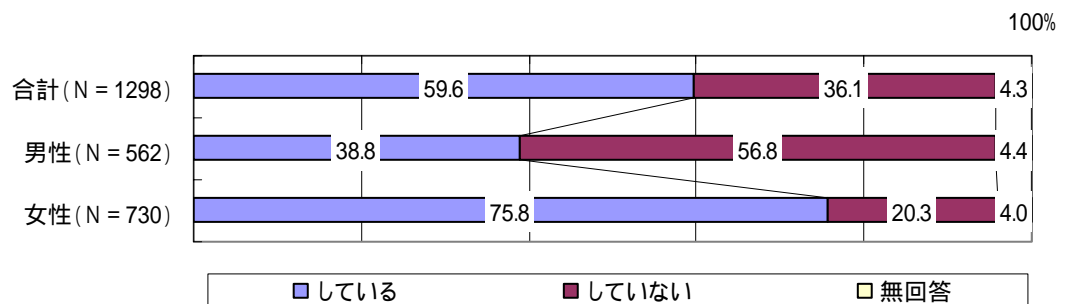
図表 1 - 7 性別にみた収入を伴う仕事



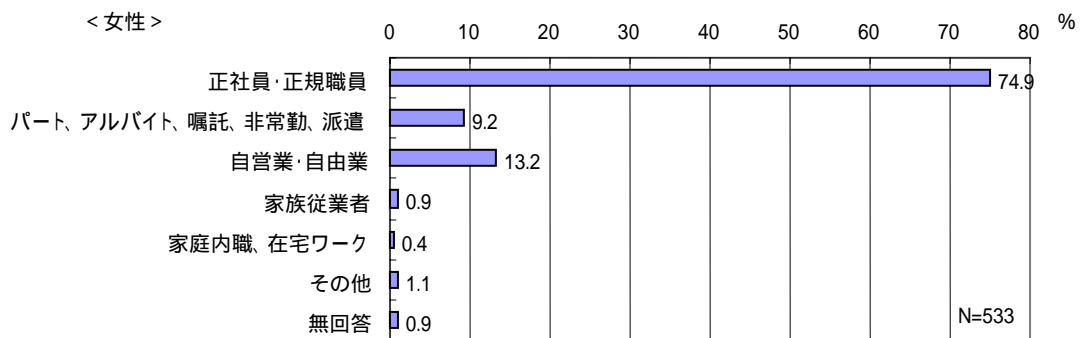
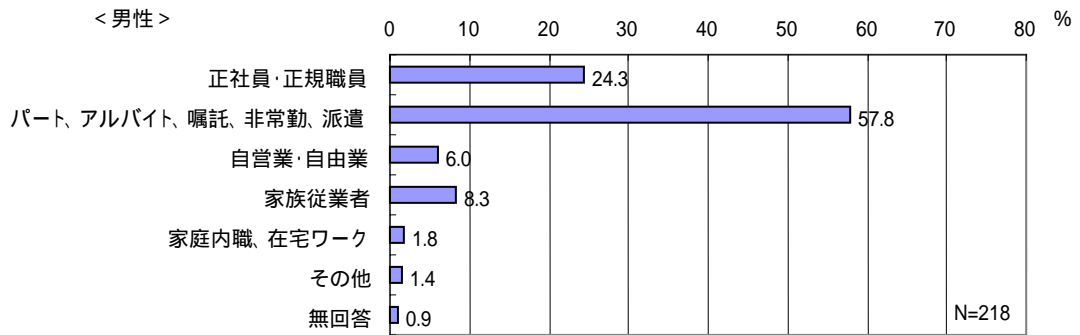


配偶者が収入を伴う仕事をしている割合は、全体で59.6%、男性38.8%、女性75.8%である。配偶者が収入を伴う仕事をしていると回答した人の配偶者の仕事の内容は、男性の場合は「パート、アルバイト、嘱託、非常勤、派遣」が57.8%、「正社員・正規社員」が24.3%となっている。女性の場合は、「正社員・正規社員」が74.9%、「自営業・自由業」が13.2%、「パート、アルバイト、嘱託、非常勤、派遣」が9.2%となっている。

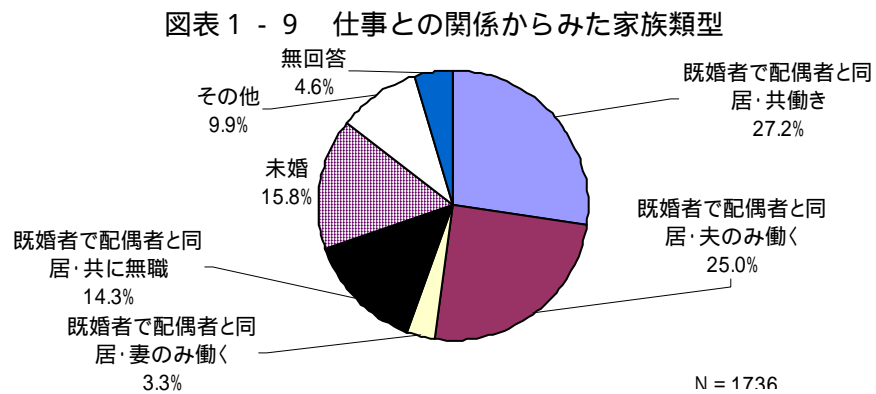
図表 1 - 8 性別にみた配偶者における収入を伴う仕事







結婚の状況と収入を伴う仕事の有無から家族類型を行うと、「既婚者で配偶者（結婚していないがパートナーと暮らしている、も含む、以下同様）と同居・共働き」が473人（27.2%）と最も多く、以下、「既婚者で配偶者と同居・夫のみ働く」が25.0%、「未婚」が15.8%、「既婚者で配偶者と同居・共に無職」が14.3%、「既婚者で配偶者と同居・妻のみ働く」が3.3%となった。なお、その他には「既婚者であるが配偶者と別居、離別、死別」が含まれる。



家族類型を年代別にみると、「既婚者で配偶者と同居・共働き」は40～50歳代、「既婚者で配偶者と同居・夫のみ働く」は30歳代、「既婚者で配偶者と同居・妻のみ働く」は60歳代、「既婚者で配偶者と同居・共に無職」は60歳代以上に多い。

図表 1 - 10 家族類型の年代構成

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
既婚者で配偶者と同居・共働き (N = 473)	0.0	8.0	19.7	27.7	31.1	10.8	2.1	0.6
既婚者で配偶者と同居・夫のみ働く (N = 434)	0.0	7.6	28.1	20.5	24.2	16.1	3.2	0.0
既婚者で配偶者と同居・妻のみ働く (N = 57)	0.0	3.5	3.5	12.3	14.0	52.6	14.0	0.0
既婚者で配偶者と同居・共に無職 (N = 248)	0.0	1.6	2.0	0.8	7.7	42.7	45.2	0.0
未婚 (N = 274)	9.9	47.1	22.6	8.8	9.1	1.8	0.7	0.0

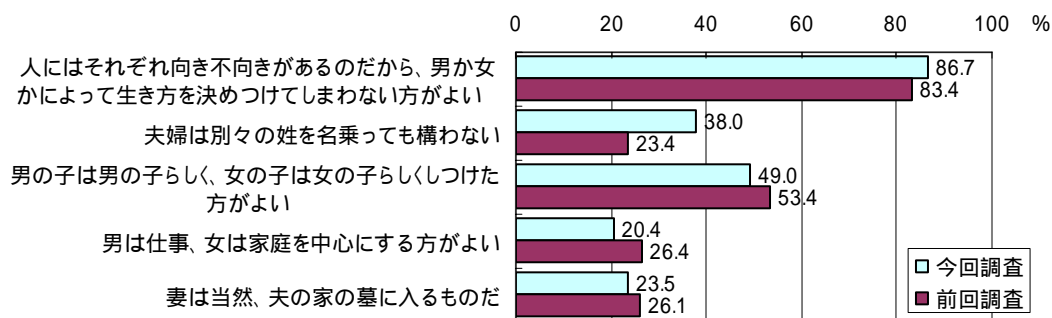
## 7 調査結果の要約

### (1) 男女の役割や地位に関する意識について

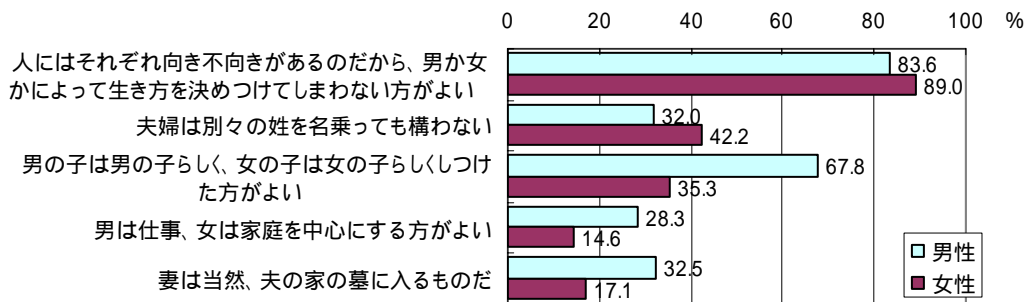
#### 性別役割分担意識

- 性別役割分担に関する5項目の意見についてどう思うかをたずねた。役割固定を認める意見については、女性よりも男性の方が、また、年代的には、高齢層の方が肯定する人の割合が高い。
- 「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」について、「そう思う」と答えた人の割合は、前回調査（平成9年）に比べて、6ポイント少なくなっているが、女性（14.6%）よりも男性（28.3%）に多い傾向は変わっていない。
- 「人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女によって生き方を決めつけてしまわない方がよい」について、「そう思う」と答えた人の割合は、前回調査と同様に高い割合を示している。
- 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけた方がよい」「妻は当然、夫の家の墓に入るものだ」について、「そう思う」と答えた人の割合は、前回調査に比べていずれも減少し、「夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」に「そう思う」と答えた人の割合は、増加している。いずれについても、男女間で意識の差が大きい。

図表 1 - 11 男女役割分担に対する「そう思う」の割合（前回調査との比較）



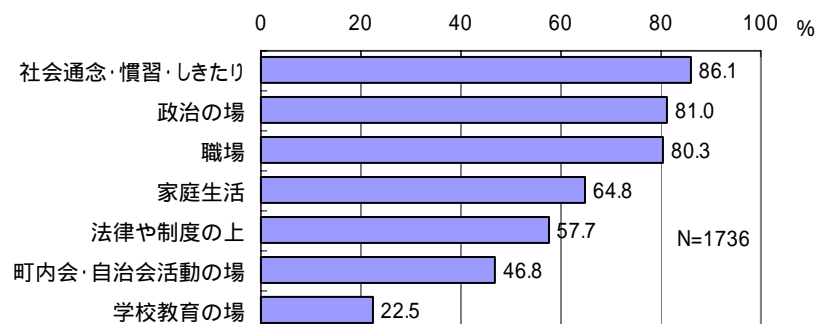
図表 1 - 12 男女役割分担に対する「そう思う」の割合（男女の比較）



### 男女間の不平等感の有無

- ・ 男女の地位が平等になっていると思うかどうかを7つの分野についてたずねた。全ての項目について、前回調査とほぼ同様の傾向であり、男性よりも女性の方が不平等感が強い。
- ・ 男女間の平等感が最も高いのは「学校教育」の分野で、「対等」と答えた人の割合が6割を超えている。一方、「社会通念・慣習・しきたりなど」「政治の場」「職場」では、8割以上の方が男性への優遇感をあげている。
- ・ 前回調査と比べて「政治の場」「職場」については、「男性の方が非常に優遇」の割合が減少し、「どちらかといえば男性の方が優遇」の割合が増加している。特に女性にその傾向が顕著にみられる。

図表 1 - 13 男女間の不平等感「男性の方が優遇（計）」の割合



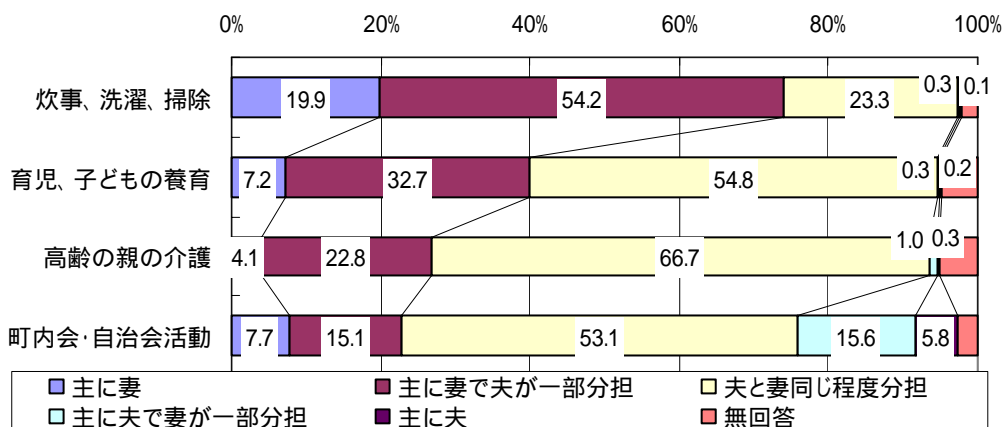
注) 男性の方が優遇（計） = 「男性の方が非常に優遇」 + 「どちらかといえば男性の方が優遇」

### (2) 家事・育児・介護などの家庭生活の場面での分担について

- ・ 既婚者で配偶者と同居（結婚していなくてもパートナーと暮らしている、も含む）の人の家事分担の状況は、「食事の用意」「食事の後かたづけ」「食料品・日用品の買い物」「掃除」「洗濯」「日常の家計管理」「町内会・自治会等の地域活動」の全てにおいて「妻」が行う割合が高い。これは「共働き」でも「夫のみ働く」でも同じ結果になっており、共働きかどうか家事分担の大きな要因とはならないことがうかがえる。
- ・ 小学生以下の子どもがいる人の育児分担の状況も、「ミルク・食事の世話」「おしめの取り替え・排泄の世話」「お風呂に入れる」「保育園や幼稚園の送迎」「しつけをする」「勉強を

- みる」「幼稚園・学校の行事への参加」の全てにおいて「妻」が行う割合が高い。
- ・ 介護についても、女性（娘、妻）が介護を担っている割合が高くなっている。
  - ・ 家庭における役割分担の理想は、「炊事、洗濯、掃除などの家事」は「主に妻で一部夫が分担」、「育児、子どもの養育」「高齢の親の介護」「町内会・自治会活動」については「夫と妻と同じ程度分担」と答えた人の割合が5割を超えている。
  - ・ 家庭での家事分担をサポートする上で育児休業制度、介護休業制度は重要な意味を持つ。いずれについても「男性も積極的にとった方がよい」と思う割合は7割以上を占めている。しかし、男性が育児休業や介護休業をとることについての現在の社会や企業の支援について聞いてみると「整備されている」の割合は1割にも満たない。このような社会的な支援の遅れに対し、「家事、育児、介護等がしやすい労働環境を企業が整備する」は43.4%と最も高く、企業への期待は大きい。

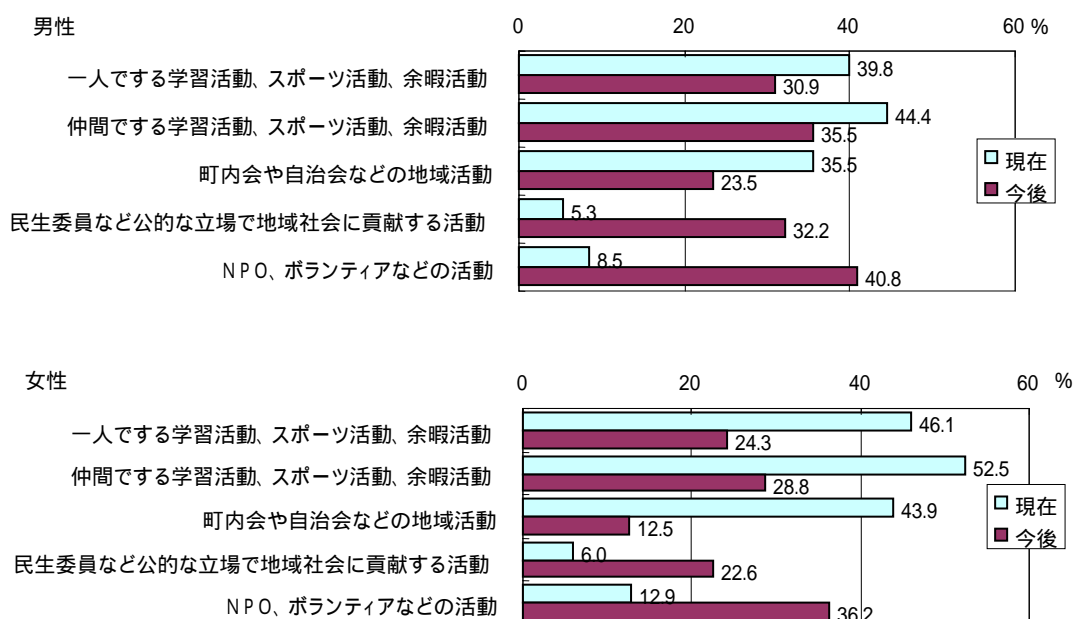
図表 1 - 14 家庭における役割分担の理想



### (3) さまざまな地域活動への参加について

- ・ さまざまな地域活動に関して現状では、「仲間とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動」「一人でする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動」が多いが、今後やってみたい活動では「NPO（非営利団体）やボランティアなどの活動」が最も多い。
- ・ 性別にみると、現状では、全ての項目で、女性の方が男性よりも活動している割合が高いが、今後の意向では全ての項目で、男性の方が女性よりも活動したいという割合が高い。特に、地域社会に貢献する活動、NPOやボランティア活動への参加意欲が高い。

・ 図表 1 - 15 性別にみた地域活動への参加状況と今後の意向



#### (4) 女性の家庭や結婚に対する生き方について

- ・ 「女性の仕事や結婚についての理想像」は「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事につく」(44.8%)が最も高く、次に「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」(21.3%)となっている。いずれも男性よりも女性に高い割合となっている。
- ・ 結婚、家庭、離婚に関する5つの考えについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「そう思う(計)」の割合をみると、「夫婦間の愛情や信頼がなくなれば、離婚するのもやむを得ない」(81.6%)、「結婚という形式にとらわれず、生涯独身という生き方があってもよい」(65.0%)、「結婚という形式にとらわれず、パートナーと暮らすという生き方があってもよい」(57.9%)、「結婚をしても、必ずしも子どもを持つ必要はない」(54.3%)がいずれも5割を超えている。一方、「結婚をしないで、子供を産み育てるとい生き方があってもよい」は「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせると59.8%となり、否定する人の割合が高い。

#### (5) 性に関する情報について

- ・ 女性の性が商品化され、女性の人権が侵害されていると思うこととしては、「売買春」が56.2%と最も多く、以下、「女性の性を誇張した広告」47.4%、「援助交際」43.0%、「ソープランドなどの性風俗営業」40.2%となっている。
- ・ 女性が商品化される原因としては「個人の問題意識が低下している」(45.0%)が最も多く、また、「社会全体の性に関するモラルが低い」(41.9%)、「メディアからの性に関する情報

が氾濫している」(40.5%)など社会環境の課題を指摘する意見もある。

- ・ 「性に関する正しい情報を得ることができない」と考える人は約6割で、性に関する正しい情報を得るためには、「学校教育での人権や性に関する学習」(64.3%)が最も高く期待されている。
- ・ 女性に対して、女性の生涯にわたる健康づくりのための支援策として必要なことをたずねたところ、「医療機関での女性専門の外来の設置」(65.4%)が最も高い。

#### (6) 女性に対する暴力について

- ・ 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)について、「名称は聞いたことがある」は63.0%であるが、「内容まで知っている」のは17.6%である。一方、女性に対する暴力についての相談機関として、「警察署、交番」(83.1%)が最も知られており、次いで「各区役所の福祉保健センター」(50.9%)となっている。
- ・ 夫や恋人、パートナーから女性に対して行われた行為について、「刃物などを突きつけて脅す」「身体を傷つけ可能性のある物などで殴る」「足で蹴る」は、8割を超える人が「どのような場合でも暴力にあたる」と答えている。一方、「大声でどなる」「交友関係や電話を細かく監視する」「何をいっても長時間無視し続ける」は、「どのような場合でも暴力にあたる」よりも「暴力にあたる場合とあたらない場合がある」の割合が高い。
- ・ また、性別にみると「生活費を渡さない」「誰のおかげで生活できるんだ、とか役立たずと言う」「平手で打つ」「殴る振りをして脅す」「大声でどなる」については、男性よりも女性の方が「どのような場合でも暴力にあたる」と答えた人の割合が高い。
- ・ 女性に対する暴力への取り組みとして必要なことについては、「暴力をふるう加害者対策を進める」(47.5%)と「被害者を保護する体制を充実させる」(47.3%)がほぼ同じ割合になっている。性別にみると、女性では「被害者が自立して生活できるように支援する」の割合も高く(40.6%)男性に比べて被害者支援を重視している傾向がみられる。

#### (7) 「男女共同参画社会」を形成していくために取り組むべきこと

- ・ 「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、国や自治体が特に力を入れて取り組むべきこととして、「男女が共に家庭生活と仕事等その他の活動が両立できるような支援策を充実する」(57.7%)が最も高く、「就業の場や家庭生活など、あらゆる分野における活動への男女共同参画を進めるため、企業などへ働きかける」(48.7%)、「男女共同参画に関する情報提供や交流の場、相談、学習などを支援する施設を充実する」(35.6%)等と続いている。この意見は性別、年代別にみてもほぼ同様の傾向である。

## 第2章 男女の役割や地位に関する意識について

### 1 性別役割分担意識（問1）

男女の性別役割分担に関する5つの考え方について、どう思うかをたずねた。

「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」については、「どちらともいえない」(39.7%)と「そう思わない」(39.6%)がほぼ同じ割合で、「そう思う」(20.4%)を上回っている。

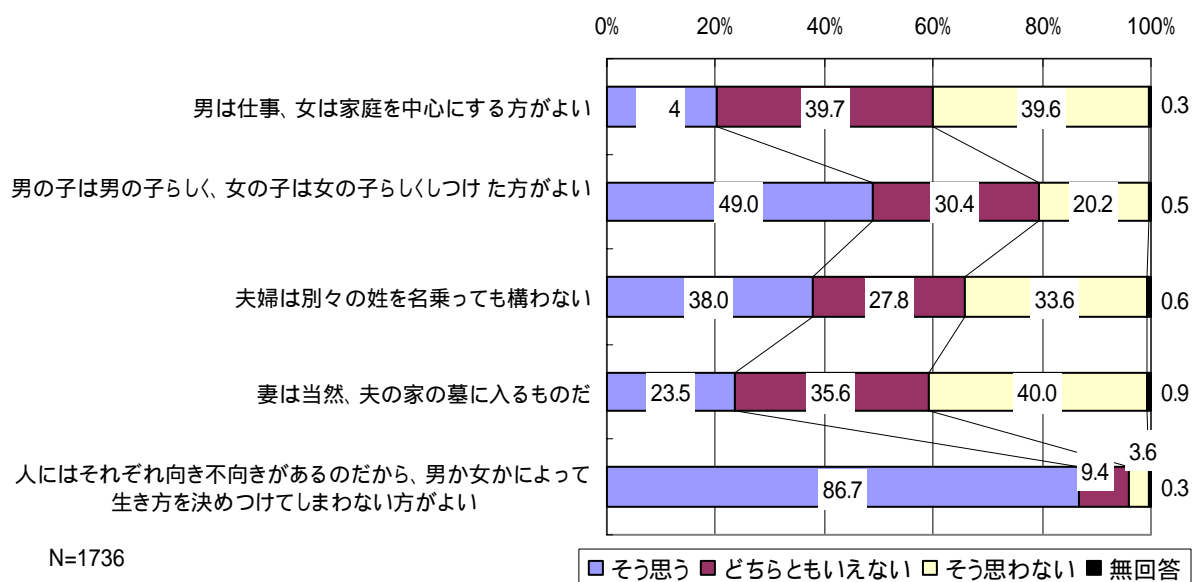
「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけた方がよい」については、「そう思う」が49.0%で、「そう思わない」の20.2%を上回っている。また、「どちらともいえない」も30.4%となっている。

「夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」については、「そう思う」が38.0%で、「そう思わない」が33.6%、「どちらともいえない」27.8%となっている。

「妻は当然、夫の家の墓に入るものだ」については、「そう思わない」が40.0%で最も多く、「どちらともいえない」35.6%、「そう思う」23.5%の順になっている。

「人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女かによって生き方を決めつけてしまわない方がよい」は、「そう思う」が86.7%と、「どちらともいえない」9.4%、「そう思わない」3.6%を大きく上回っている。

図表2 - 1 男女役割分担に対する考え



## (1) 「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」

### 【属性別にみた傾向】

性別にみると、男性は「どちらともいえない」が38.4%と最も高く、次いで「そう思わない」が32.9%、「そう思う」が28.3%である。女性は「そう思わない」が44.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が40.6%、「そう思う」が14.6%である。女性の方が「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」という考えを否定する割合が高い。

性・年代別にみると、男性の40歳代を除けば、男女ともに年代が上がるにつれて「そう思う」と肯定する割合が高まり、「そう思わない」と否定する割合は低くなっている。

### 【前回調査との比較】

平成9年に実施した前回調査では、全体で「そう思う」が26.4%、「そう思わない」が39.2%、「どちらともいえない」が33.4%となっており、今回調査の方が前回調査よりも「そう思う」が減り、「そう思わない」が増えている。

性別にみても、男女ともに「そう思う」の割合が前回調査よりも減っている。特に、男性の「そう思う」は36.0%から今回は28.3%と、女性よりも減少している。

### 【全国調査（平成12年度「男女共同参画社会に関する世論調査」）との比較】

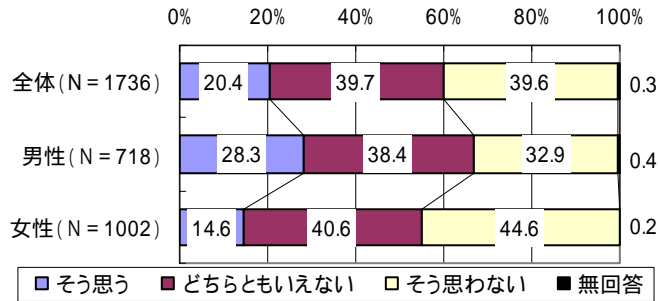
全国調査では、全体で「そう思う」が25.0%、「そう思わない」が48.3%となっている。

今回調査の方が「そう思う」も「そう思わない」も割合が低く、「どちらともいえない」とする割合が高い。

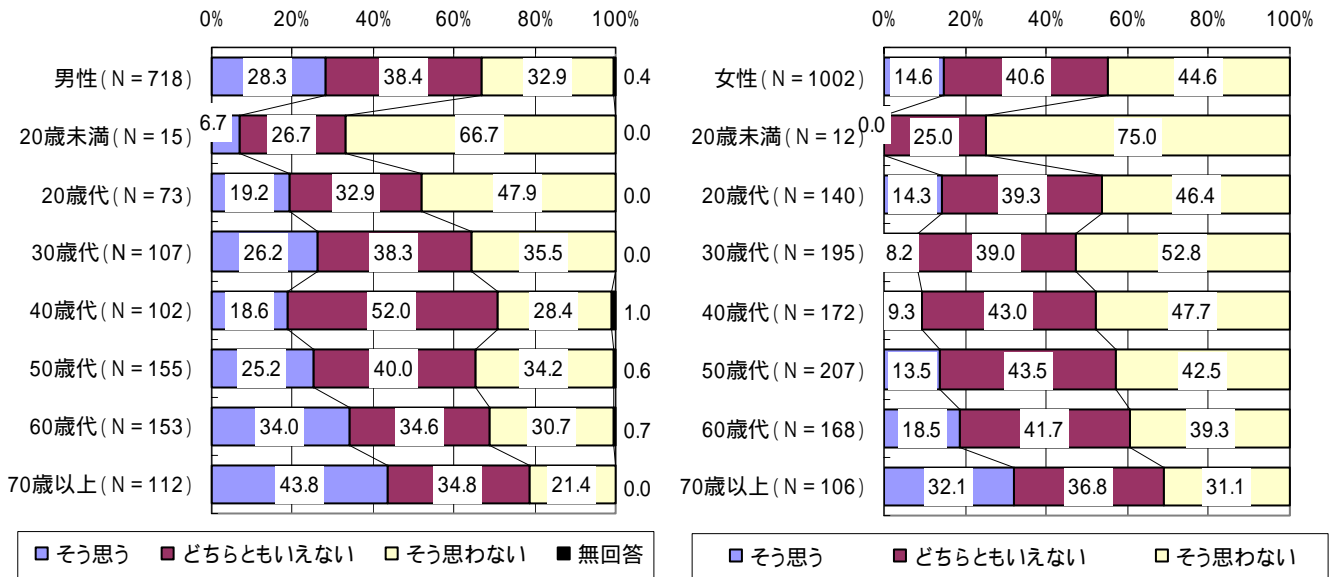


図表 2 - 2 「男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい」に対する考え

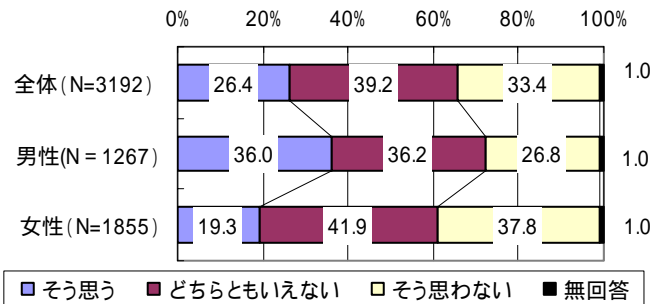
< 今回調査 >



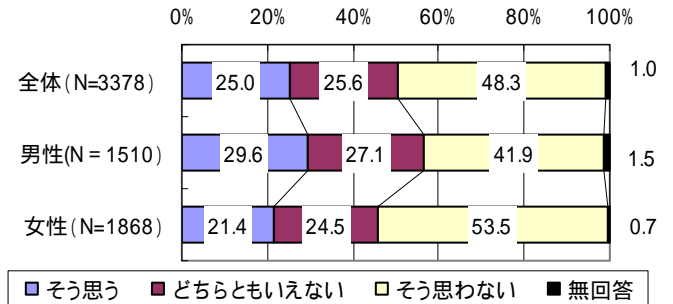
< 性・年代別 >



< 前回調査 >



< 全国調査 (平成12年度調査) >



## (2) 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけた方がよい」

### 【属性別にみた傾向】

性別にみると、男性は「そう思う」が67.8%と最も高く、「そう思わない」の11.8%を大きく上回っている。一方、女性は「どちらともいえない」が37.6%で、「そう思う」35.3%、「そう思わない」26.3%の順になっている。

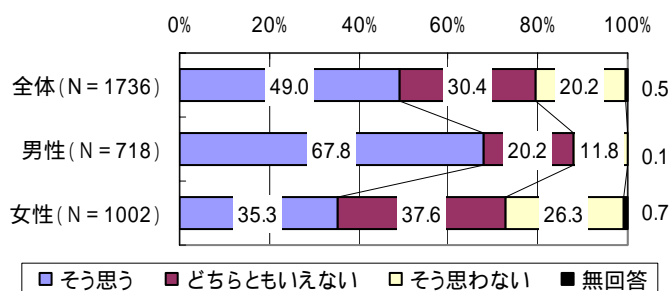
性・年代別にみると、男性は50歳代を除けば、年代が上がるにつれて「そう思う」の割合が増える傾向があり、70歳以上では82.1%である。女性の場合は、50歳代までは「どちらともいえない」が高く、60歳代以上になると「そう思う」の割合が急に高くなる。

### 【前回調査との比較】

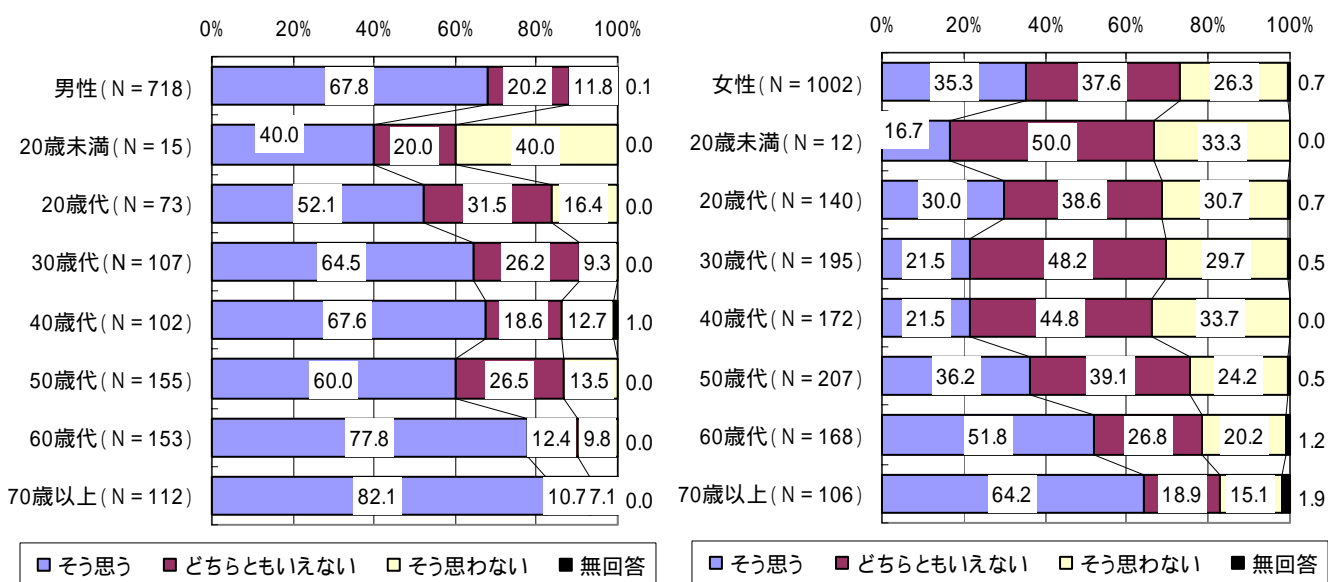
前回調査では、全体では、「そう思う」が53.4%、「そう思わない」が17.7%、「どちらともいえない」が28.0%となっており、前回調査よりも「そう思う」の割合が減り、「そう思わない」「どちらともいえない」の割合が増えている。

図表 2 - 3 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけた方がよい」に対する  
考え

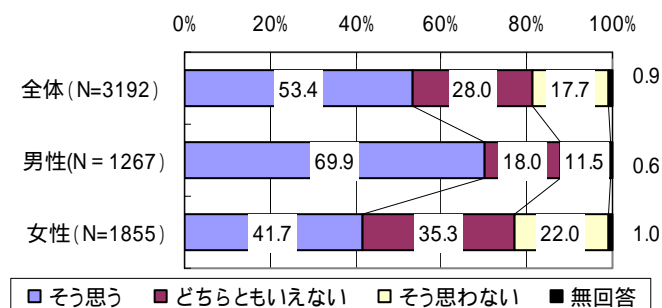
< 今回調査 >



< 性・年代別 >



< 前回調査 >



### (3) 「夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」

#### 【属性別にみた傾向】

性別にみると、男性は「そう思わない」が42.6%と最も高く、「そう思う」は32.0%、「どちらともいえない」は24.9%である。一方、女性は「そう思う」が42.2%で、「どちらともいえない」の29.9%、「そう思わない」の27.0%を上回っている。

性・年代別にみると、男性の場合は「そう思う」の割合が50歳代までは40%前後の値を示しているが、60歳を超えると大きく低下する。女性の場合は20歳代～40歳代までは「そう思う」が50%を超えているが、50歳代以上になると「そう思わない」が30～40%と高くなる。

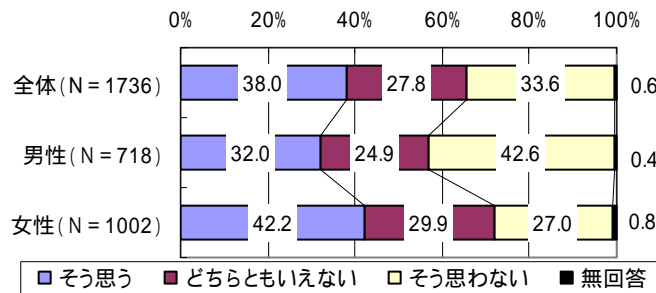
#### 【前回調査との比較】

前回調査では、「そう思う」が23.4%、「そう思わない」が38.2%、「どちらともいえない」が36.8%となっており、前回調査よりも「そう思う」が増えている。

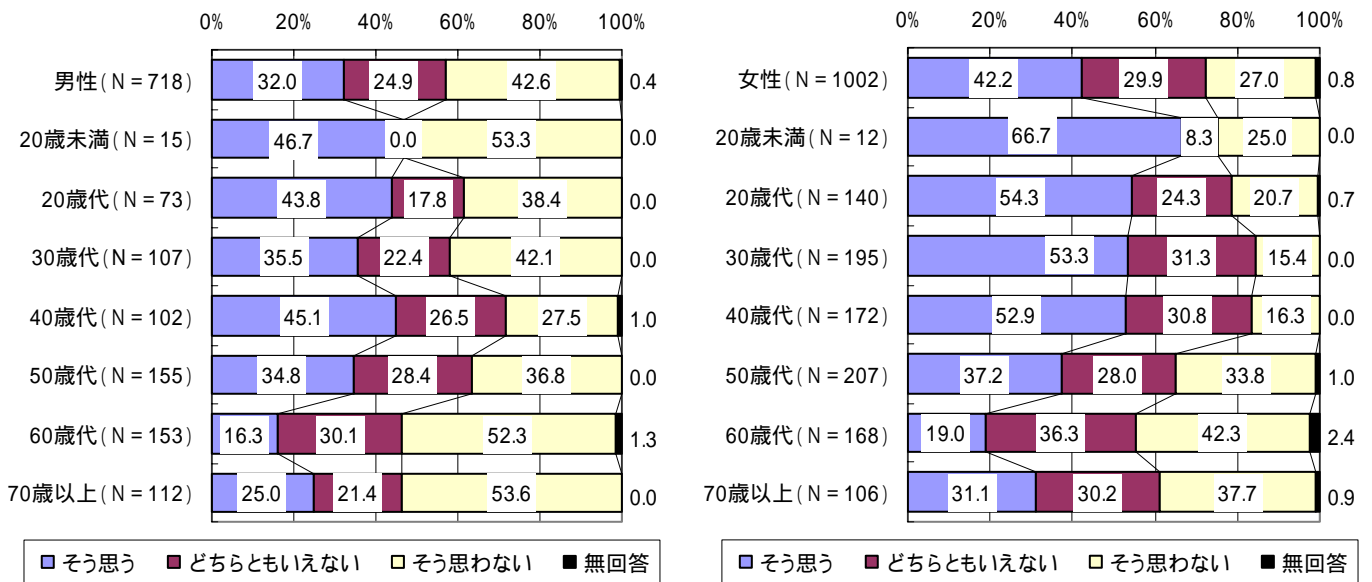
性別にみると、「そう思わない」「どちらともいえない」が男女ともに減少している一方、「そう思う」は、男性が19.7%から32.0%、女性が26.1%から42.2%と、ともに増えており、特に女性の伸びが大きい。

図表 2 - 4 「夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」に対する考え

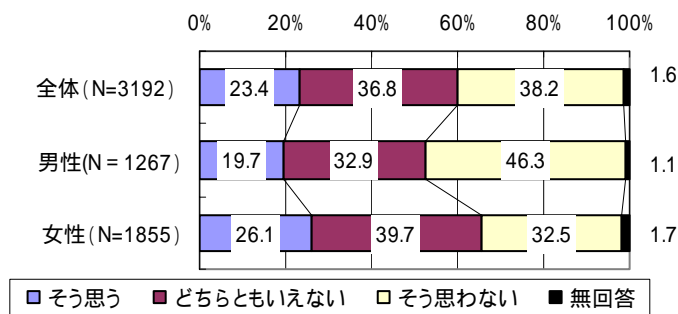
< 今回調査 >



< 性・年代別 >



< 前回調査 >



#### (4)「妻は当然、夫の家の墓に入るものだ」

##### 【属性別にみた傾向】

性別にみると、男性は「どちらともいえない」36.6%、「そう思う」32.5%、「そう思わない」30.4%の順でほぼ同率になっている。一方、女性は「そう思わない」が47.3%で、「どちらともいえない」の34.5%、「そう思う」の17.1%を大きく上回っている。

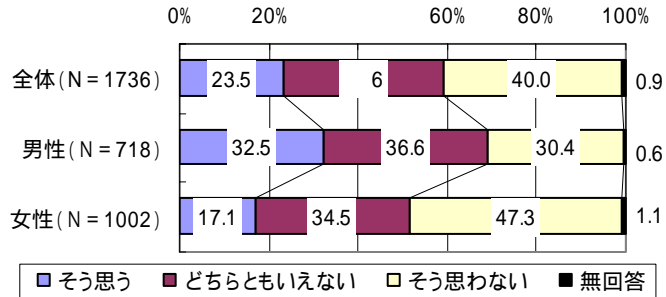
性・年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて「そう思う」が増え、「そう思わない」が減っている。

##### 【前回調査との比較】

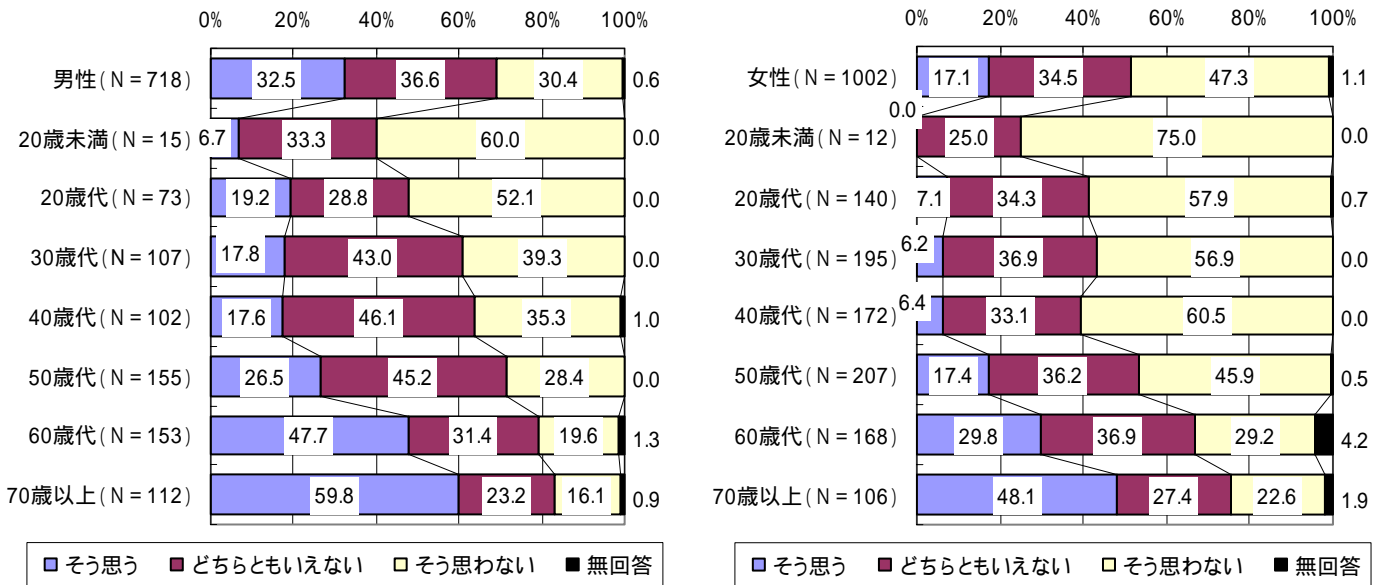
前回調査では、「そう思う」が26.1%、「そう思わない」が36.1%、「どちらともいえない」が35.9%である。今回調査では「そう思う」が2.6ポイント減り、「そう思わない」が3.9ポイント増えている。

図表 2 - 5 「妻は当然、夫の家の墓に入るものだ」に対する考え

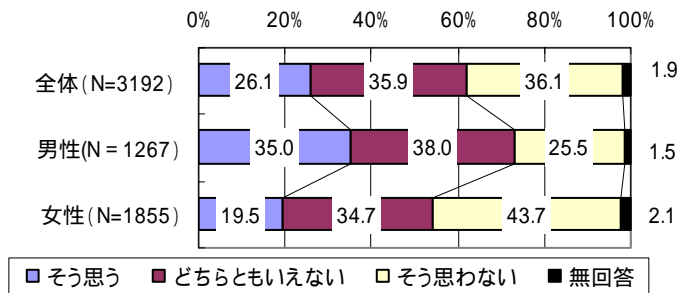
< 今回調査 >



< 性・年代別 >



< 前回調査 >



(5)「人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女かによって生き方を決めつけてしまわない方がよい」

**【属性別にみた傾向】**

性別にみても、男女ともに「そう思う」の割合が高く、80%を超えている。特に女性の30歳代の「そう思う」は94.4%（男性80.4%）、40歳代は95.9%（男性86.3%）と高い。

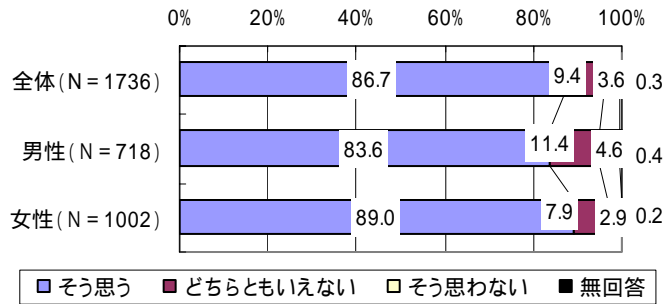
**【前回調査との比較】**

前回調査においても、男女ともに「そう思う」の割合が高かったが、今回調査ではさらに「そう思う」の割合が増え、「そう思わない」が減っている。

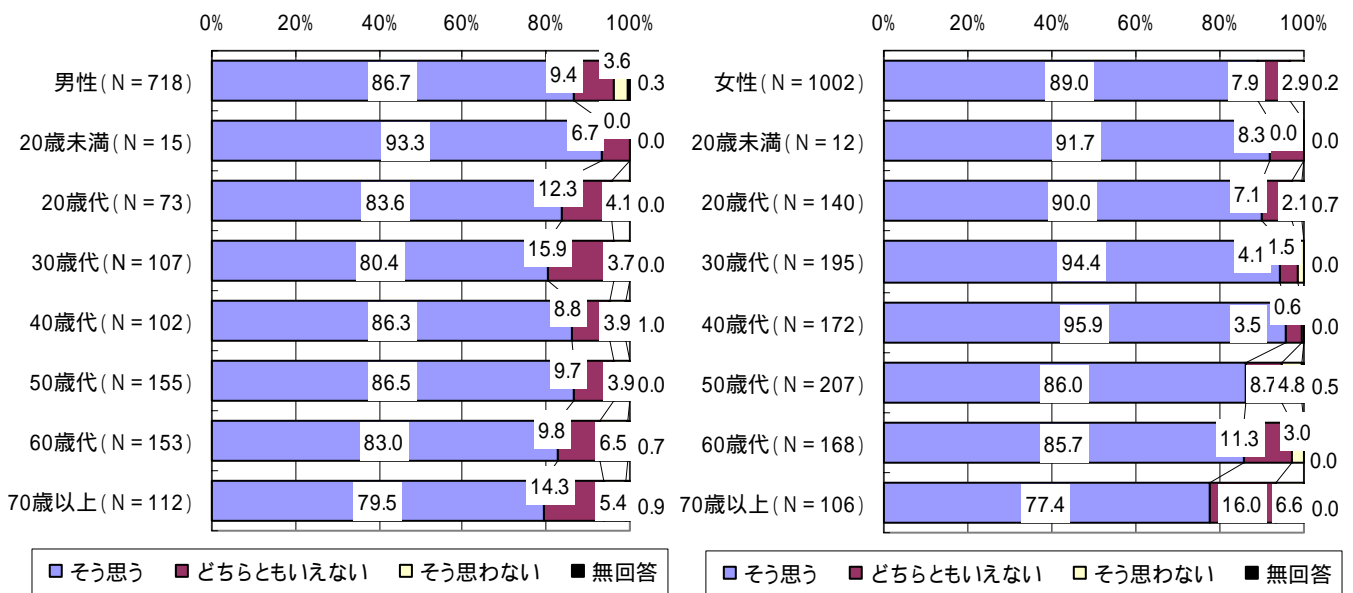


図表 2 - 6 「人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女によって生き方を決めつけてしまわない方がよい」に対する考え

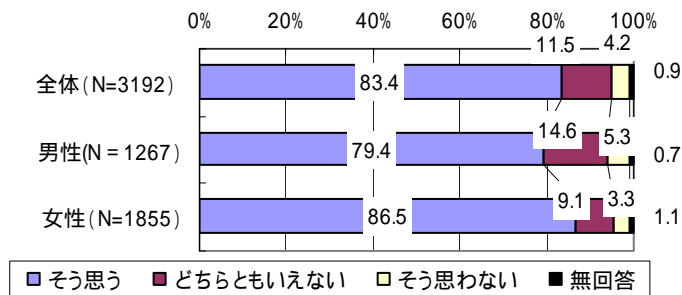
< 今回調査 >



< 性・年代別 >



< 前回調査 >



## 2 男女間の不平等感の有無（問2）

男女の地位が平等になっていると思うかどうかを7つの分野に分けてたずねた。

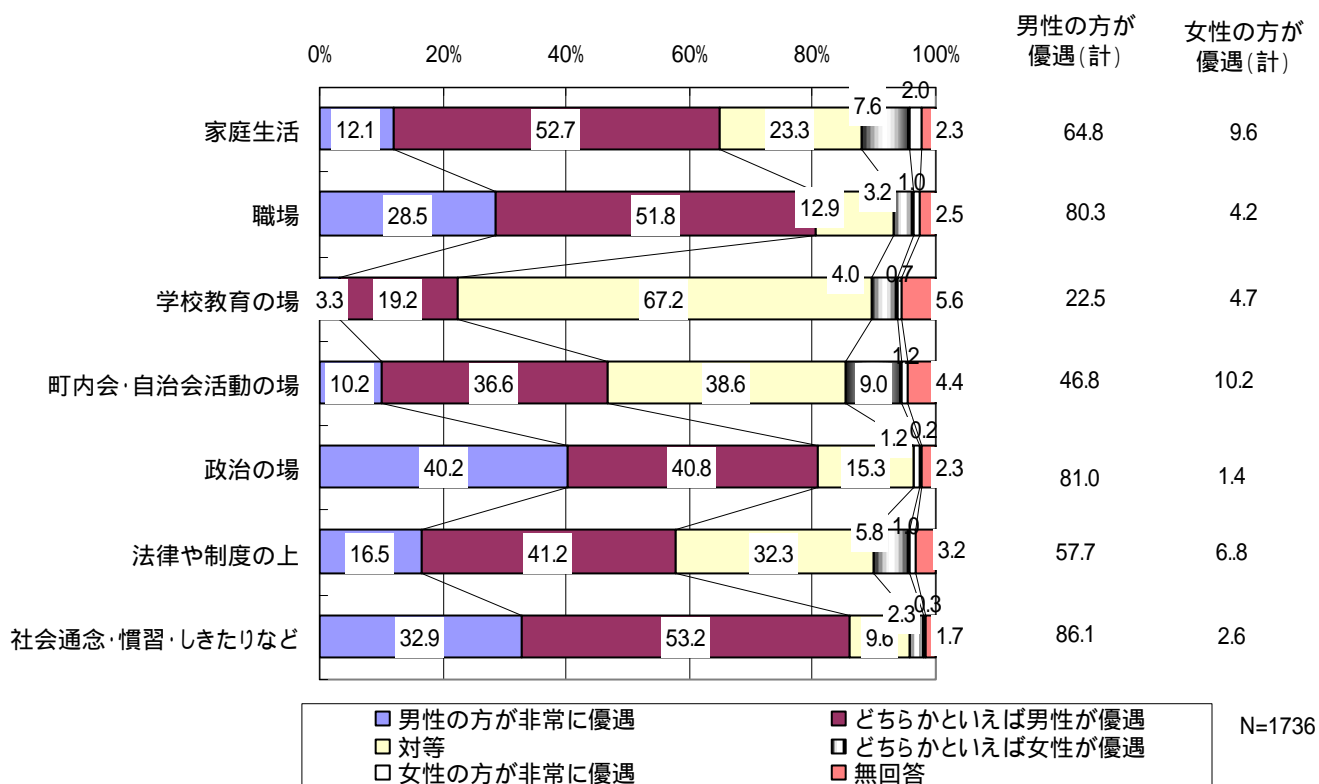
「職場」「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」は「男性の方が優遇（計）」（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が非常に優遇されている」、以下同様）が高く、いずれも80%を超えている。

「法律や制度の上」は「男性の方が優遇（計）」が57.7%、次いで「対等」が32.3%となっている。

「町内会・自治会活動の場」は「男性の方が優遇（計）」が46.8%、次いで「対等」が38.6%となっている。

「学校教育の場」は「対等」が67.2%と、7つの分野の中で最も「対等」の割合が高い。

図表2-7 男女間の不平等感



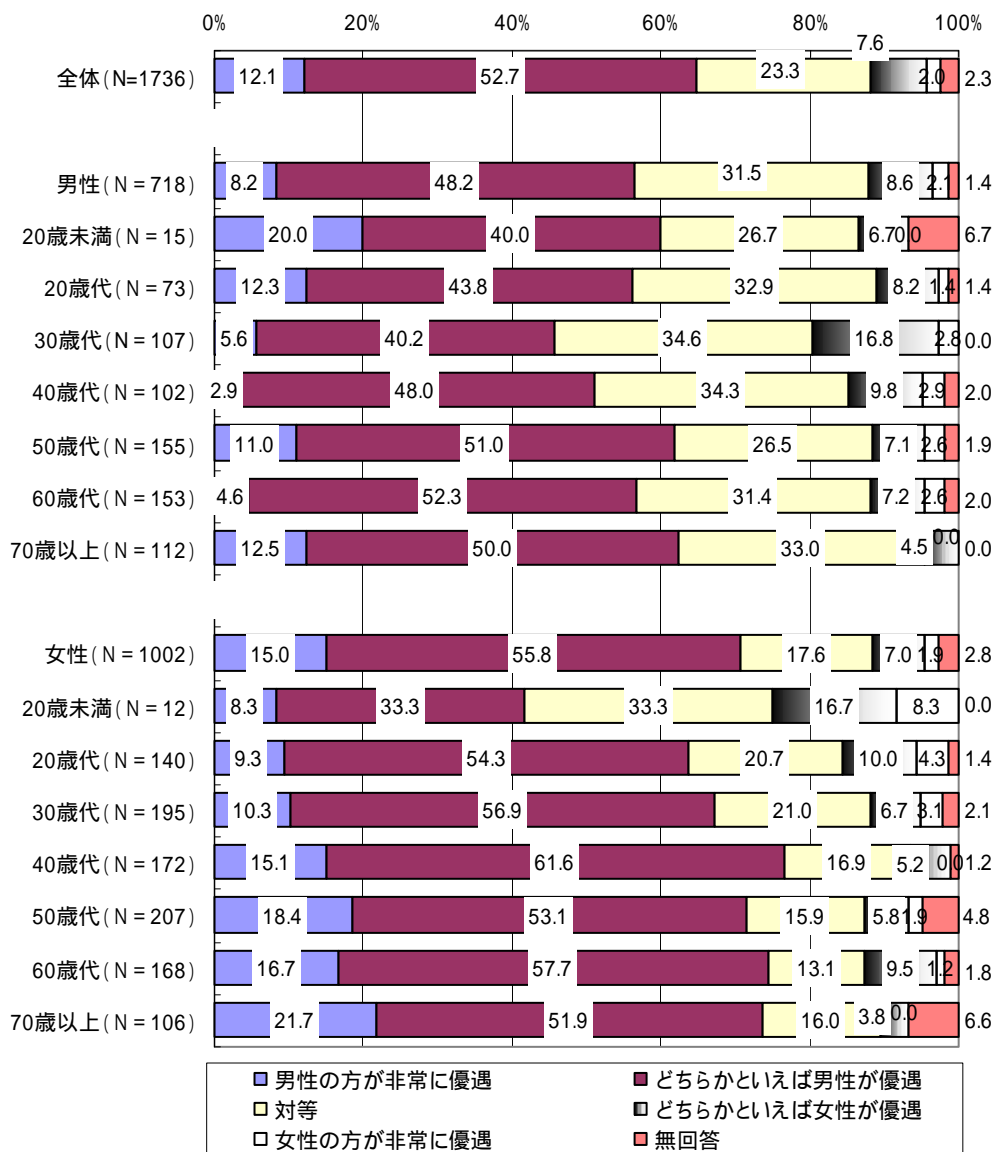
(1) 家庭生活での男女間の不平等感

【属性別にみた傾向】

「男性の方が優遇(計)」と思う割合について性別にみると、男性56.4%、女性70.8%と、男性よりも女性の方が高く、その差は14.4ポイントである。一方、「対等」と思う割合は、男性が31.5%、女性が17.6%と、男性の方が高い。

性・年代別にみると、いずれの年代も「男性の方が優遇(計)」と思う割合は女性が高い。

図表 2 - 8 - 1 家庭生活での男女間の不平等感  
< 性・年代別 >



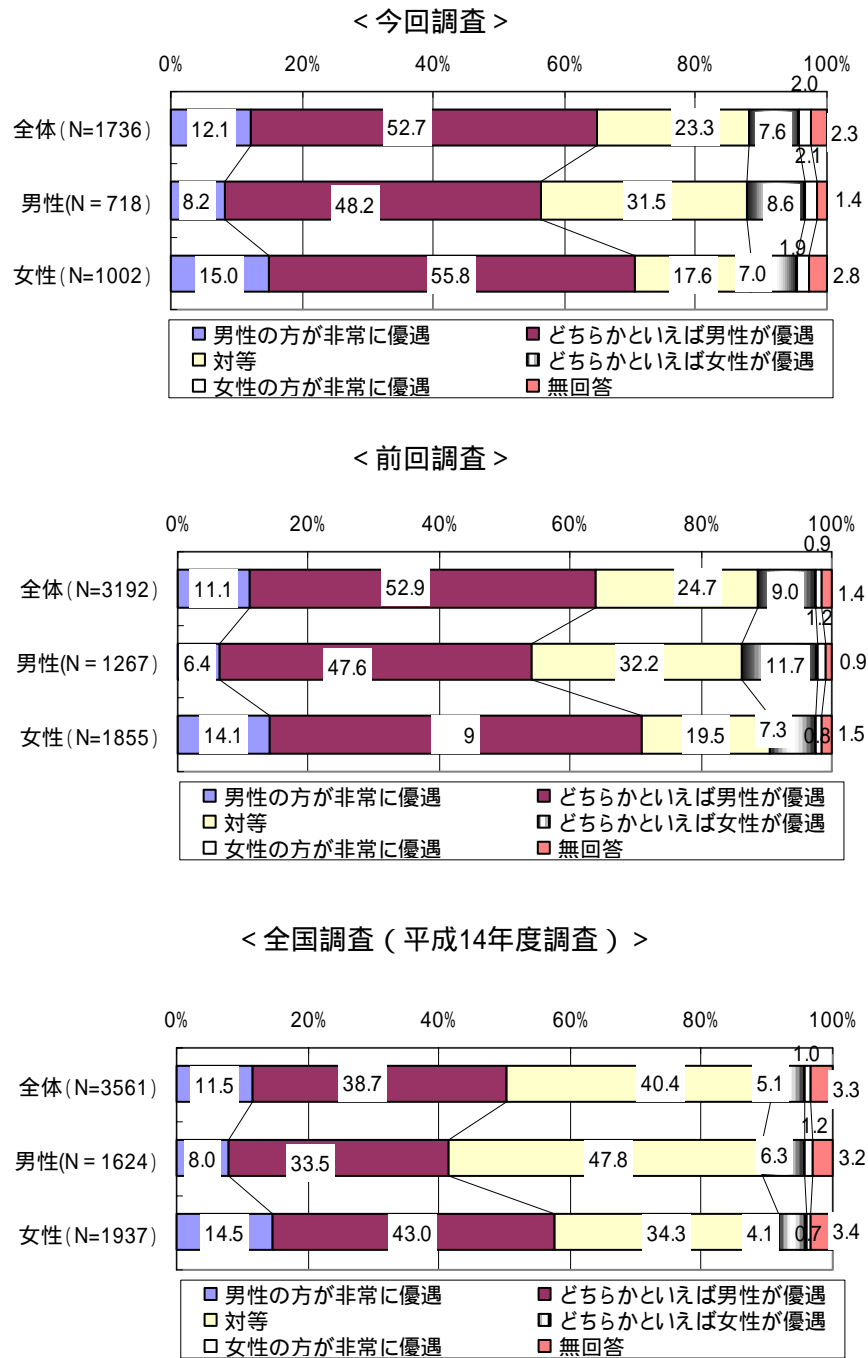
**【前回調査との比較】**

前回調査と比べると、全体では大きな変化はない。

**【全国調査（平成14年度「男女共同参画社会に関する世論調査」）との比較】**

全国調査と比べると、今回調査の方が男女ともに「男性の方が優遇（計）」が高い。

図表 2 - 8 - 2 家庭生活での男女間の不平等感



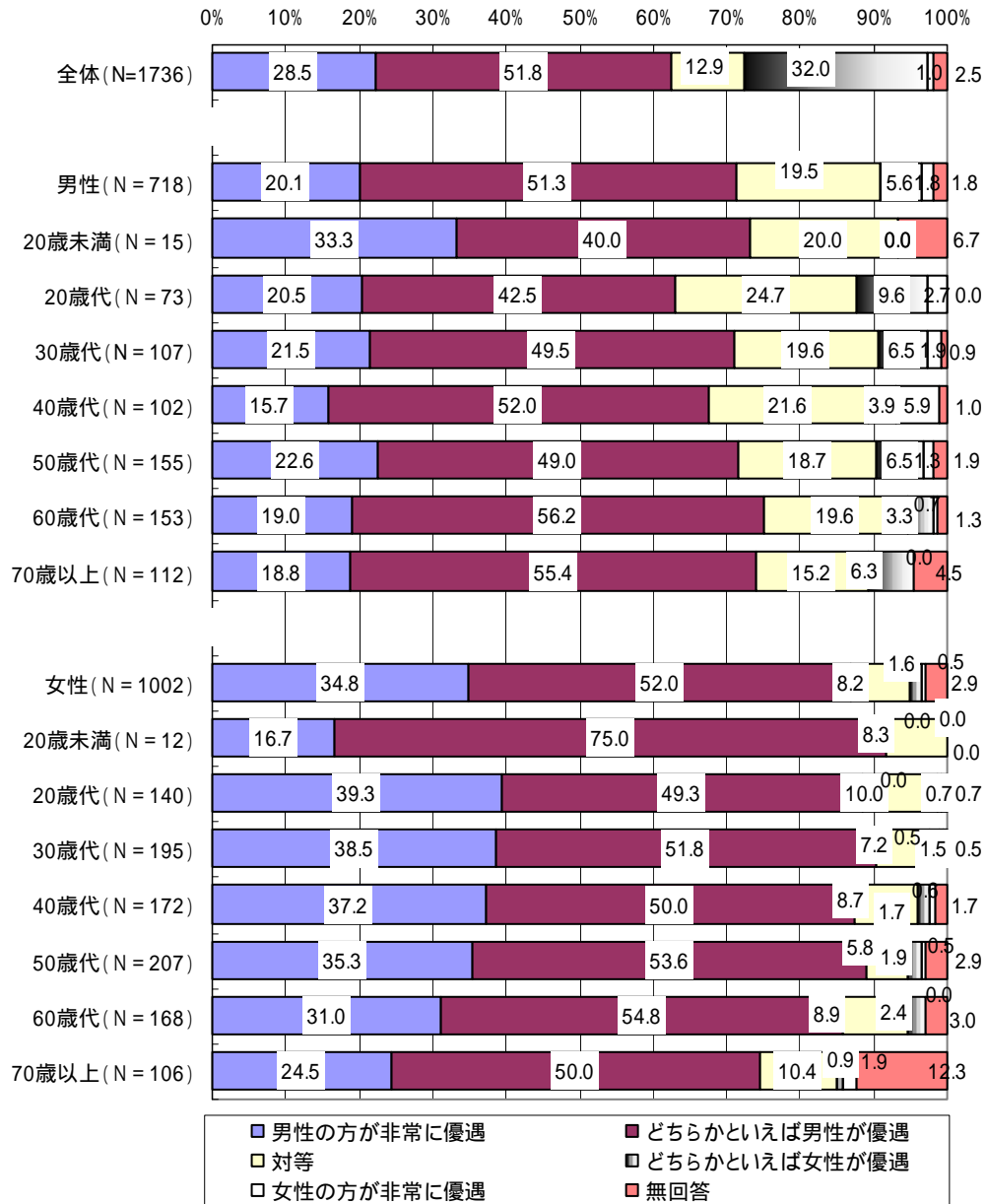
## (2) 職場での男女間の不平等感

### 【属性別にみた傾向】

性別にみると、男性よりも女性に「男性の方が優遇(計)」と思う割合が高く、男性71.4%に対して女性は76.8%である。一方、男性は「対等」と思う割合が19.5%で、女性の8.2%に比べて高くなっている。

性・年代別にみると、全ての年代で男性よりも女性の方が「男性の方が優遇(計)」と思う割合が高い。

図表2 - 9 - 1 職場での男女間の不平等感  
< 性・年代別 >



**【前回調査との比較】**

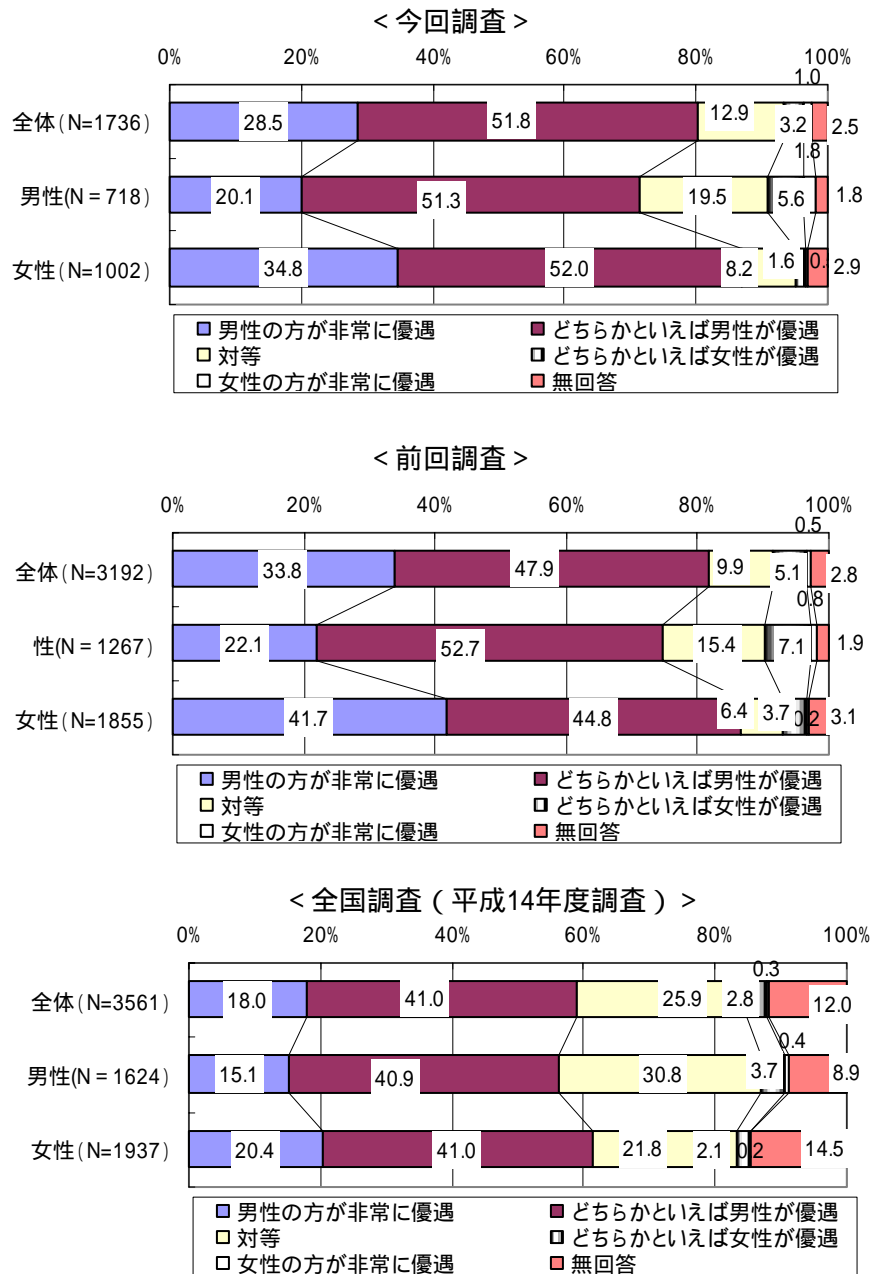
前回調査においても、男女ともに「男性の方が優遇（計）」の割合が高かった。今回調査も同様であるが、「対等」と思う割合が男女とも若干増加している。

性別にみると、男性は大きな変化はみられないが、女性は「男性の方が非常に優遇」の割合が減り、「どちらかといえば男性が優遇」の割合が増加している。

**【全国調査（平成14年度「男女共同参画社会に関する世論調査」）との比較】**

全国調査でも、男女ともに「男性の方が優遇（計）」の割合が高いが、今回調査の方がその割合は高く、「対等」の割合が低い。

図表 2 - 9 - 2 職場での男女間の不平等感

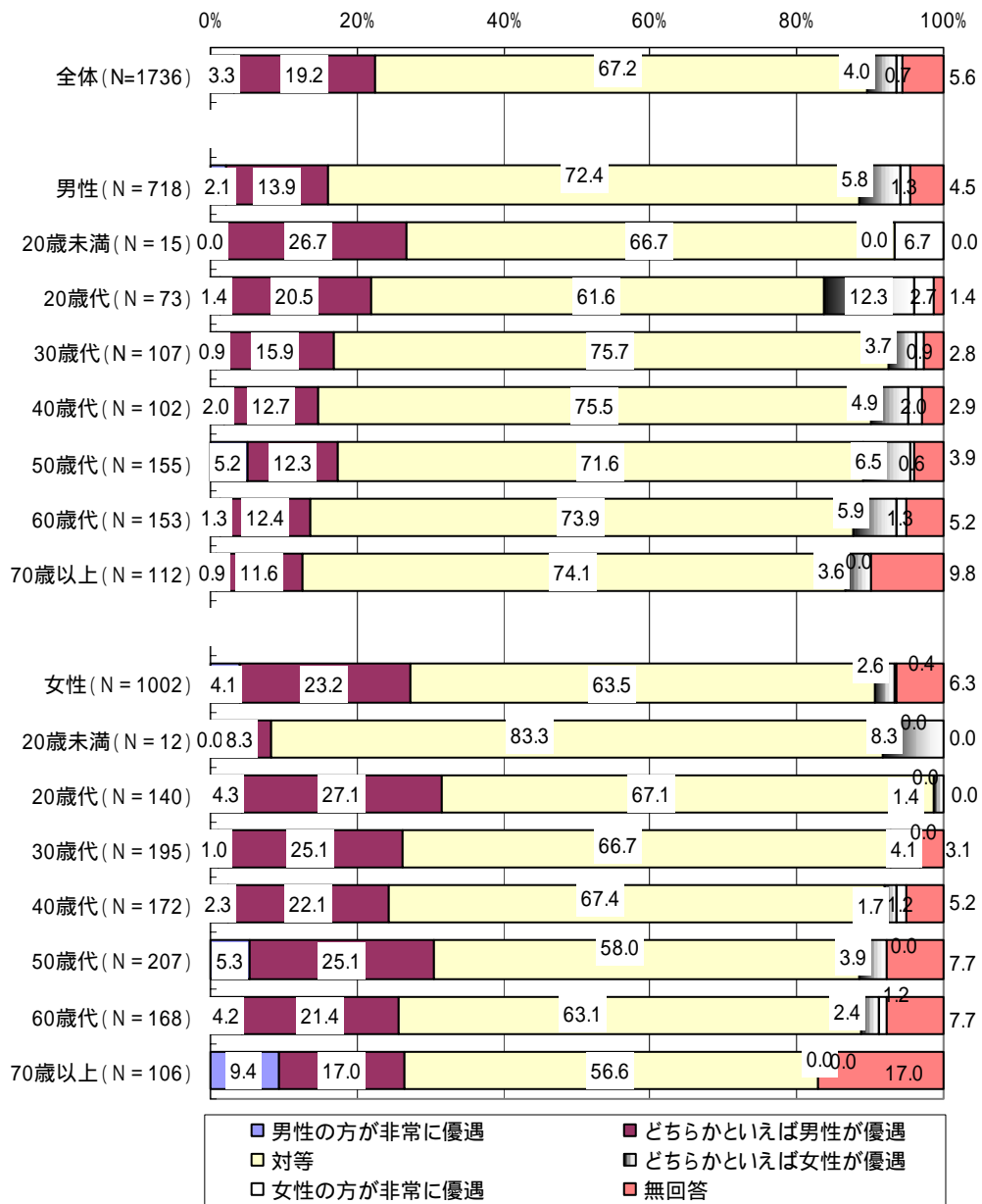


### (3) 学校教育の場での男女間の不平等感

#### 【属性別にみた傾向】

性別にみると、男女ともに「対等」の割合が高く、男性72.4%、女性63.5%である。  
 性・年代別にみても、いずれも「対等」の割合が最も高い。

図表2 - 10 - 1 学校教育の場での男女間の不平等感  
 < 性・年代別 >



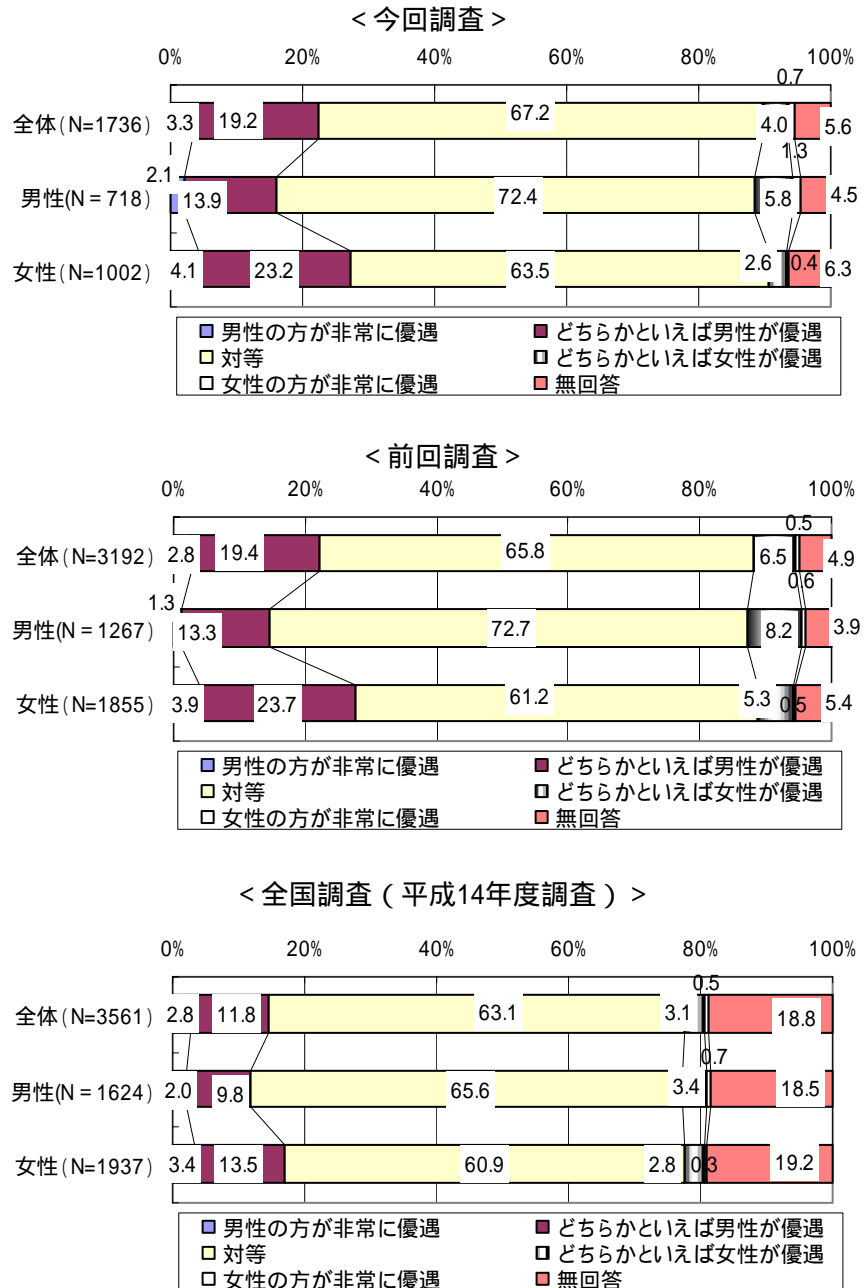
【前回調査との比較】

わずかながら「対等」の割合が高まっているが、大きな変化はみられない。

【全国調査（平成14年度「男女共同参画社会に関する世論調査」）との比較】

全国調査でもほぼ同様の傾向であるが、今回調査の方が「対等」の割合が高い。

図表 2 - 10 - 2 学校教育の場での男女間の不平等感



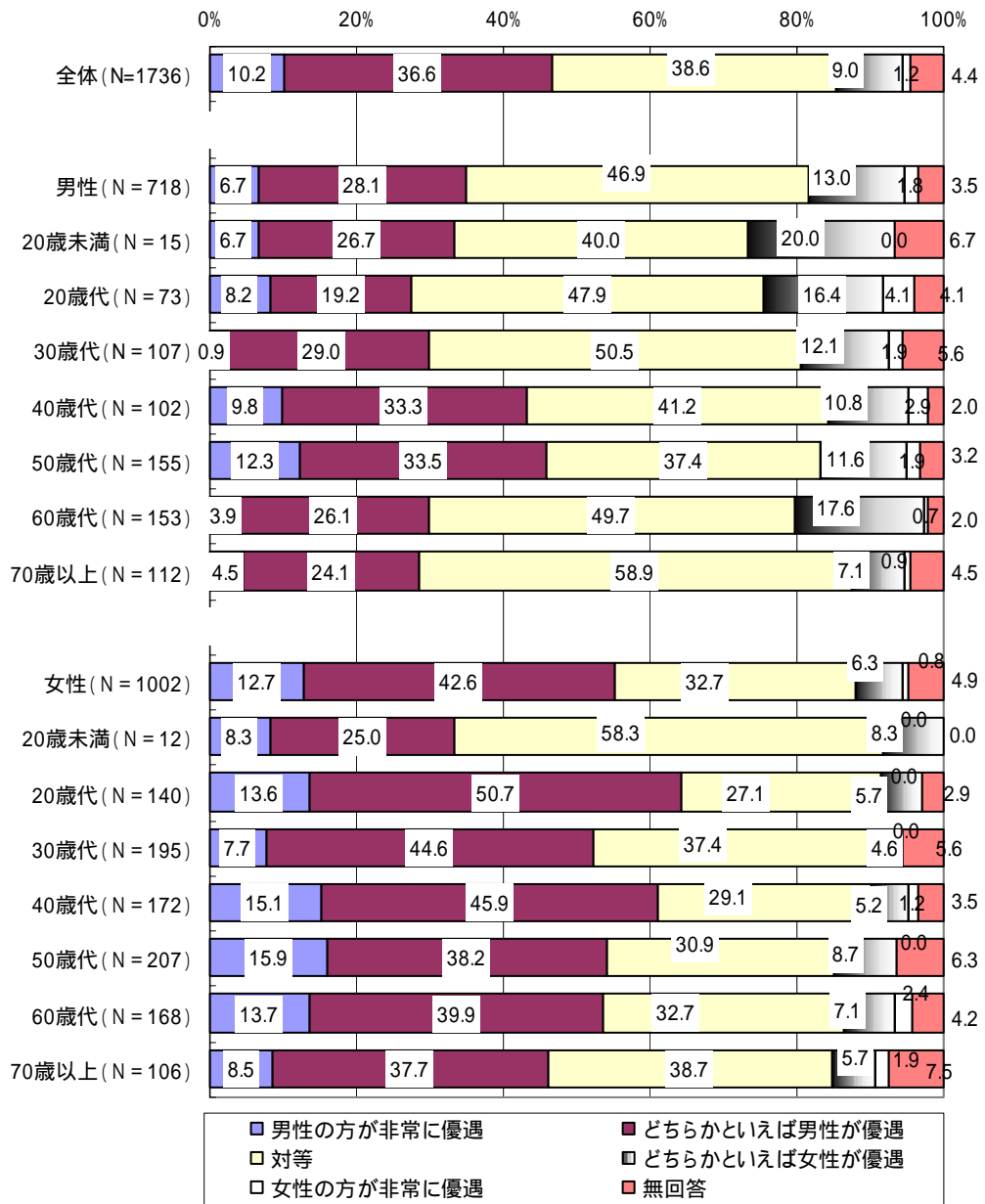


(4) 町内会・自治会活動での男女間の不平等感

【属性別にみた傾向】

性別にみると、男性は「対等」が46.9%、「男性の方が優遇（計）」が34.8%と、「対等」の割合が高いのに対し、女性は「男性の方が優遇（計）」が55.3%、「対等」が32.7%と、「男性の方が優遇（計）」が5割を超えており、男女の意識の差がみられる。

図表2 - 11 - 1 町内会・自治会活動での男女間の不平等感  
< 性・年代別 >

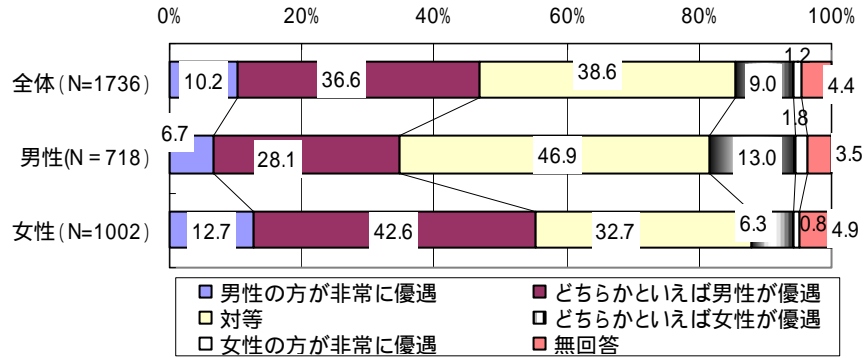


【前回調査との比較】

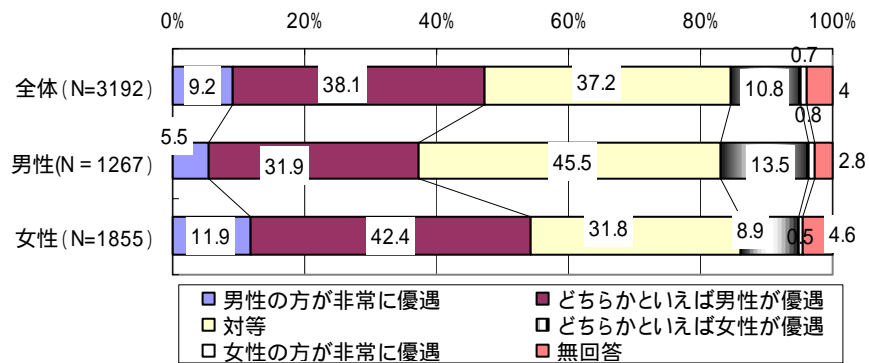
前回調査と比べて大きな差はみられない。

図表 2 - 11 - 2 町内会・自治会活動での男女間の不平等感

< 今回調査 >



< 前回調査 >



( 5 ) 政治の場での男女間の不平等感

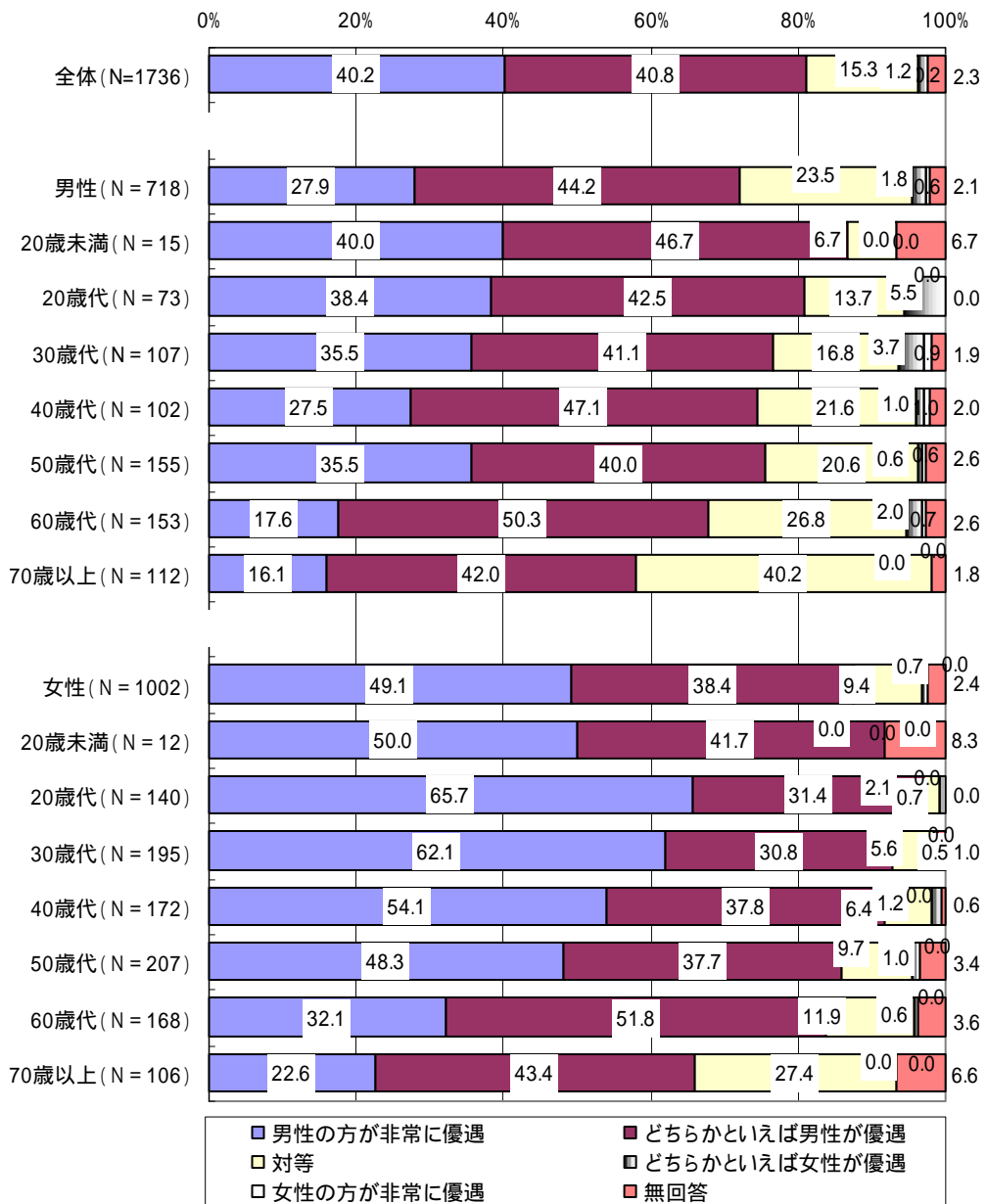
【属性別にみた傾向】

性別にみると、男女ともに「男性の方が優遇(計)」が高く、男性72.1%、女性87.5%である。

特に女性の「男性の方が非常に優遇」の割合が49.1%と高いが目立つ。また、男性は23.5%が「対等」と答えており、女性の「対等」の割合9.4%を大きく上回っている。

性・年代別にみると男女ともに年代が上がるにつれて、「男性の方が優遇(計)」の割合が減り、「対等」の割合が増えている。特に70歳以上では男性の40.2%、女性の27.4%が「対等」と答えている。

図表 2 - 12 - 1 政治の場での男女間の不平等感  
< 性・年代別 >



**【前回調査との比較】**

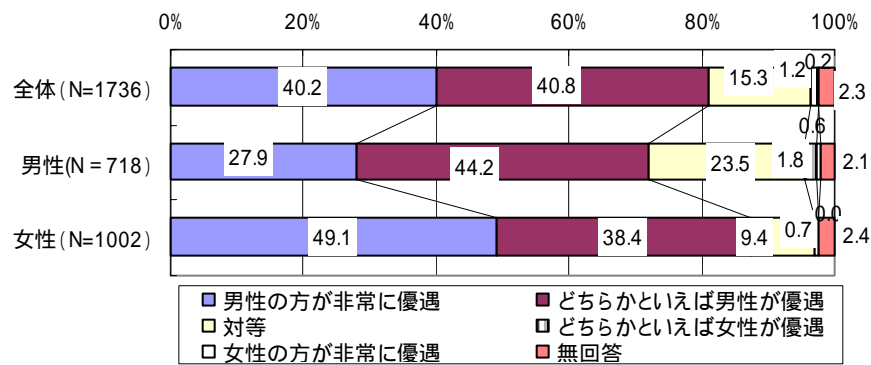
前回調査と比べて、男女ともに「男性の方が優遇（計）」の割合が減少し、「対等」と思う割合が増加している。女性では「男性の方が非常に優遇されている」が減り、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が増えている。

**【全国調査（平成14年度「男女共同参画社会に関する世論調査」）との比較】**

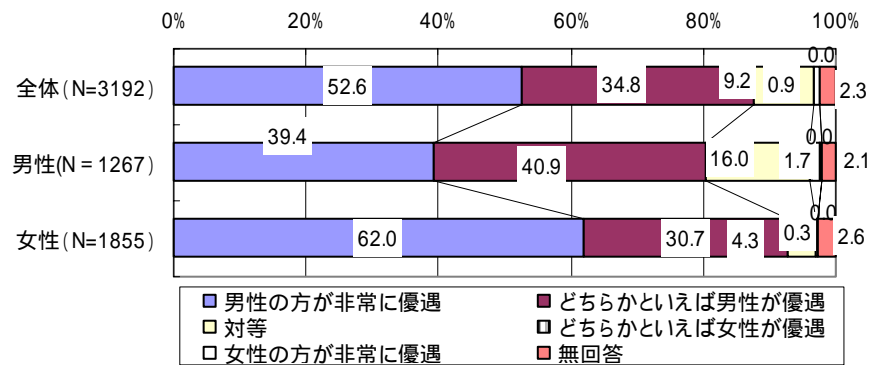
男性は大きな違いはないが、女性は全国調査に比べ「男性の方が優遇（計）」と思う割合が高く、「対等」の割合が低い。

図表 2 - 12 - 2 政治の場での男女間の不平等感

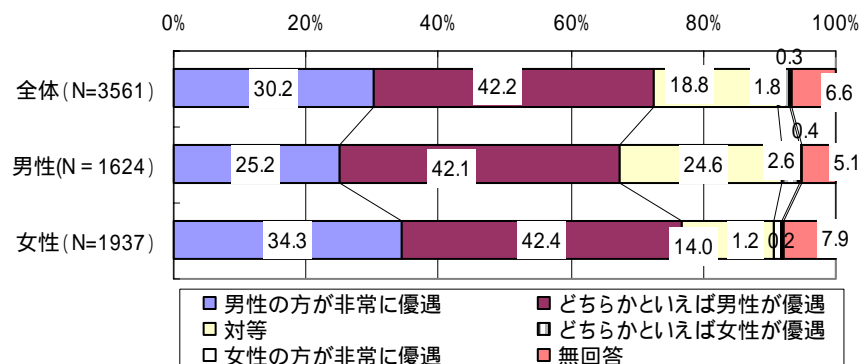
< 今回調査 >



< 前回調査 >



< 全国調査（平成14年度調査） >



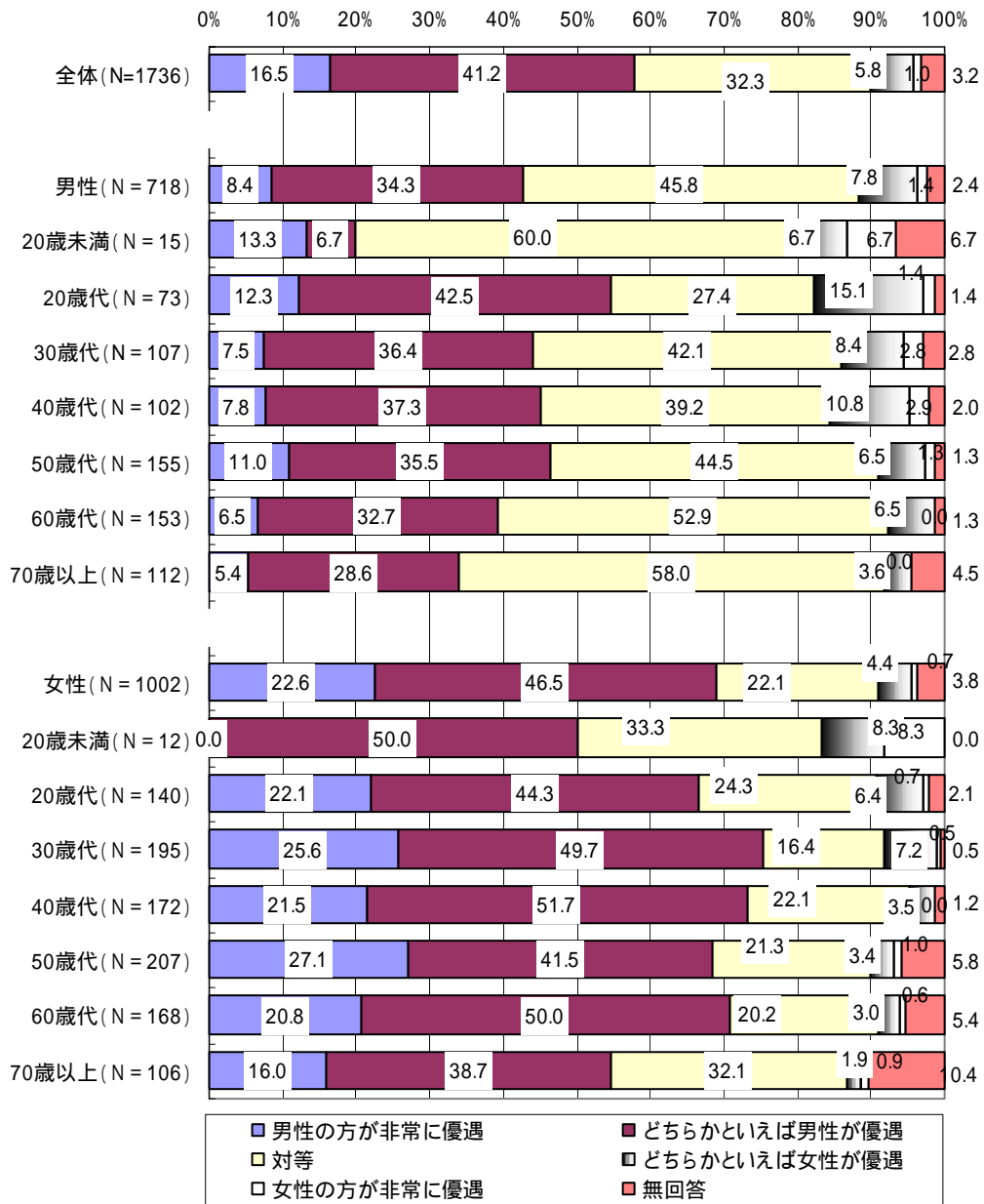
(6) 法律や制度の上での男女間の不平等感

【属性別にみた傾向】

性別にみると、「男性の方が優遇（計）」は男性が42.7%、女性が69.1%と、男性よりも女性の方が高い。一方、男性は「対等」の割合が45.8%と高く、女性の22.1%を上回っている。

男性について年代別にみると、20歳代は「どちらかといえば男性が優遇」が高いが、30歳代以上は「対等」の割合が高い。女性の場合は、いずれの年代でも「どちらかといえば男性が優遇」が高い。しかし70歳以上では「対等」が32.1%と、他の年代に比べて高い。

図表 2 - 13 - 1 法律や制度の上での男女間の不平等感  
< 性・年代別 >



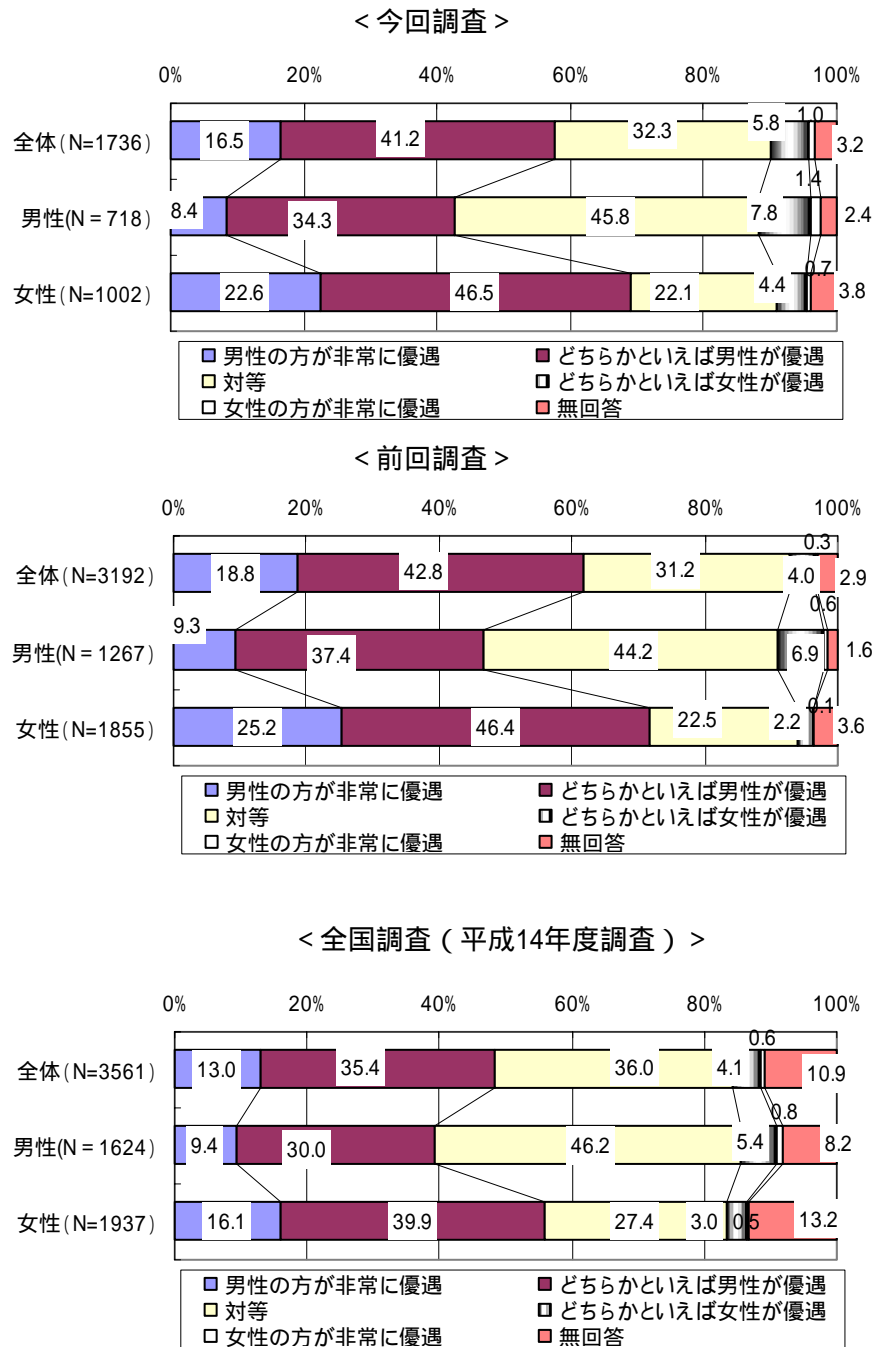
**【前回調査との比較】**

前回調査と比べて大きな差はみられない。

**【全国調査（平成14年度「男女共同参画社会に関する世論調査」）との比較】**

全国調査と比べた場合、男性は大きな違いはないが、女性は「男性の方が優遇（計）」と思う割合が多く、「対等」の割合が少ない。

図表 2 - 13 - 2 法律や制度の上での男女間の不平等感

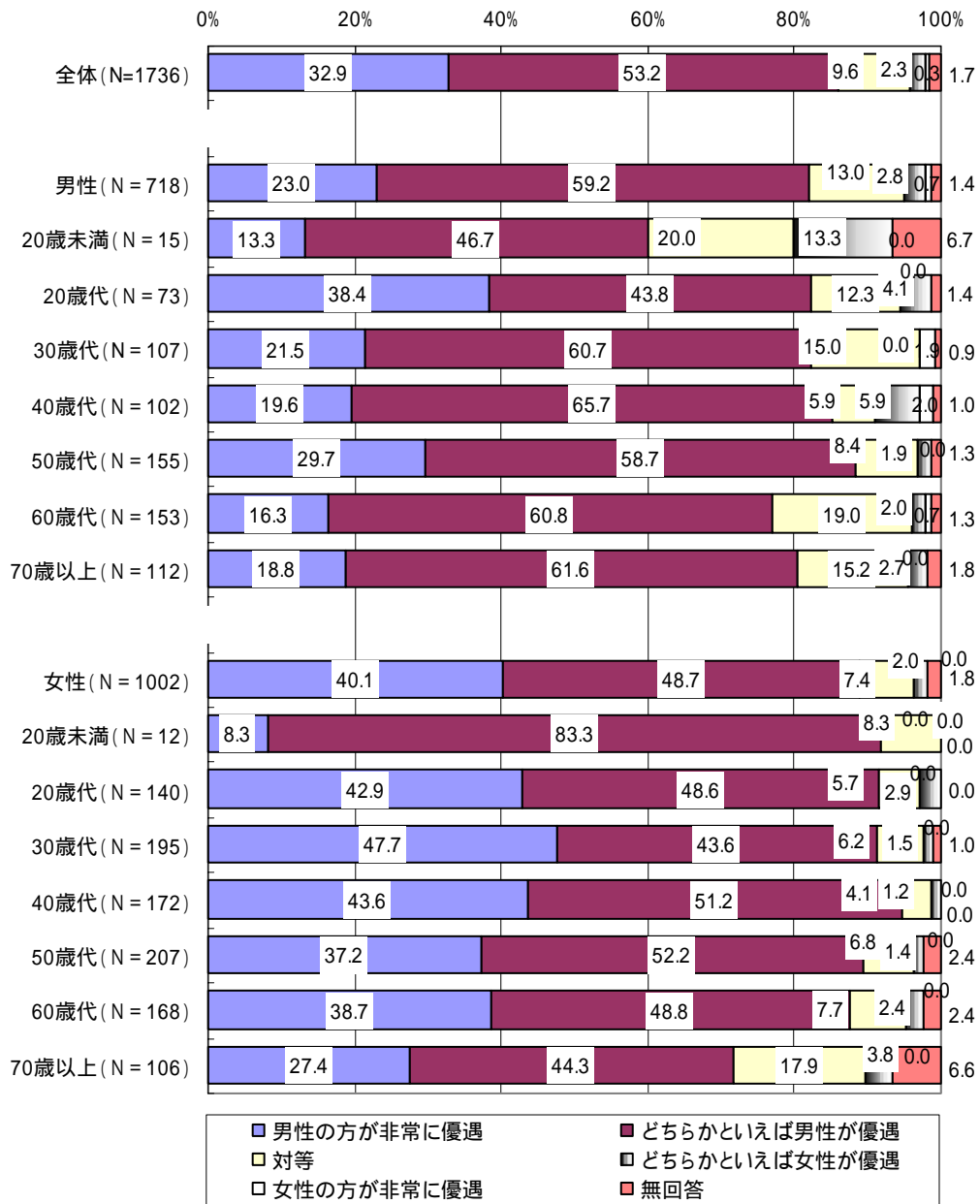


(7) 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女間の不平等感

【属性別にみた傾向】

年代を問わず、男女ともに「男性の方が優遇(計)」の割合が高い。性・年代別にみても同様の傾向である。

図表2 - 14 - 1 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女間の不平等感  
<性・年代別>



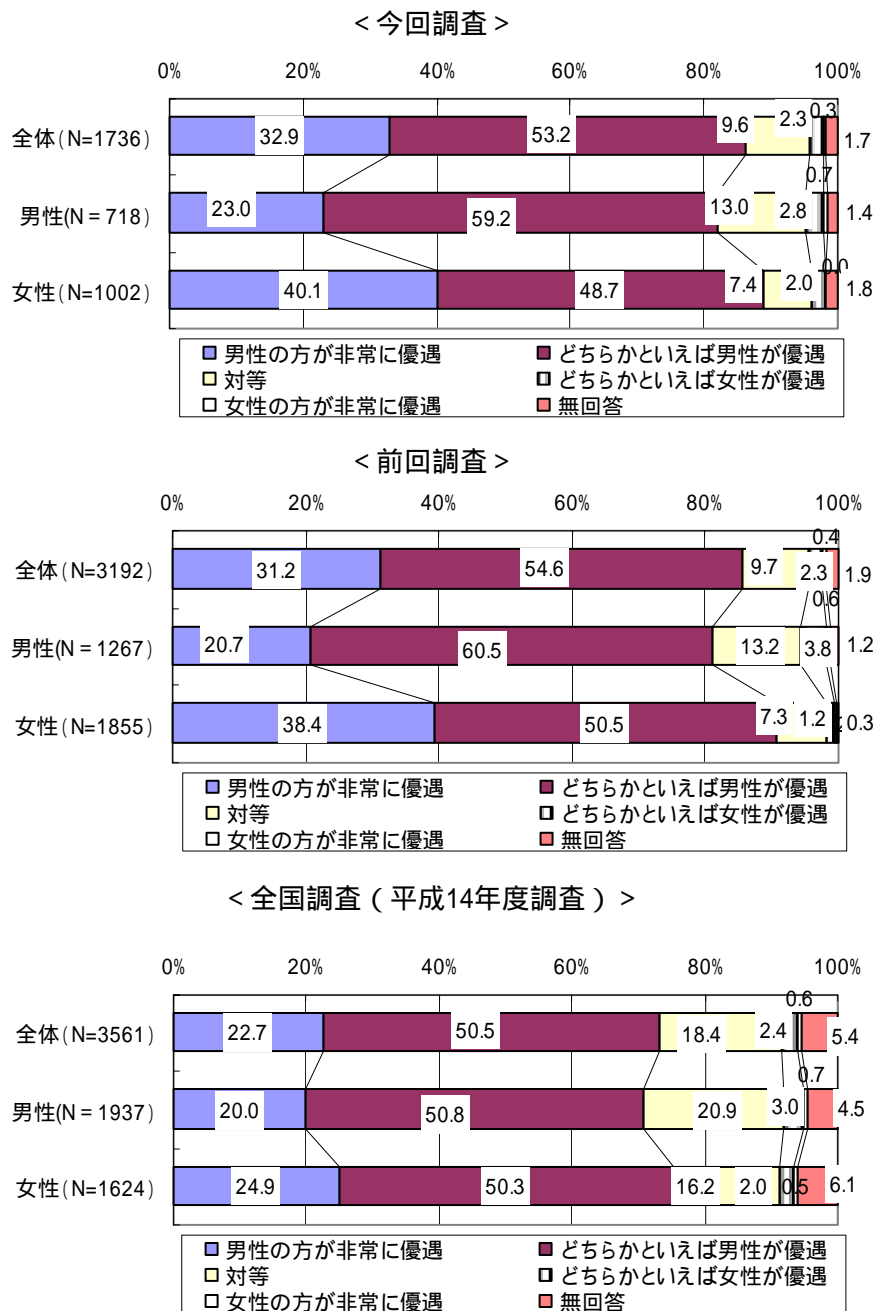
**【前回調査との比較】**

「男性の方が優遇（計）」の割合としては大きな差はみられないが、その内訳をみると、男女とも「男性の方が非常に優遇」が増え、「どちらかといえば男性が優遇」が減っている。

**【全国調査（平成14年度「男女共同参画社会に関する世論調査」）との比較】**

全国調査と比べ、今回調査の方が男女ともに「男性の方が優遇（計）」の割合が高く、「平等」の割合は男女ともに低い。

図表 2 - 14 - 2 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女間の不平等感



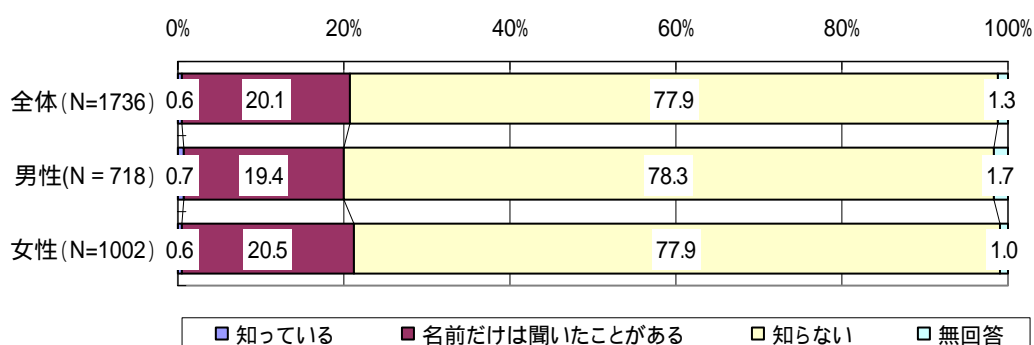


3 「横浜市男女共同参画推進条例」、「横浜市男女共同参画行動計画」の周知（問3）

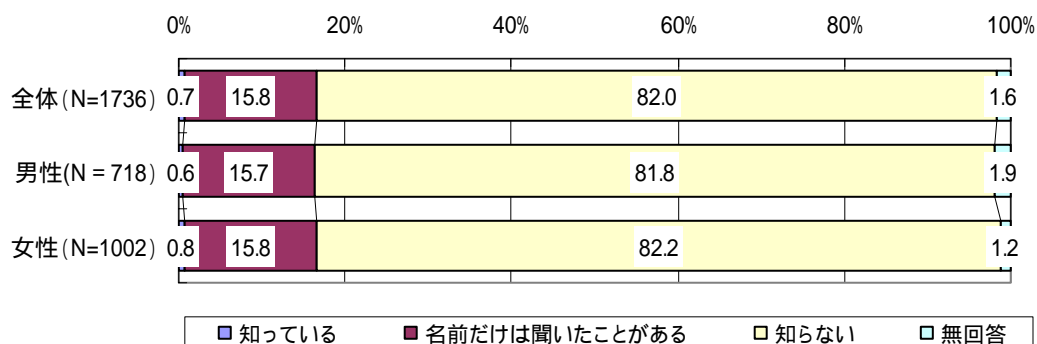
横浜市で策定した「横浜市男女共同参画推進条例」や「横浜市男女共同参画行動計画（いきいき 未来計画）」を知っているか、たずねた。

いずれについても、男女ともに「知らない」が多い。

図表 2 - 15 「横浜市男女共同参画推進条例」の周知



図表 2 - 16 「横浜市男女共同参画行動計画」の周知



### 第3章 家事・育児・介護などの家庭生活の場面での分担について

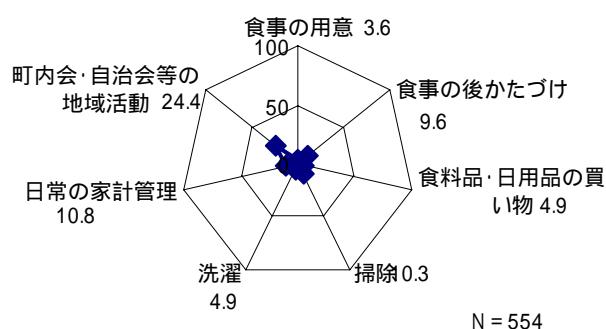
#### 1 家事における役割分担の実態（問4）

「既婚者で配偶者と同居」あるいは「結婚していないがパートナーと同居」の1,273人（全体の73.3%）に、「食事の用意」「食事の後かたづけ」「食料品・日用品の買い物」「掃除」「洗濯」「日常の家計管理」「町内会・自治会等の地域活動」の7項目の役割分担についてたずねた。

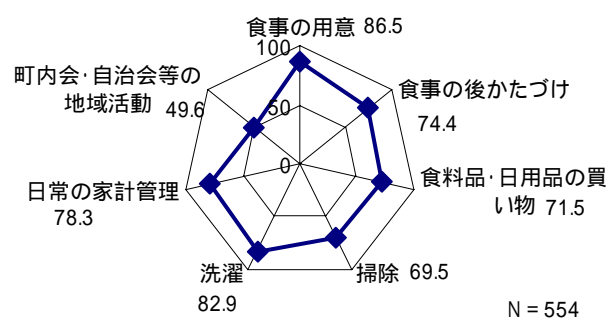
男性の場合、「自分が担う」と回答した割合は、「町内会・自治会等の地域活動」の24.4%以外は、いずれの項目でも10%以下である。逆に「配偶者が担う」と回答した割合は、「町内会・自治会等の地域の活動」が49.6%である以外は、どの項目も70%以上となっている。

図表3-1 家事における役割分担の実態（男性）

<自分が担う>



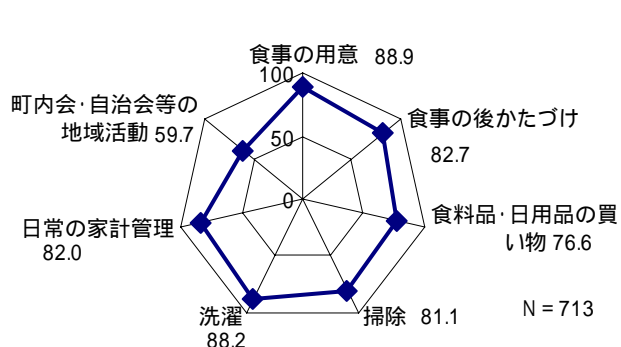
<配偶者が担う>



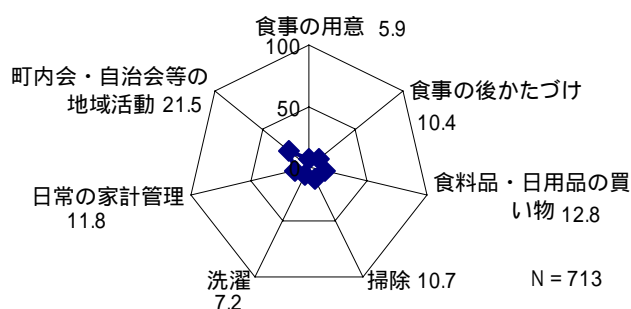
一方、女性の場合、「自分が担う」をみると、「町内会・自治会等の地域活動」の59.7%を除いて、全ての項目で80%近い高い割合を示している。

図表3-2 家事における役割分担の実態（女性）

<自分が担う>



<配偶者が担う>



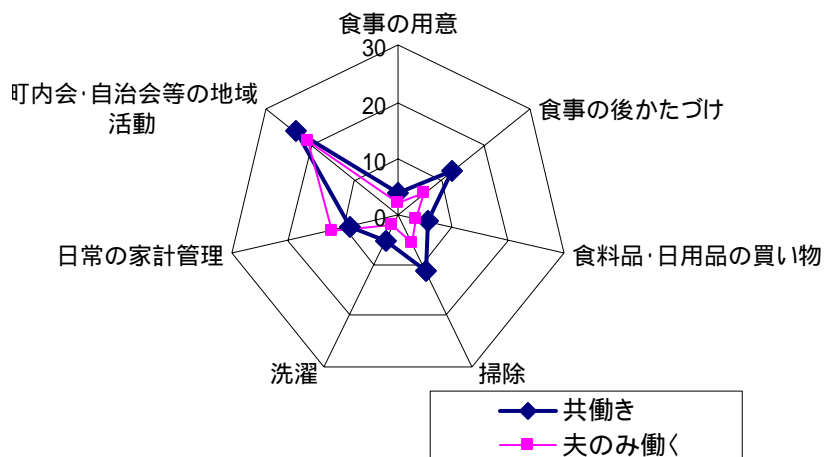
さらに家族類型別にみると、男性は、「共働き」でも「夫のみ働く」でも自分が家事を担っている人の割合は低い、「町内会・自治会等の地域活動」だけは23.4%となっている。

一方、女性は「共働き」でも「夫のみ働く」でも自分で家事を担っている人の割合が高い。このことから、共働きかどうかということが家事分担の大きな要因とはならないことがうかがえる。

図表3-3 家族型別にみた家事における役割の分担の実態（自分が担う割合）

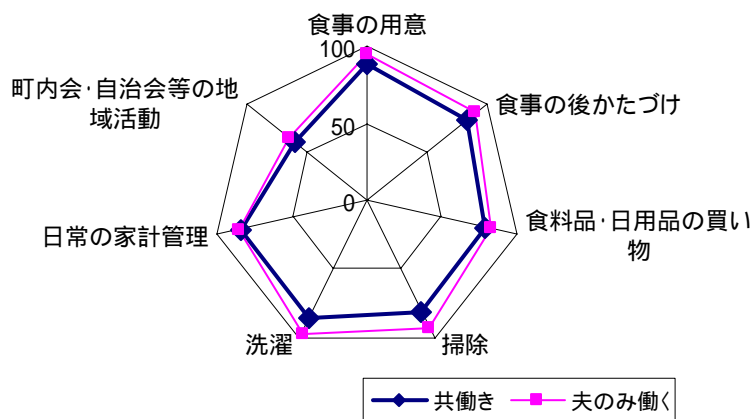
男性

男性	共働き	夫のみ働く
食事の用意	3.8	2.2
食事の後かたづけ	12.5	6.0
食料品・日用品の買い物	5.4	3.3
掃除	10.9	5.5
洗濯	4.9	2.2
日常の家計管理	8.7	12.1
町内会・自治会等の地域活動	23.4	20.3



女性

女性	共働き	夫のみ働く
食事の用意	88.4	94.4
食事の後かたづけ	82.5	91.3
食料品・日用品の買い物	79.3	82.9
掃除	80.0	92.1
洗濯	85.6	95.6
日常の家計管理	83.9	85.7
町内会・自治会等の地域活動	59.7	64.3



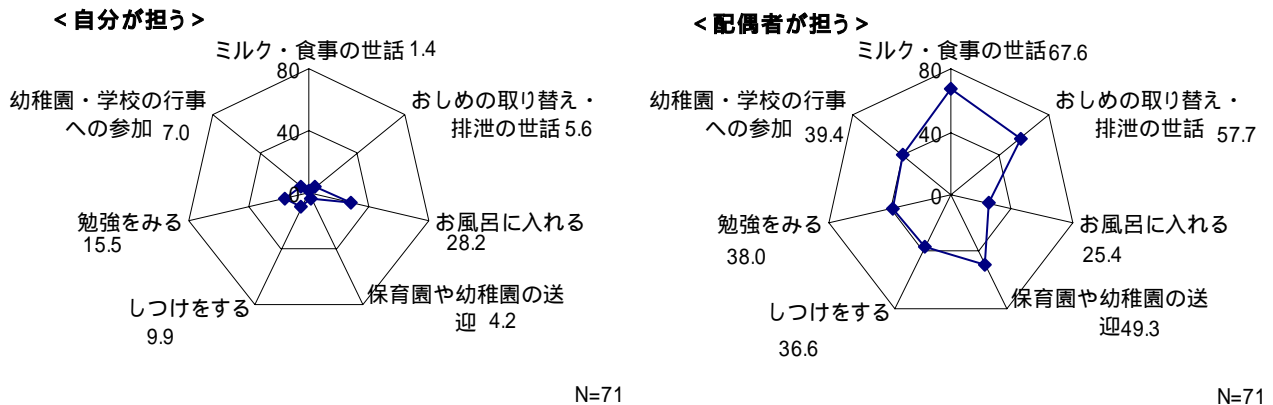
## 2 育児における役割分担の実態（問5）

「既婚者で配偶者と同居」あるいは「結婚していないがパートナーと同居」で、なおかつ小学生以下の子どもがいる236人（全体の13.6%）に、「ミルク・食事の世話」「おしめの取り替え・排泄の世話」「お風呂に入れる」「保育園や幼稚園の送迎」「しつけをする」「勉強をみる」「幼稚園・学校の行事への参加」の育児に関する7項目について役割分担の実態をたずねた。

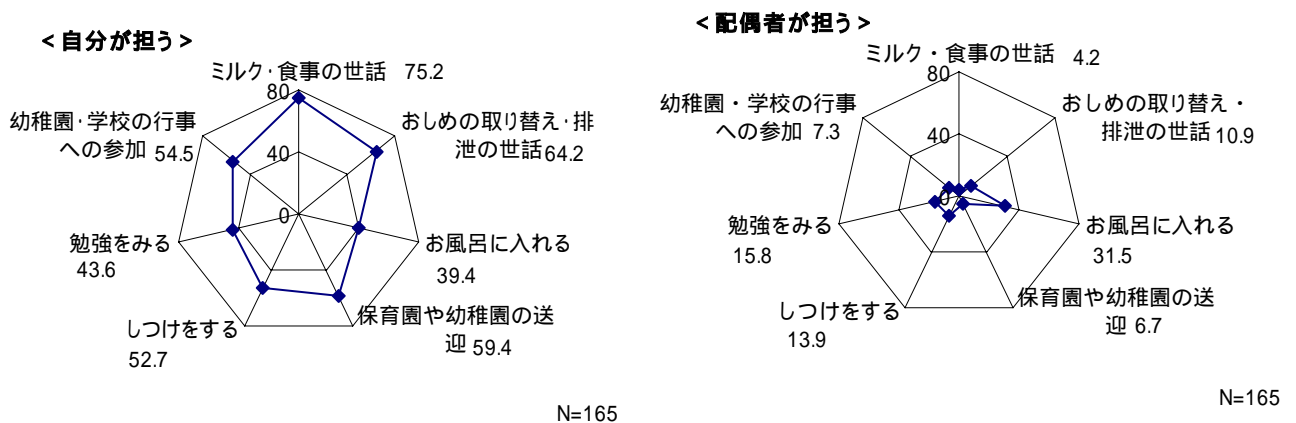
男性の「自分が担う」の割合をみると、「お風呂に入れる」(28.2%)、「勉強をみる」(15.5%)以外の項目は10%未満である。

一方、女性の「自分が担う」の割合をみると、「お風呂に入れる」(39.4%)、「勉強をみる」(43.6%)以外の項目は50%を超え、特に「ミルク・食事の世話」は75.2%になっている。

図表3 - 4 育児における役割分担の実態（男性）



図表3 - 5 育児における役割分担の実態（女性）

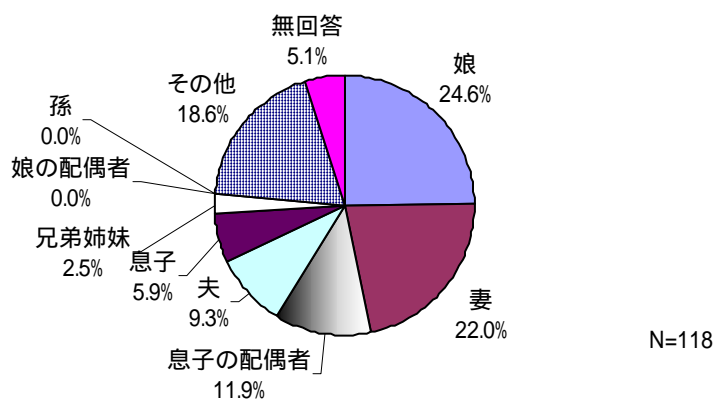


### 3 介護における役割分担の実態（問6）

介護が必要な人と同居している118人（全体の6.8%）に、主に誰が介護を担っているかをたずねた。

主な介護者（要介護者からみた続柄）は、「娘」が24.6%と最も高く、「妻」22.0%、「息子の配偶者」11.9%となっており、女性が介護を担うケースが多くみられる。

図表3 - 6 要介護者を主に介護する人



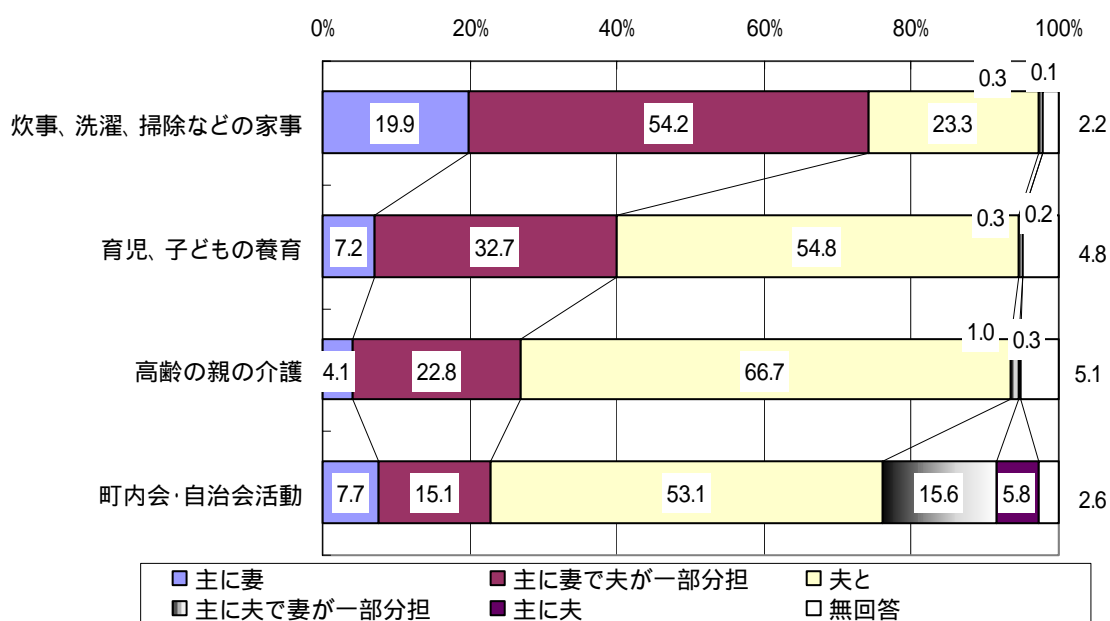
#### 4 家事・育児・介護における役割分担の理想（問7）

家庭における4つの仕事について、夫と妻のどちらが行うのが望ましいかをたずねた。

「炊事、洗濯、掃除などの家事」では、「主に妻で一部夫が分担」が54.2%、「主に妻」が19.9%で、合計74.1%の人が妻の役割と考えている。「育児、子どもの養育」「高齢の親の介護」「町内会・自治会活動」は「夫と妻と同じ程度分担」を理想とする割合が高い。

「町内会・自治会活動」については、「主に夫で妻が一部負担」15.6%、「主に夫」5.8%で、合計21.4%の人が夫の役割と考えている。

図表3 - 7 家事・育児・介護における役割分担の理想

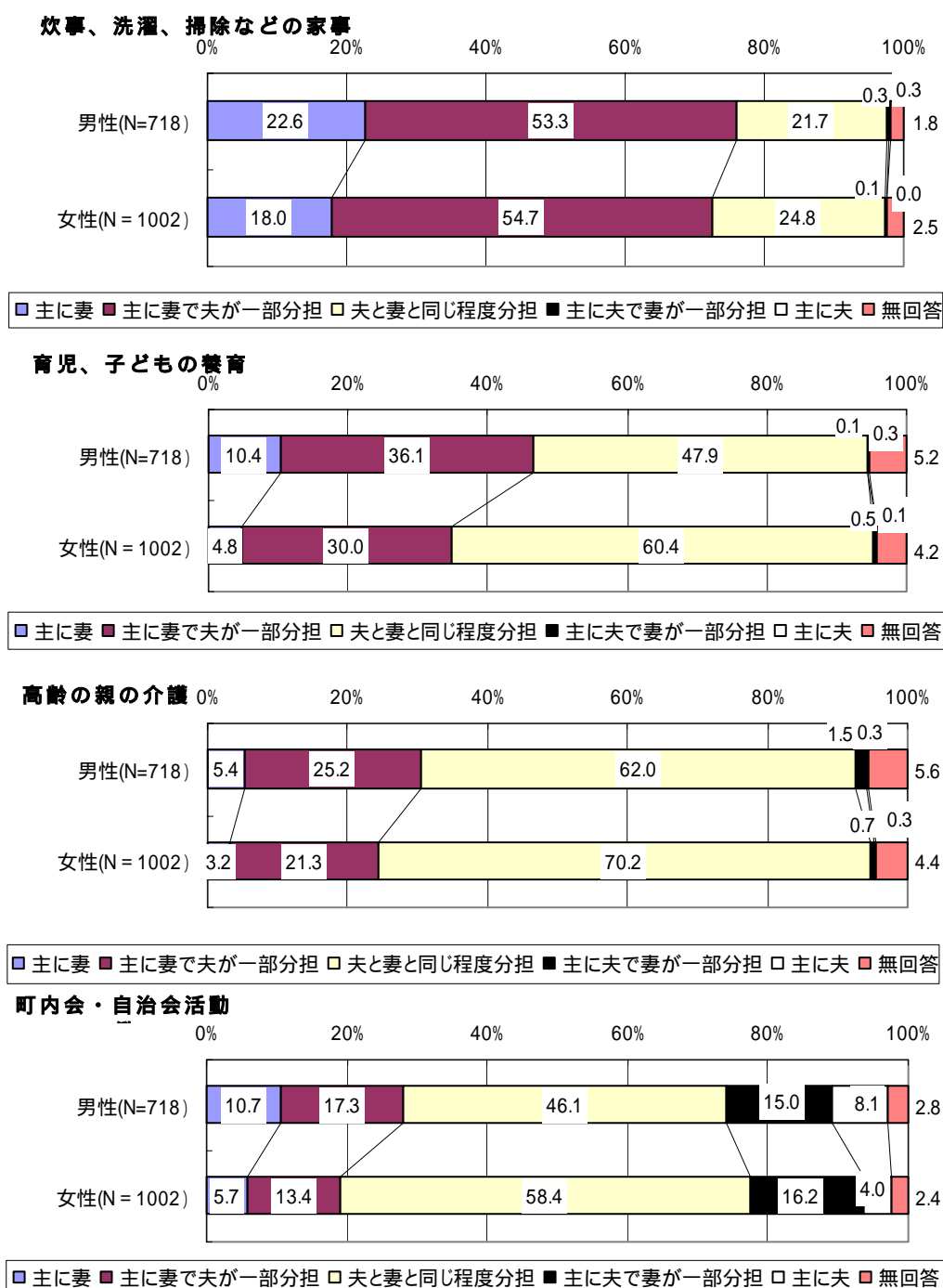


N=1736

### 【属性別にみた傾向】

「育児、子どもの養育」について、男性は「夫と妻と同じ程度分担」が47.9%と最も高く、「主に妻」10.4%と「主に妻で夫が一部分担」36.1%の合計46.5%を若干上回っている。一方、女性は60.4%が「夫と妻と同じ程度分担」と答えている。また、「高齢の親の介護」については、「夫と妻も同じ程度分担」が男性で62.0%、女性で70.2%となっており、男女ともに他の項目に比べて高い。「町内会・自治会活動」については、「夫と妻と同じ程度分担」が男性46.1%、女性58.4%と男女ともに最も高いが、「主に夫で妻が一部分担」と「主に夫」の合計が男性23.1%、女性20.2%となっており、他の項目とは異なっている。

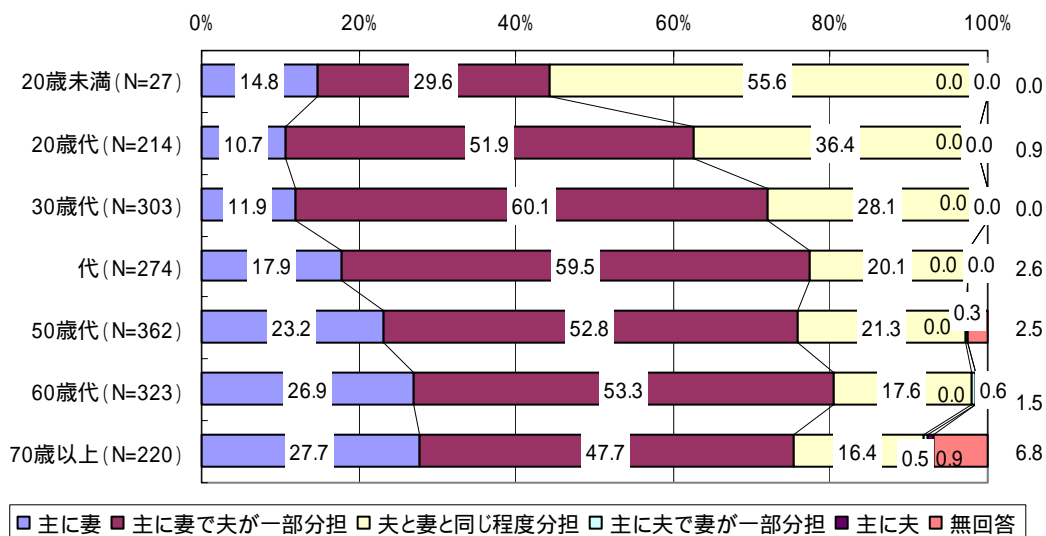
図表3 - 8 性別にみた家事・育児・介護における役割分担の理想



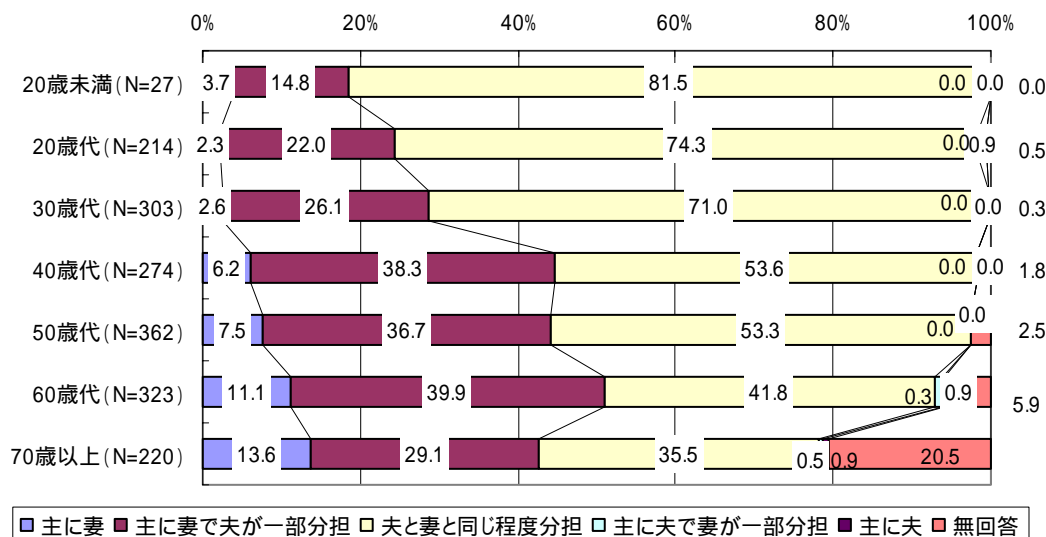
年代別にみると、いずれの項目も若い人ほど「夫と妻と同じ程度分担」を理想とする割合が高い。特に「育児、子どもの養育」では、30歳代以下は「主に妻」の割合が低く、「夫と妻と同じ程度分担」の割合が高い。「主に妻」の割合は年代が上がるにつれて高くなっている。

図表3-9 年代別にみた家事・育児・介護における役割分担の理想

**炊事、洗濯、掃除などの家事**

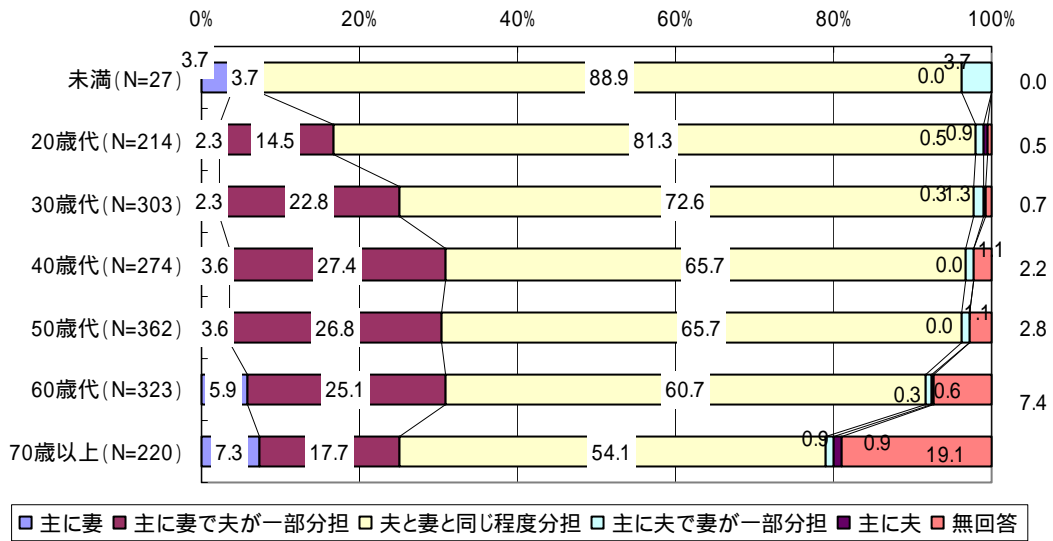


**育児、子どもの養育**

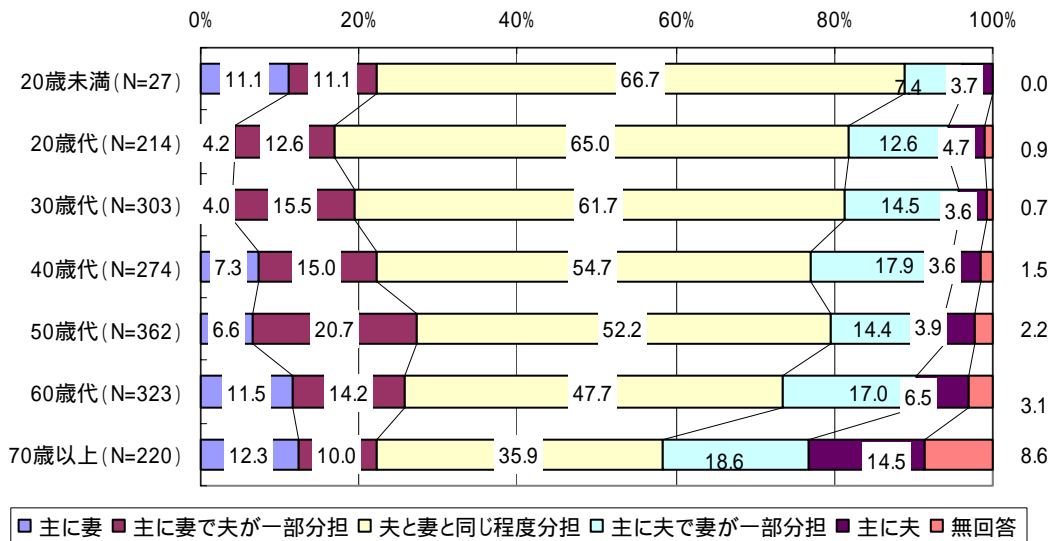




### 高齢の親の介護



### 町内会・自治会活動



5 育児休業制度や介護休業制度に対する意識（問8）

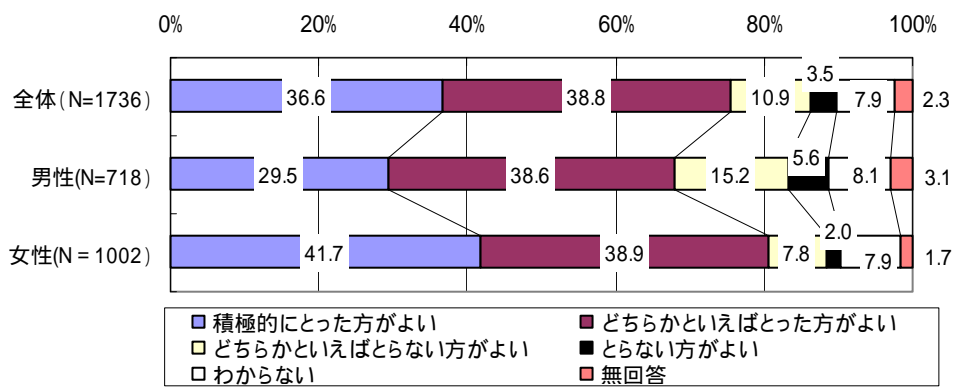
「育児休業制度」を男性がとることについてたずねた。

「どちらかといえばとった方がよい」が38.8%、「積極的にとった方がよい」が36.6%で、合わせて75.4%が肯定的な意見である。

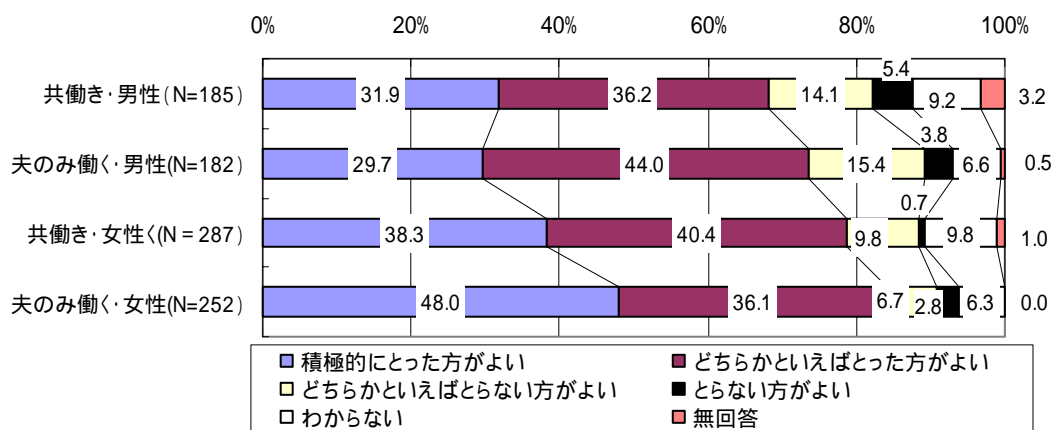
性別にみると、男性よりも女性の方にその割合が高い。

性・家族類型別にみると、「共働き・女性」よりも「夫のみ働く・女性」の方が「積極的にとった方がよい」の割合が高い。

図表3 - 10 性別にみた育児休業制度に対する意識



図表3 - 11 性・家族類型別にみた育児休業制度に対する意識

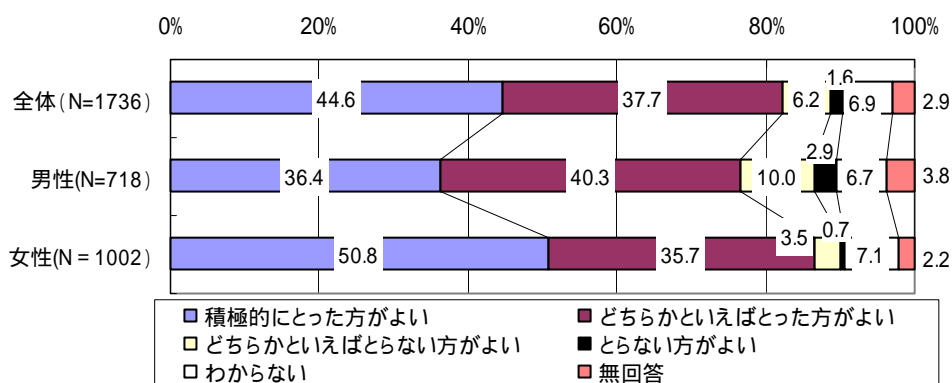


「介護休業制度」を男性がとることについても、「どちらかといえばとった方がよい」が37.7%、「積極的にとった方がよい」が44.6%で、合わせて82.3%と、「育児休業制度」よりもさらに肯定的な意見が多い。

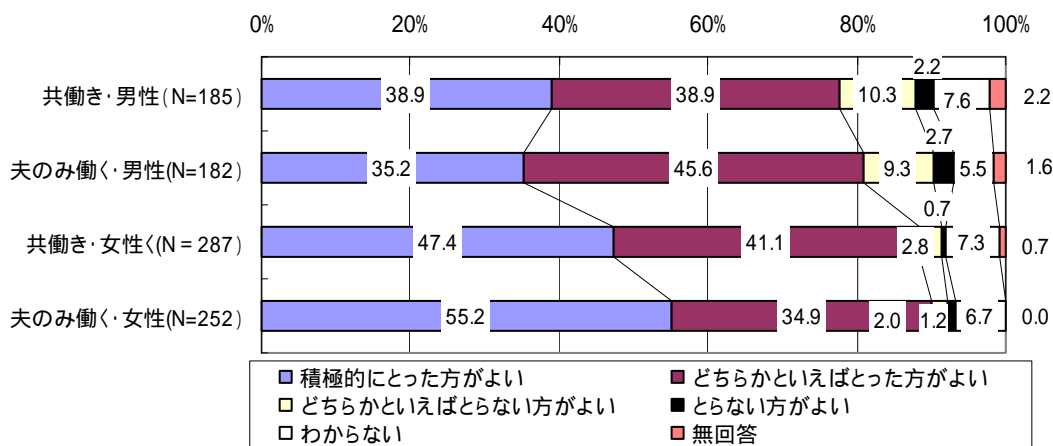
性別にみると、男性よりも女性の方が「積極的にとった方がよい」の割合が高い。

性・家族類型別にみると、育児休業制度と同様に、「共働き・女性」よりも「夫のみ働く・女性」の方が「積極的にとった方がよい」の割合が高い。

図表3 - 12 性別にみた介護休業制度に対する意識



図表3 - 13 性・家族類型別にみた介護休業制度に対する意識

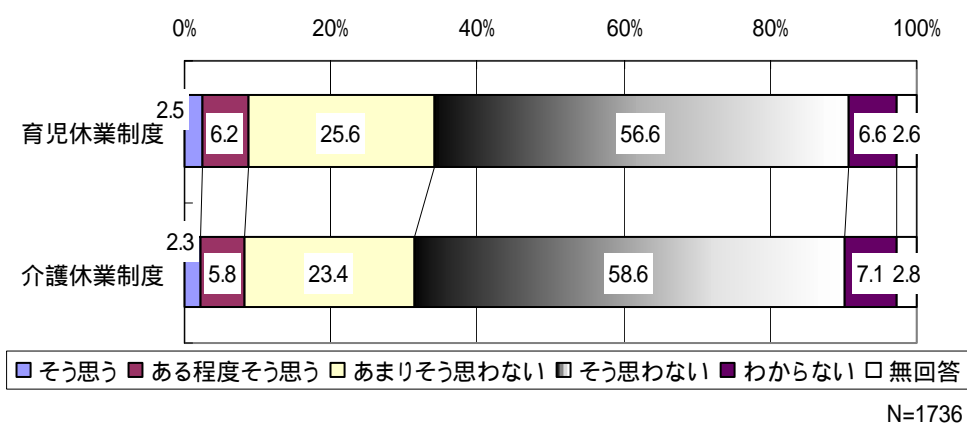


次に、男性が育児休業や介護休業をとることについて、現在、社会や企業の支援が十分であるか、についてたずねた。

「育児休業制度」については、「そう思わない」の56.6%と「あまりそう思わない」の25.6%を合わせた82.2%が否定的である。

また「介護休業制度」についても、「そう思わない」が58.6%で、「あまりそう思わない」の23.4%を合わせると82.0%が否定的である。

図表3 - 14 「男性が育児休業や介護休業をとることについて、現在、社会や企業の支援は十分か」についての意見

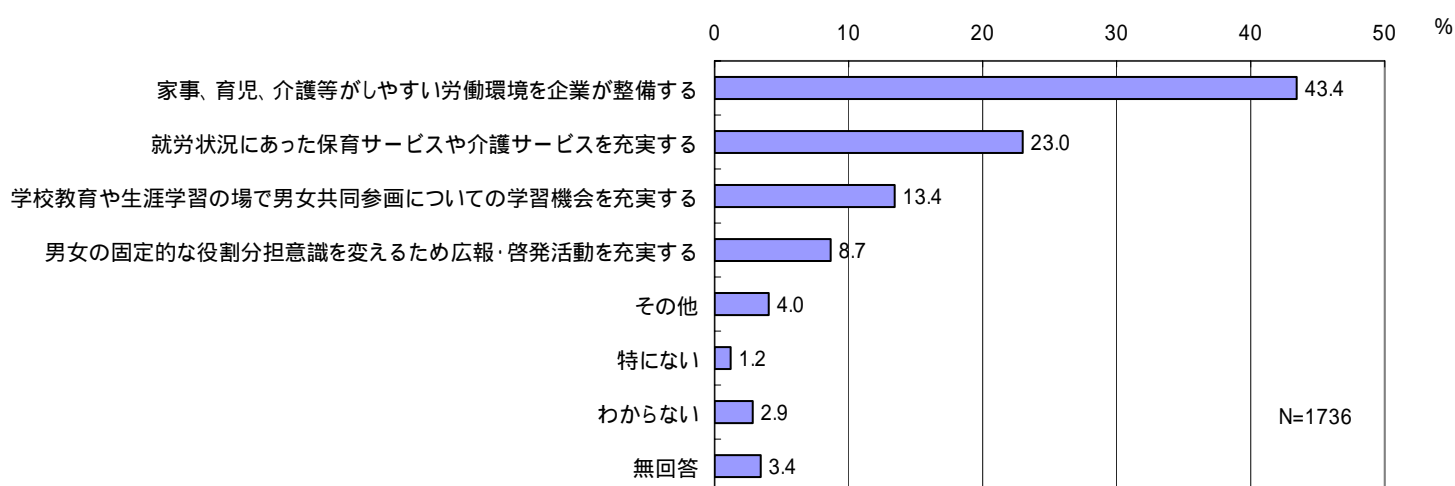


6 男女ともに家事・育児・介護の役割を担っていくために必要なこと（問9）

男性と女性がともに家事・育児・介護の役割を担っていくために何が必要かをたずねた。

「家事、育児、介護等がしやすい労働環境を企業が整備する」が43.4%と最も高く、以下「就労状況にあった保育サービス（乳児保育、延長保育等）や介護サービスを充実する」23.0%、「学校教育や生涯学習の場で男女共同参画についての学習機会を充実する」13.4%となっている。

図表3 - 15 男女ともに家事、育児、介護等を担っていくために必要なこと（複数回答）



## 第4章 さまざまな地域活動への参加について

### 1 さまざまな地域活動への参加状況（問10）

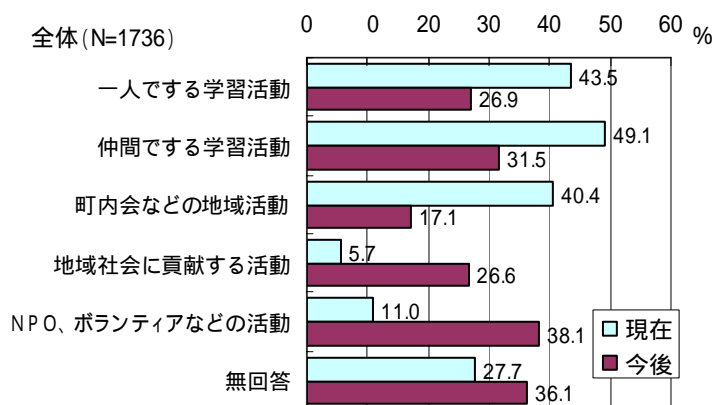
仕事以外で、家庭の外で活動したことについて、ここ3年くらいの実績と今後の参加希望をたずねた。

この3年くらいに、仕事以外に家庭の外で活動したこととしては、「仲間とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動（以下、仲間とする学習活動）」が49.1%と最も高く、以下、「一人とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動（以下、一人とする学習活動）」43.5%、「町内会や自治会などの地域活動（以下、町内会などの地域活動）」40.4%、「NPO（非営利団体）やボランティアなどの活動」11.0%となっており、「民生委員など公的な立場で地域社会に貢献するような活動（以下、地域社会に貢献する活動）」は5.7%と最も少ない。

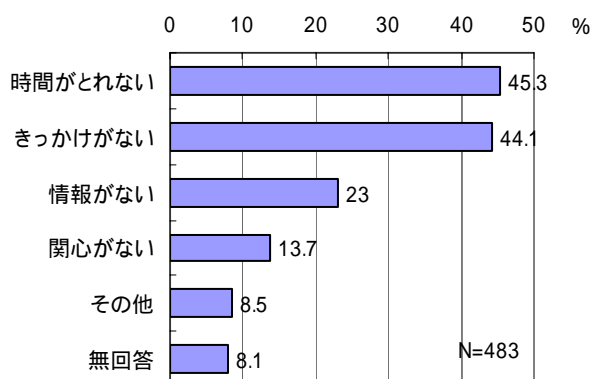
今後、仕事以外に家庭の外で参加してみたいと思うこととしては、「NPO（非営利団体）やボランティアなどの活動」が38.1%と最も高い。現在の活動状況は少なかったが、今後参加したい活動として回答した人の割合は高い。次には「仲間とする学習活動」31.5%、「一人とする学習活動」26.9%、「地域社会に貢献する活動」26.6%、「町内会などの地域活動」17.1%である。

なお、1つも参加したことがない483人にその理由をたずねたところ、「時間がとれない」45.3%、「きっかけがない」44.1%となっている。

図表4-1 さまざまな地域活動への参加状況・現在と今後（複数回答）



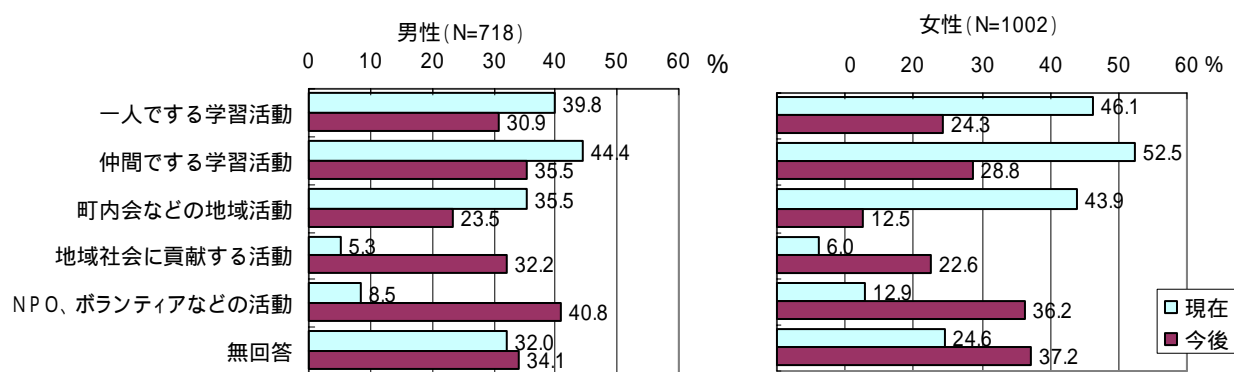
図表4-2 さまざまな地域活動へ参加したことがない理由（複数回答）



### 【属性別にみた傾向】

性別にみると、全ての項目で、女性の方が男性よりも活動していると答えた人の割合が高い。しかし、今後参加してみたいと答えた人の割合は、全ての項目で、女性よりも男性の方が高くなっている。

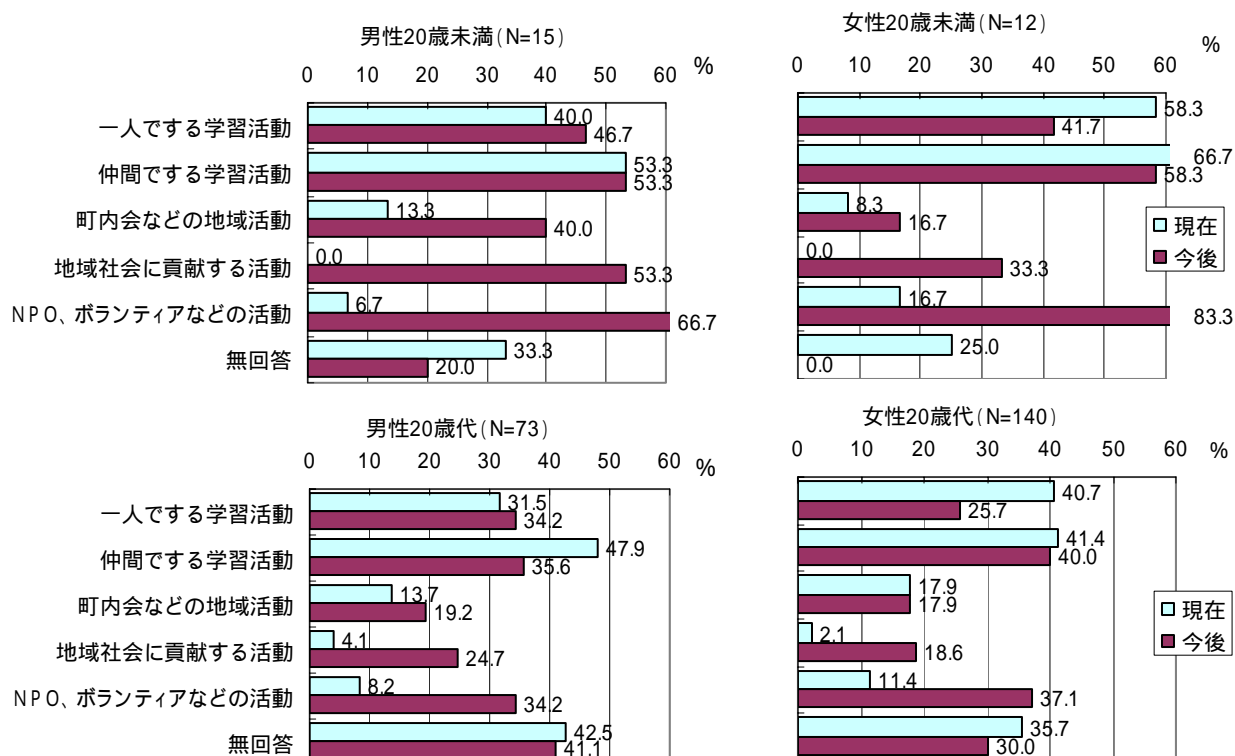
図表4-3 性別にみたさまざまな域活動への参加状況・現在と今後（複数回答）

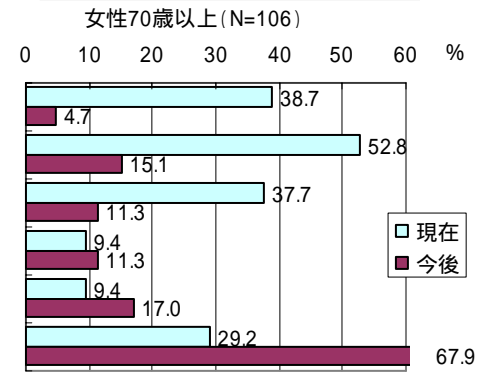
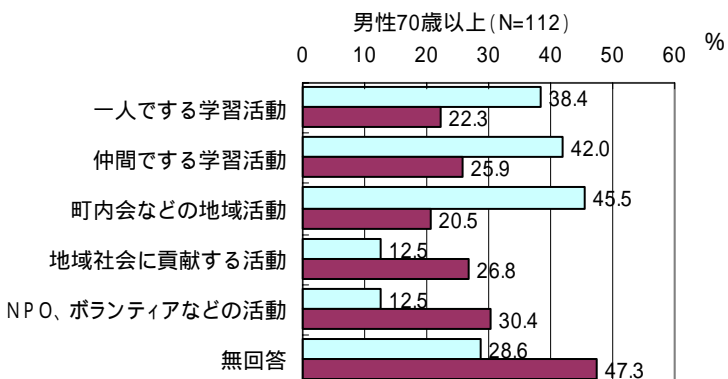
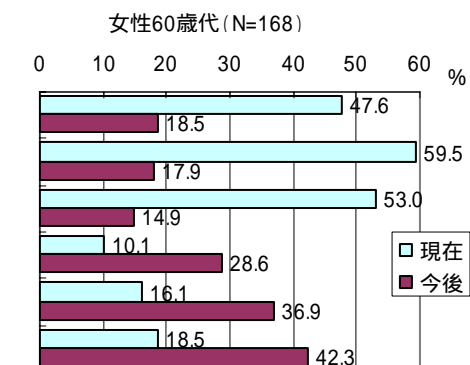
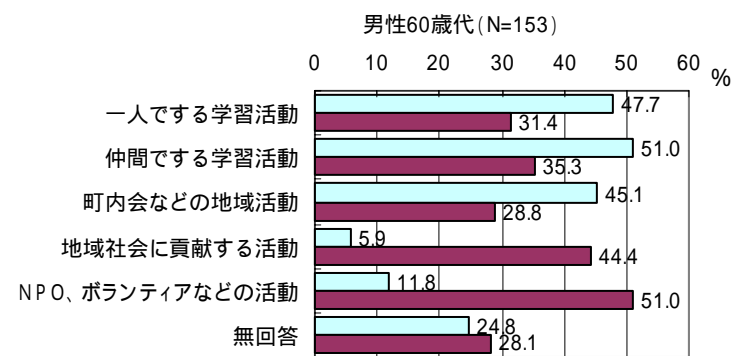
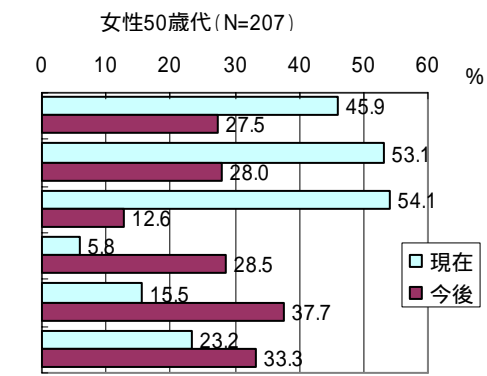
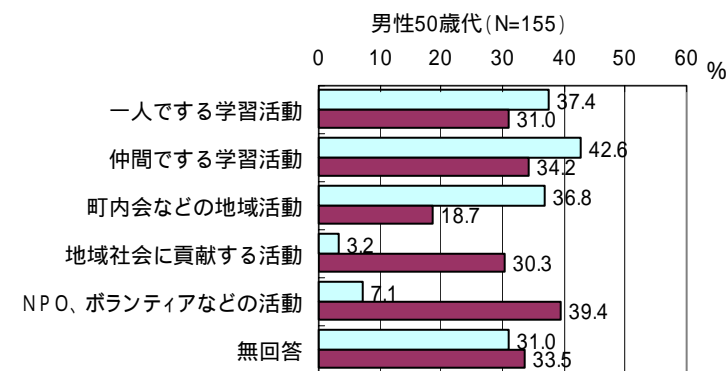
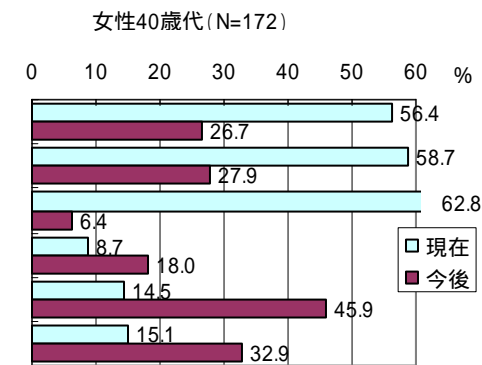
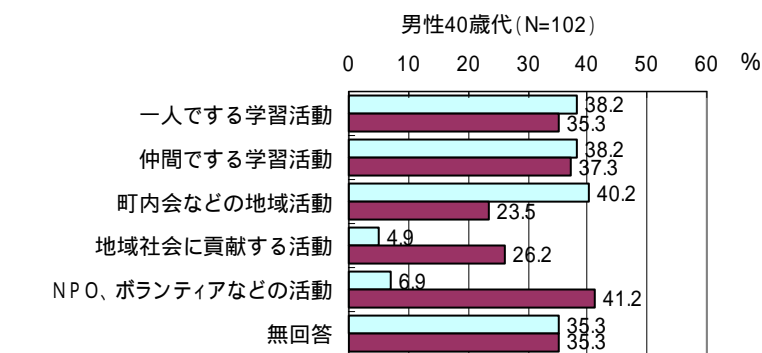
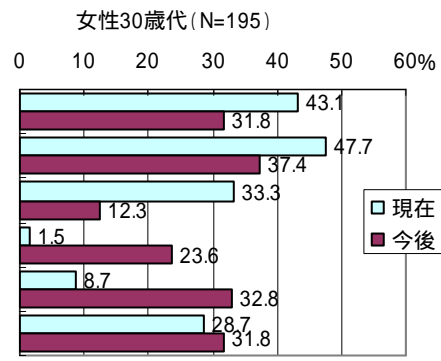
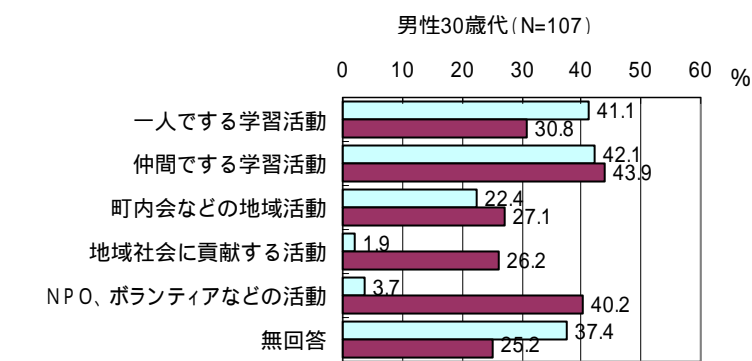


性・年代別にみると、男性は、全ての年代で、現在参加している活動として「仲間とする学習活動」「一人でする学習活動」と答えた人の割合が高い。一方、「NPO、ボランティアなどの活動」「地域社会に貢献する活動」は、現在参加している割合は低いですが、今後参加してみたいと思っている人の割合は高い。

女性は、どの活動についても20～30歳代より40～50歳代の方が参加している人の割合が高い。今後参加してみたい活動については、20～30歳代は「仲間でする学習活動」が高く、40～60歳代は「NPO、ボランティアなどの活動」が高い。

図表4-4 性・年代別にみたさまざまな地域活動への参加状況・現在と今後（複数回答）





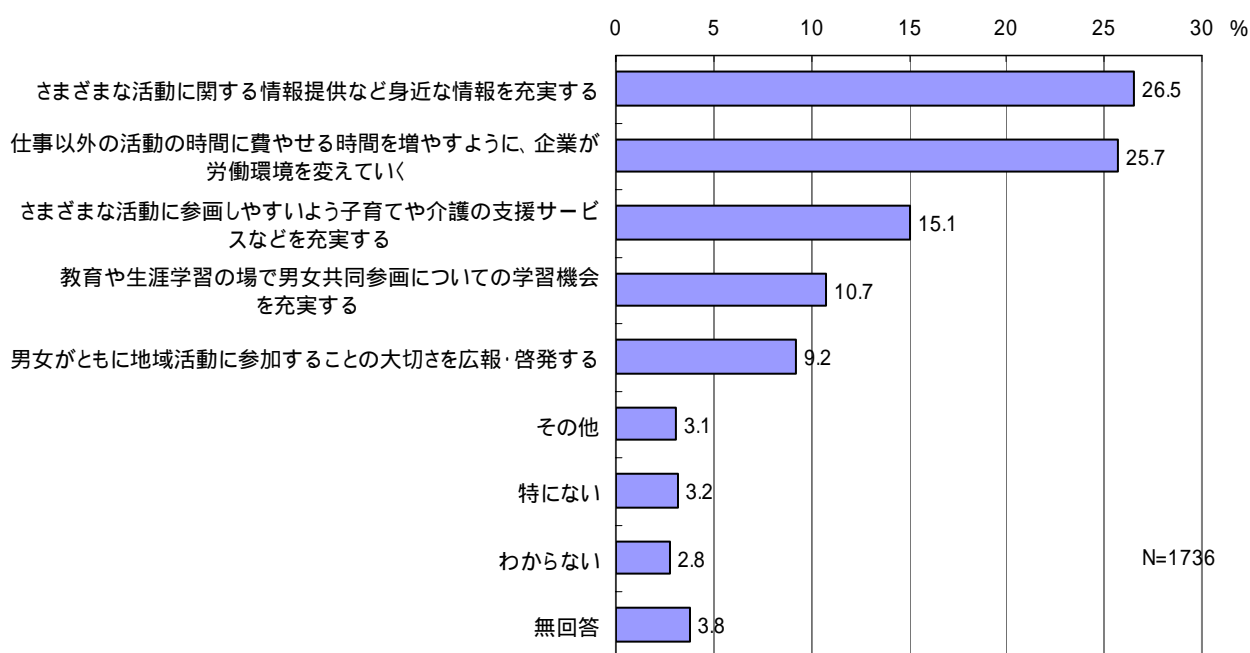


## 2 男女ともにさまざまな活動に参画していくために必要なこと（問11）

男性と女性がともにさまざまな活動に積極的に参画していくために必要なことをたずねた。

「さまざまな活動に関する情報提供など身近な情報を充実する」が26.5%と最も高く、以下、「仕事以外の活動の時間に費やせる時間を増やすように、企業が労働環境を変えていく」25.7%、「さまざまな活動に参画しやすいよう子育てや介護の支援サービスなどを充実する」15.1%、「学校教育や生涯学習の場で男女共同参画についての学習機会を充実する」10.7%となっている。

図表4 - 5 男女ともにさまざまな活動に参画していくために必要なこと



### 【属性別にみた傾向】

性別にみても同様の傾向であるが、年代別にみると、20～40歳代で「仕事以外の活動に費やす時間を増やすように、企業が労働環境を変えていく」が重視されている。

また、30歳代では「さまざまな活動に参加しやすいよう子育てや介護の支援サービスなどを充実する」、60歳代では「さまざまな活動に関する情報提供など身近な情報を充実する」が他より高い。

図表4 - 6 年代別にみた男女ともにさまざまな活動に参加していくために必要なこと

単位：%

	さまざまな活動に関する情報提供など身近な情報を充実する	仕事以外の活動に費やす時間を増やすように、企業が労働環境を変えていく	さまざまな活動に参加しやすいよう子育てや介護の支援サービスなどを充実する	学校教育や生涯学習の場で男女共同参加についての学習機会を充実する	男女がともに地域活動に参加することの大切さを広報・啓発する	その他	特になし	わからない	無回答
<b>全体 (N=1736)</b>	<b>26.5</b>	<b>25.7</b>	<b>15.1</b>	<b>10.7</b>	<b>9.2</b>	<b>3.1</b>	<b>3.2</b>	<b>2.8</b>	<b>3.8</b>
20歳未満 (N=27)	18.5	37.0	7.4	22.2	3.7	7.4	3.7	0.0	0.01
20歳代 (N=241)	29.9	35.7	12.4	8.7	2.1	4.6	1.2	3.3	2.1
30歳代 (N=303)	20.1	34.7	20.5	7.6	4.6	4.0	2.0	3.0	3.6
40歳代 (N=274)	23.7	33.9	16.8	10.6	5.8	2.2	2.6	1.1	3.3
50歳代 (N=362)	29.0	26.2	12.4	13.5	9.4	3.0	1.9	1.9	2.5
60歳代 (N=323)	35.0	14.2	14.2	9.0	13.3	2.8	4.6	3.7	3.1
70歳以上 (N=220)	19.5	9.1	13.2	14.5	20.5	2.3	7.7	3.6	9.5

\*全体の割合よりも5ポイント高い数値に

## 第5章 女性の生き方や家庭・結婚に対する考えについて

### 1 女性の仕事や結婚についての理想像（問12）

「女性の仕事や結婚についての理想像」をたずねた。

「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事につく」が44.8%、「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」21.3%、「結婚を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事につく」13.1%となっている。

なお、「仕事にはつかずに、家庭に入る」は1.3%である。

女性の仕事や結婚の理想像を前回調査と同様に「仕事継続」「仕事中断」「仕事中止」「仕事せず」の4つの型に分類してみると、「仕事中断」が57.9%と最も高い。これは、結婚や出産で一時仕事から離れ、子どもの成長後に再び仕事に復帰するという生き方を示している。

#### 【前回調査との比較】

「仕事中断」「仕事継続」が中心的な意見であることに変わりはないが、いずれもともに減少している。

図表5 - 1 女性の仕事や結婚についての理想像

	仕事継続			仕事中断		仕事中止		仕事せず	その他・特にない・わからない		
	結婚をせずに仕事を続ける	結婚はするが、出産はせず仕事を続ける	結婚をし、出産をし、仕事も続ける	出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子育て後復帰	結婚を機に仕事をやめて家庭に入るが、子育て後復帰	出産を機に仕事をやめて家庭に入る	結婚を機に仕事をやめて家庭に入る	仕事にはつかずに、家庭に入る	その他	特にない	わからない
今回調査 (N = 1736)	0.6	1.0	21.3	44.8	13.1	5.2	4.0	1.3	3.0	1.7	4.0
	22.9			57.9		9.2		1.3	8.7		

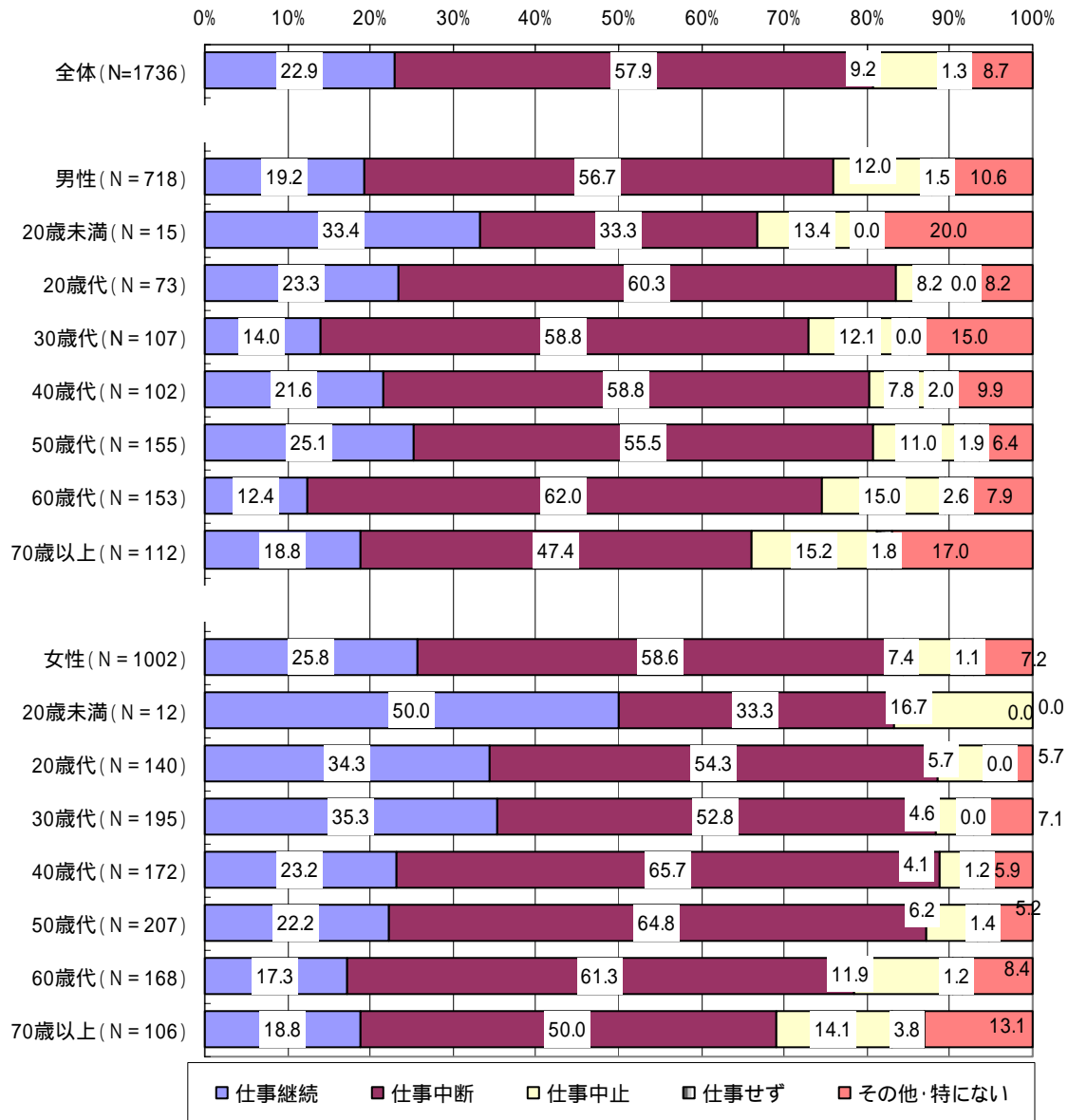
	仕事継続			仕事中断		仕事中止		仕事せず	その他・特にない・わからない		
	結婚をせずに仕事を続ける	結婚はするが、出産はせず仕事を続ける	結婚をし、出産をし、仕事も続ける	出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子育て後復帰	結婚を機に仕事をやめて家庭に入るが、子育て後復帰	出産を機に仕事をやめて家庭に入る	結婚を機に仕事をやめて家庭に入る	仕事にはつかずに、家庭に入る	その他	特にない	わからない
前回調査 (N = 3192)	0.4	1.0	21.8	50.3	11.8	4.3	4.4	1.9	1.6	-	2.5
	23.2			62.1		8.7		1.9	4.1		

**【属性別にみた傾向】**

性別にみると、いずれも「仕事中断」が最も高くなっているが、女性は男性に比べて「仕事継続」「仕事中断」の割合が高く、男性は女性に比べて「仕事中止」「仕事せず」の比率が高い。

性・年代別にみると、男性の60歳代は「仕事中断」、女性の20～30歳代は「仕事継続」、女性の40～50歳代は「仕事中断」を理想とする割合が高い。

図表 5 - 2 性・年代別にみた女性の仕事や結婚についての理想像



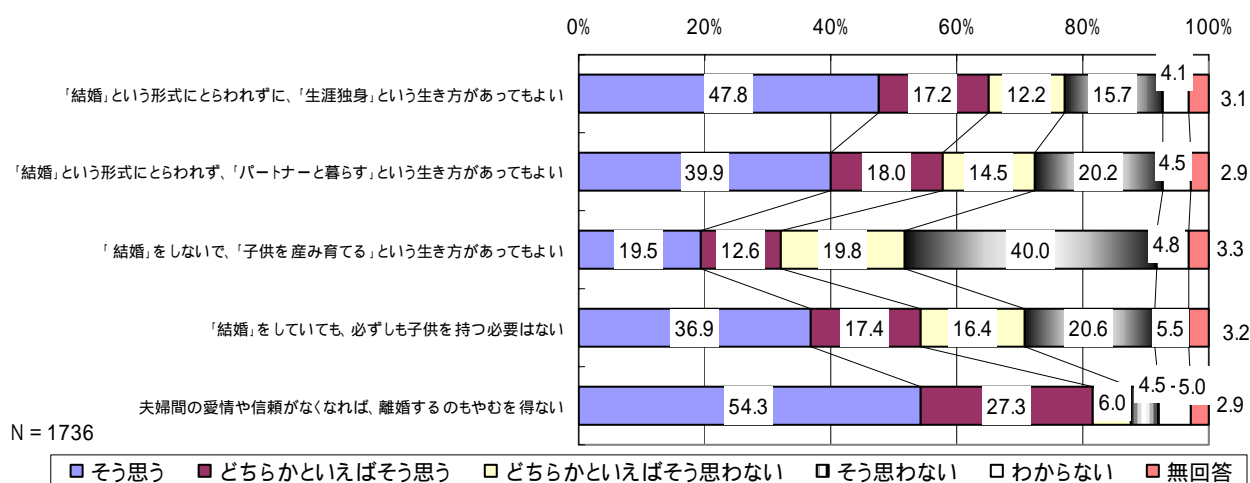
## 2 結婚、家庭、離婚についての考え方（問13）

結婚、家庭、離婚に関する5つの考えについて、どのように思うかをたずねた。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「そう思う（計）」（以下、同様）の割合をみると、「夫婦間の愛情がなくなれば離婚するのやむを得ない」では81.6%、「結婚という形式にとらわれず、生涯独身という生き方があってもよい」で65.0%、「結婚という形式にとらわれず、パートナーと暮らすという生き方があってもよい」57.9%、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」54.3%と、いずれも過半数を超える。

一方、「結婚をしないで子供を産み育てるという生き方があってもよい」は「そう思わない」が40.0%と最も高く、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた「そう思わない（計）」（以下、同様）は59.8%となり、「そう思う（計）」の32.1%を上回っている。

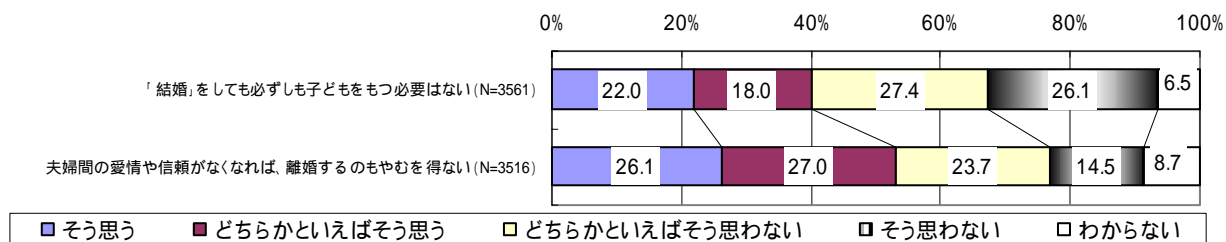
図表5 - 3 結婚、家庭、離婚についての意見



### 【全国調査（平成14年度「男女共同参画社会に関する世論調査」）との比較】

平成14年の全国調査では、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」「夫婦間の愛情がなくなれば離婚するのやむを得ない」が質問されている。いずれも今回調査の方が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が全国調査よりも高い。

図表5 - 4 結婚、家庭、離婚についての意見（平成14年度全国調査）



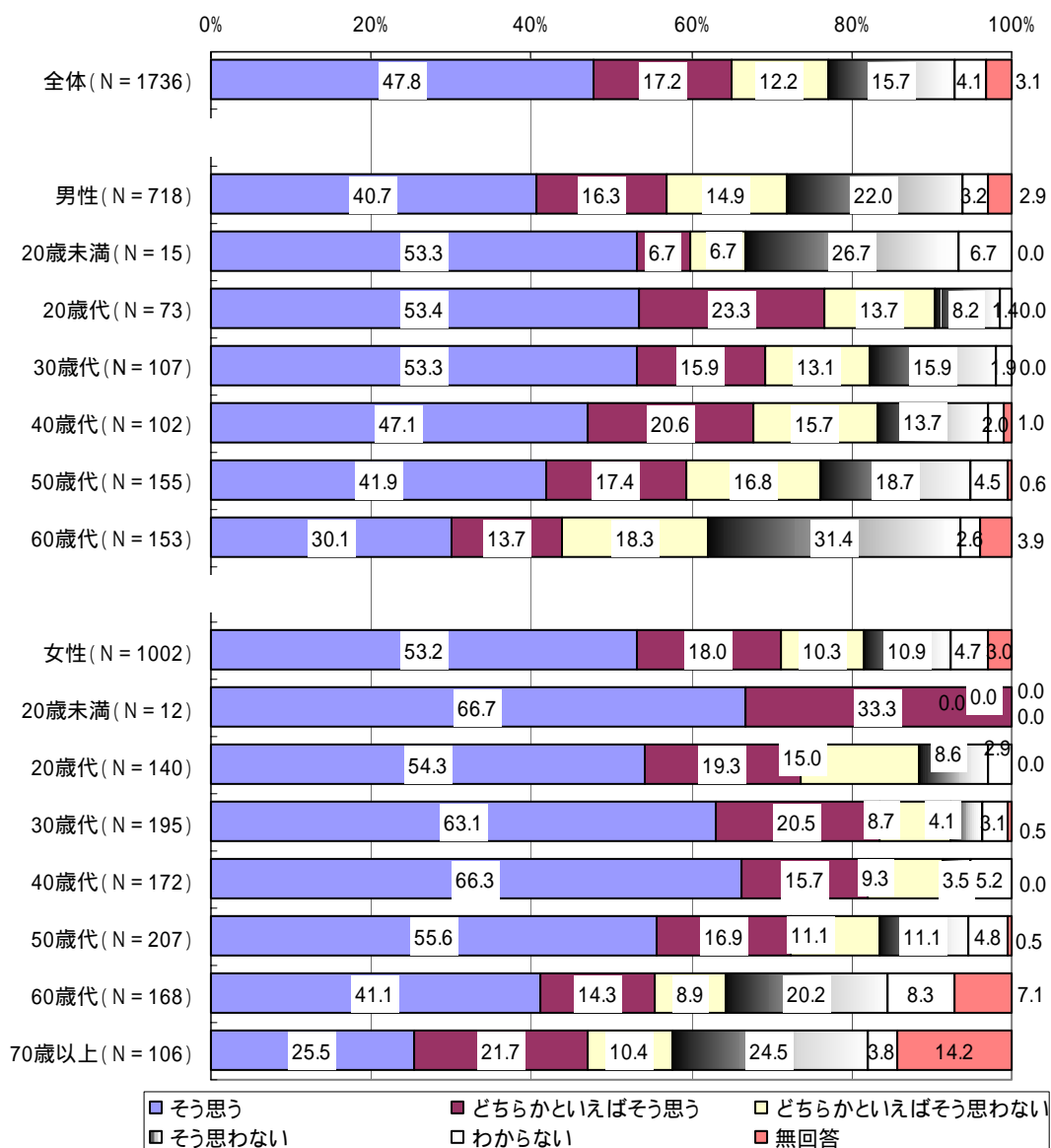
【属性別にみた傾向】

(1) 「結婚」という形式にとらわれず、「生涯独身」という生き方があってもよい」

性別にみると、男性は「そう思う（計）」47.0%、「そう思わない（計）」36.9%、女性は「そう思う（計）」71.2%、「そう思わない（計）」21.2%で、女性の方が肯定的である。

性・年代別でみると、男女ともに、年代が上がるにつれて「そう思わない（計）」の割合が増え、「そう思う（計）」の割合が減る傾向にある。

図表5 - 5 性・年代別にみた「結婚」という形式にとらわれず、「生涯独身」という生き方があってもよい」に対する意見

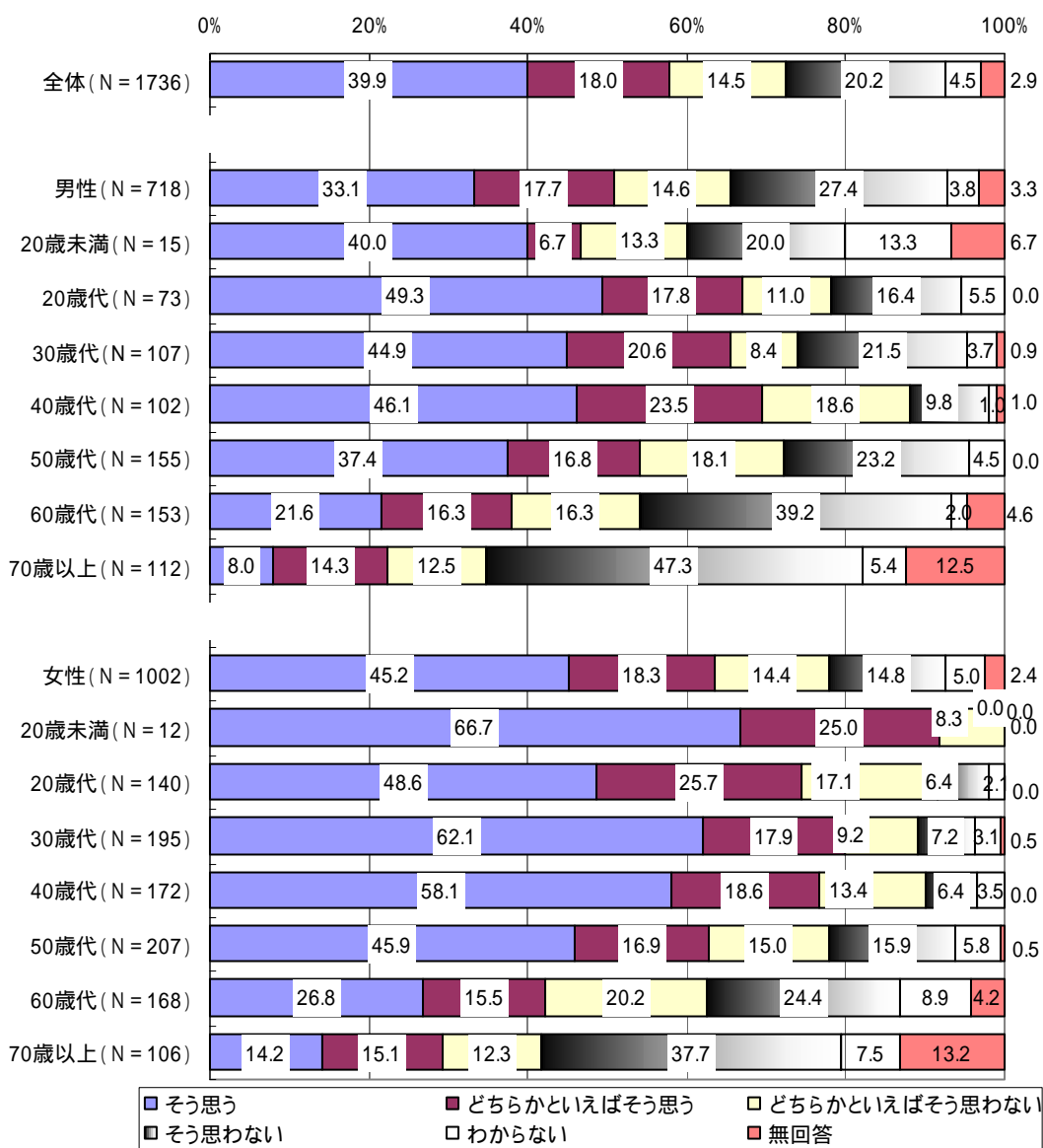


(2) 「結婚」という形式にとらわれず、「パートナーと暮らす」という生き方があってもよい」

性別にみると、男性は「そう思う(計)」50.8%、「そう思わない(計)」42.0%、女性は「そう思う(計)」63.5%、「そう思わない(計)」29.2%で、女性の方が肯定的である。

性・年代別でみると、男女ともに、年代が上がるにつれて「そう思わない(計)」の割合が増え、「そう思う(計)」の割合が減る傾向にある。

図表5-6 性・年代別にみた「結婚」という形式にとらわれず、「パートナーと暮らす」という生き方があってもよい」に対する意見

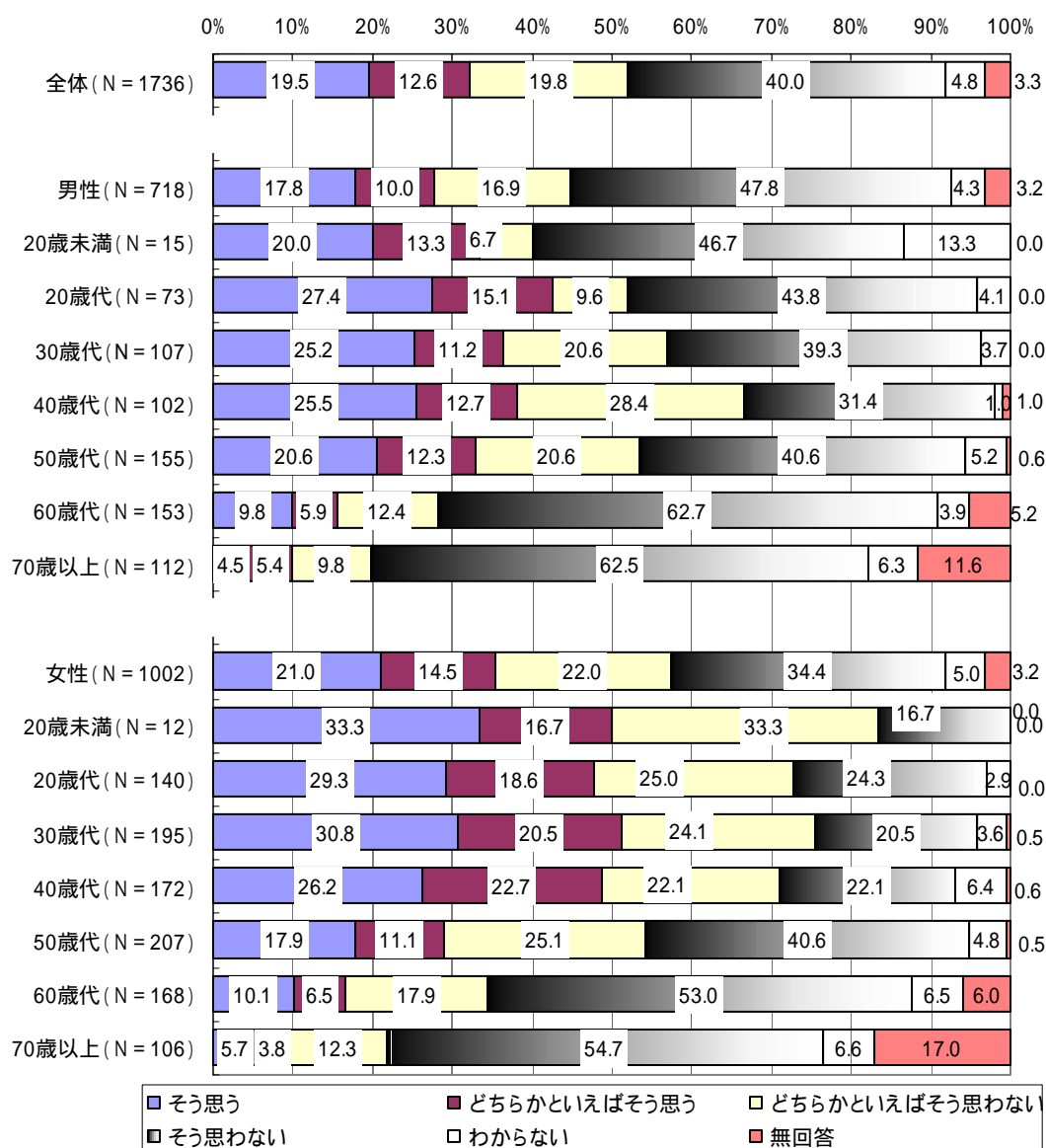


(3) 「結婚」をしないで、「子供を産み育てる」という生き方があってもよい

性別にみると、男性は「そう思う(計)」27.8%、「そう思わない(計)」64.7%、女性は「そう思う(計)」35.5%、「そう思わない(計)」56.4%で、男性の方が否定的である。

性・年代別でみると、男女ともに、年代が上がるにつれて「そう思わない(計)」の割合が増え、「そう思う(計)」の割合が減る傾向にある。

図表5-7 性・年代別にみた「結婚」をしないで、「子供を産み育てる」という生き方があってもよいに対する意見



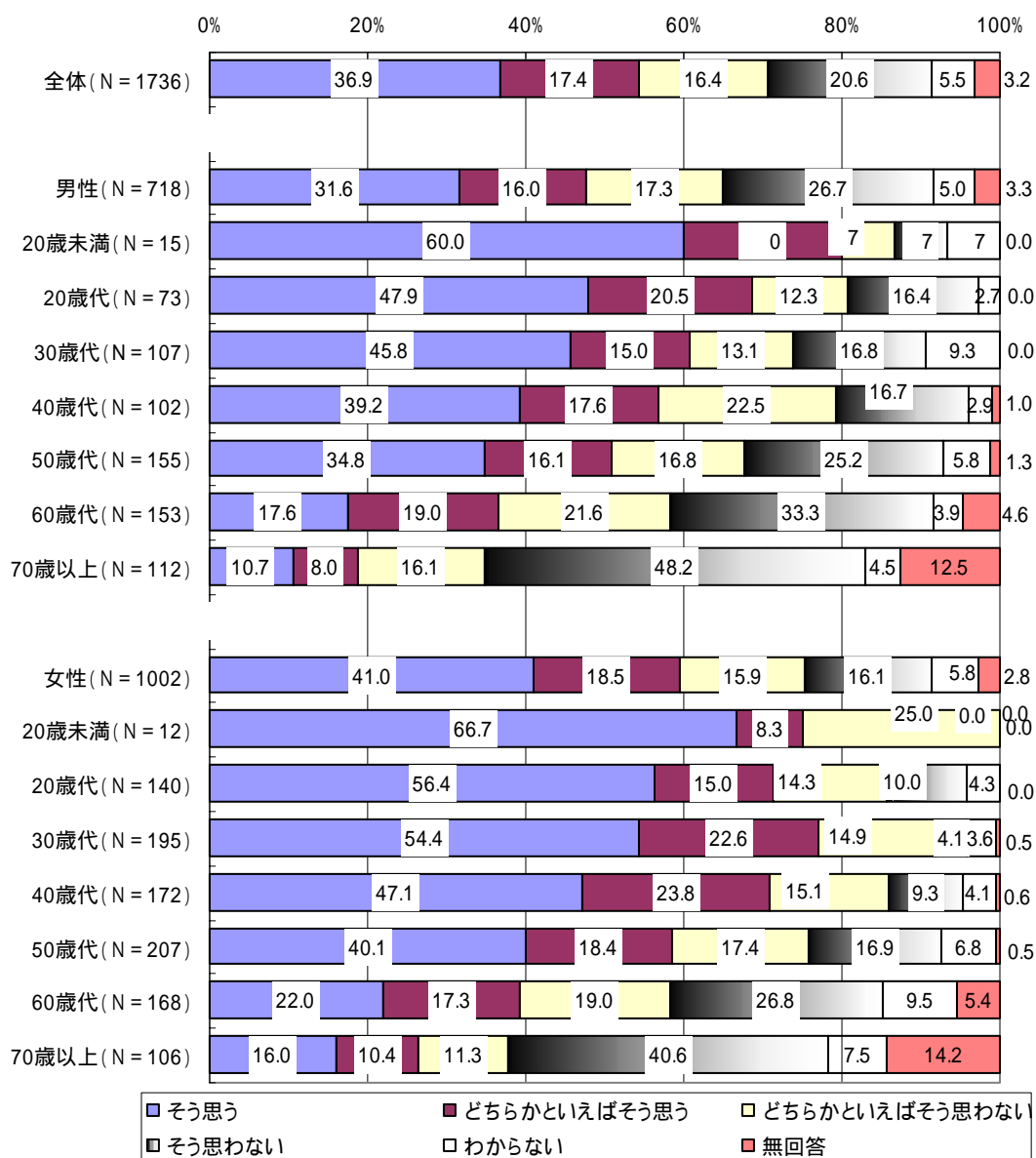


(4) 「結婚」をしていますが、必ずしも子どもを持つ必要はない」

性別にみると、男性は「そう思う（計）」47.6%、「そう思わない（計）」44.0%、女性は「そう思う（計）」59.5%、「そう思わない（計）」32.0%で、女性の方が肯定的である。

性・年代別でみると、男女ともに、年代が上がるにつれて「そう思わない（計）」の割合が増え、「そう思う（計）」の割合が減る傾向にある。

図表5 - 8 性・年代別にみた「結婚」をしていますが、必ずしも子どもを持つ必要はない」に対する意見

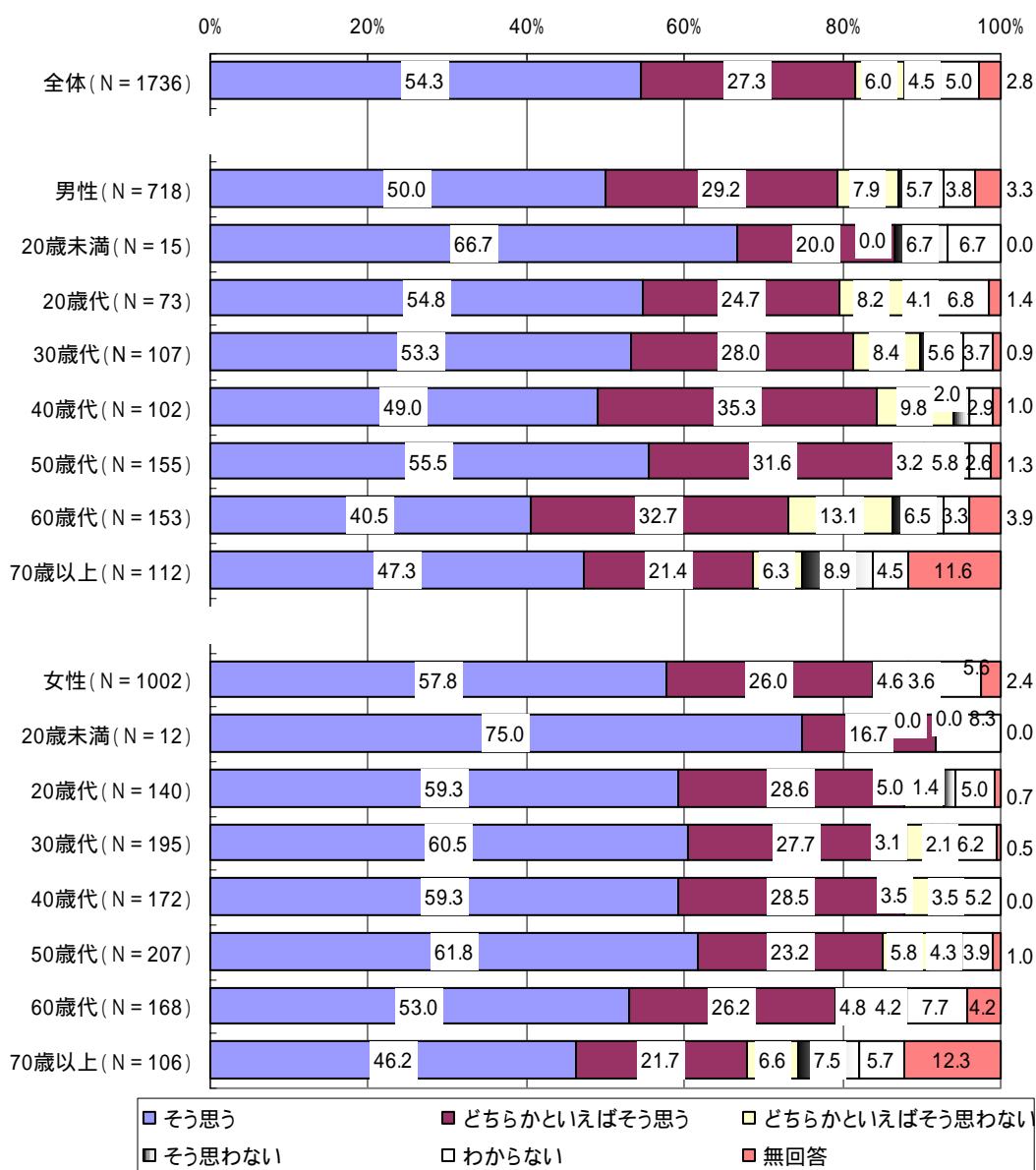


(5) 「夫婦間の愛情や信頼がなくなれば離婚するのやむを得ない」

性別にみると、男性は「そう思う（計）」79.2%、「そう思わない（計）」13.6%、女性は「そう思う（計）」83.8%、「そう思わない（計）」9.1%で、女性の方が肯定的である。

性・年代別にみると、男女ともに70歳以上では「そう思う（計）」の割合が他の年代に比べやや低いものの、年代ごとの大きな差はみられない。

図表5 - 9 性・年代別にみた「夫婦間の愛情や信頼がなくなれば離婚するのやむを得ない」に対する意見

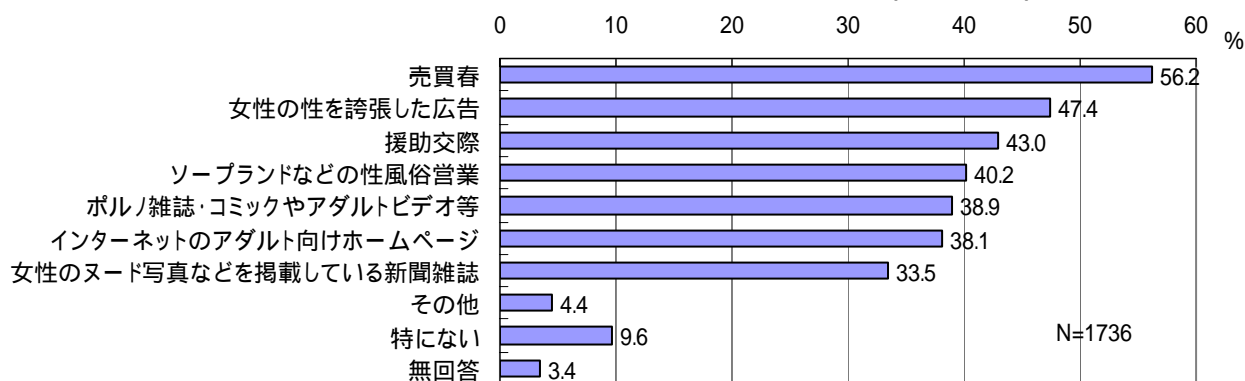


## 第6章 性に関する情報について

### 1 女性の性の商品化と人権侵害（問14）

女性の性が商品化され、女性の人権が侵害されていると思うか、7つの項目についてたずねた。「売買春」が56.2%と最も高く、以下、「女性の性を誇張した広告」47.4%、「援助交際」43.0%、「ソープランドなどの性風俗営業」40.2%などとなっている。

図表6-1 女性の人権が侵害されていると思うこと（複数回答）



#### 【属性別にみた傾向】

性別にみると、全ての項目で女性の方が男性よりも「侵害されている」と思う割合が高くなっている。特に「女性のヌード写真などを掲載している新聞や雑誌」「女性の性を誇張した広告」は男女での意識の差が大きい。年代別にみると、いずれの年代も「売買春」が最も高く、60歳代以上は特にその割合が高い。

図表6-2 属性別にみた女性の人権が侵害されていると思うこと（複数回答）

単位：%

	売買春	援助交際	ソープランドなどの性風俗営業	女性のヌード写真などを掲載している新聞雑誌	女性の性を誇張した広告	ポルノ雑誌・コミックやアダルトビデオ等	インターネットのアダルト向けホームページ	その他	特になし	無回答
<b>全体 (N=1736)</b>	<b>56.2</b>	<b>43.0</b>	<b>40.2</b>	<b>33.5</b>	<b>47.4</b>	<b>38.9</b>	<b>38.1</b>	<b>4.4</b>	<b>9.6</b>	<b>3.4</b>
性別										
男性 (N=718)	52.2	39.6	33.8	25.1	38.9	31.3	31.3	5.2	13.1	2.8
女性 (N=1002)	59.1	45.6	44.7	39.3	53.4	44.4	42.9	3.7	6.9	3.8
年代別										
20歳未満 (N=27)	48.1	48.1	37.0	22.2	33.3	11.1	37.0	0.0	11.1	3.7
20歳代 (N=214)	43.9	35.0	30.8	31.8	46.7	29.9	38.3	6.1	15.9	1.4
30歳代 (N=303)	43.9	32.0	30.4	27.7	43.2	28.7	34.0	6.9	18.2	3.0
40歳代 (N=274)	51.5	42.7	32.5	24.8	47.8	35.4	32.8	5.1	8.8	2.6
50歳代 (N=362)	59.9	43.4	42.0	38.4	49.4	42.0	41.7	4.1	6.6	2.8
60歳代 (N=323)	66.9	49.5	51.7	35.3	48.0	47.4	42.1	3.4	5.6	3.1
70歳以上 (N=220)	70.0	56.8	52.7	44.1	50.9	52.7	39.1	0.5	2.7	8.2

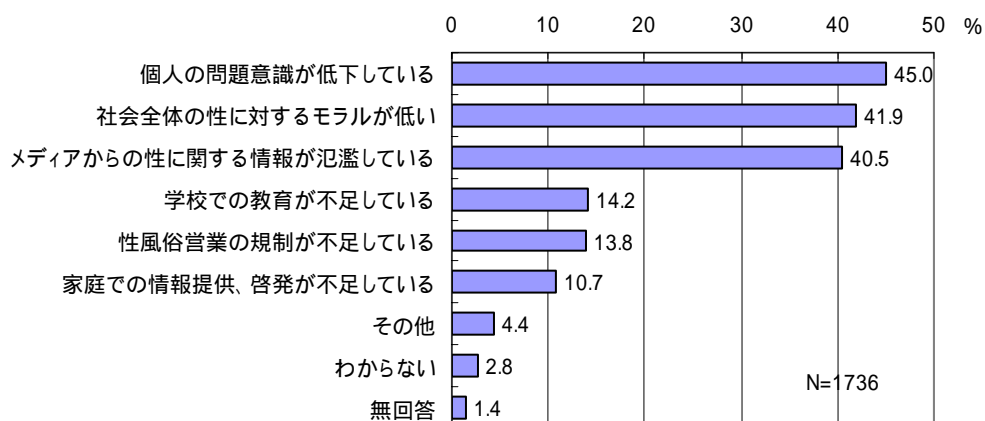
\* 合計よりも5ポイント高い数値に

## 2 女性の性が商品化される原因（問15）

女性の性が商品化されるのはどのようなことが原因だと思うかをたずねた。

「個人の問題意識が低下している」が 45.0%と最も高く、以下、「社会全体の性に関するモラルが低い」41.9%、「メディアからの性に関する情報が氾濫している」40.5%となっている。

図表 6 - 3 女性の性が商品化される原因（複数回答）



### 【属性別にみた傾向】

性別にみると、「メディアからの性に関する情報が氾濫している」、「社会全体の性に関するモラルが低い」を原因とあげる人の割合は女性の方が高く、男性との意識の差がみられる。

図表 6 - 4 属性別にみた女性の性が商品化される原因（複数回答）

単位：%

	個人の問題意識が低下している	社会全体の性に対するモラルが低い	メディアからの性に関する情報が氾濫している	学校での教育が不足している	性風俗営業の規制が不足している	家庭での情報提供、啓発が不足している	その他	わからない	無回答
<b>全体(N=1736)</b>	<b>45.0</b>	<b>41.9</b>	<b>40.5</b>	<b>14.2</b>	<b>13.8</b>	<b>10.7</b>	<b>4.4</b>	<b>2.8</b>	<b>1.4</b>
性別 男性(N=718)	44.2	38.3	36.1	14.8	12.5	9.9	6.8	3.8	1.9
性別 女性(N=1002)	45.6	44.5	43.7	13.7	14.7	11.5	2.6	2.0	1.1
年代別 20歳未満(N=27)	40.7	48.1	33.3	18.5	22.2	3.7	7.4	3.7	0
20歳代(N=214)	45.8	45.3	33.6	9.8	15.4	7.5	7.5	5.6	0
30歳代(N=303)	46.2	40.9	39.3	8.3	9.9	9.9	8.6	4.3	0.7
40歳代(N=274)	40.5	44.9	46.0	12.8	12.4	11.7	4.4	1.8	0.7
50歳代(N=362)	49.4	43.6	45.0	11.9	11.3	11.3	3.6	0.6	0.8
60歳代(N=323)	43.3	40.6	38.1	18.0	18.0	11.5	1.9	3.7	2.8
70歳以上(N=220)	43.6	34.5	39.1	25.5	15.9	12.7	0.5	1.4	4.1

\* 合計よりも5ポイント高い数値に

### 3 性に関する正しい情報（問16）

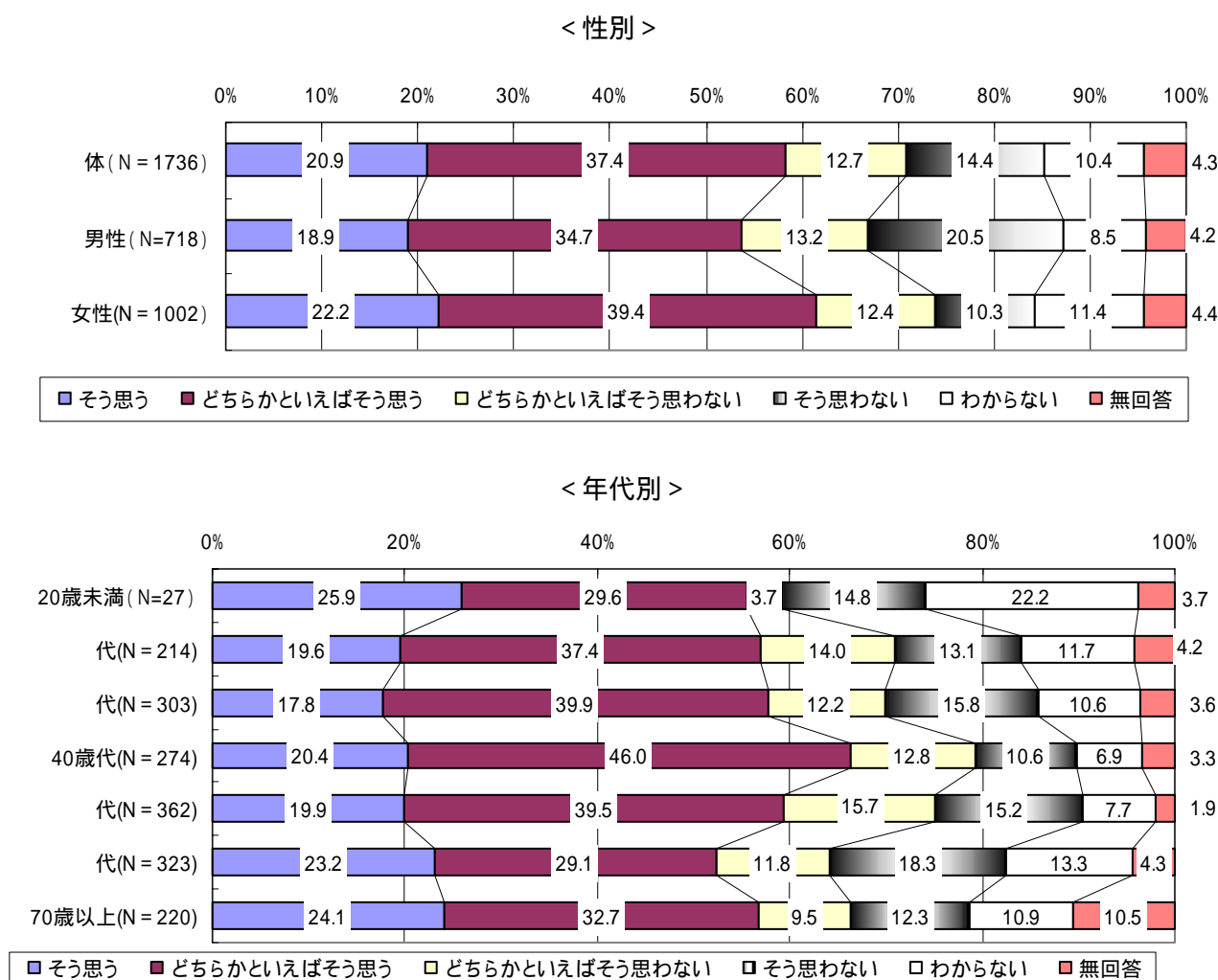
「女性の性が商品化されている一方で、性に関する正しい情報を得ることができない」という意見について、どのように思うかをたずねた。

「どちらかといえばそう思う」が 37.4%と最も高く、「そう思う」の 20.9%を合わせると 58.3%が肯定している。

#### 【属性別にみた傾向】

性別にみると、女性の「そう思う（計）」は 61.6%となっており、男性の 53.6%に比べて高い。

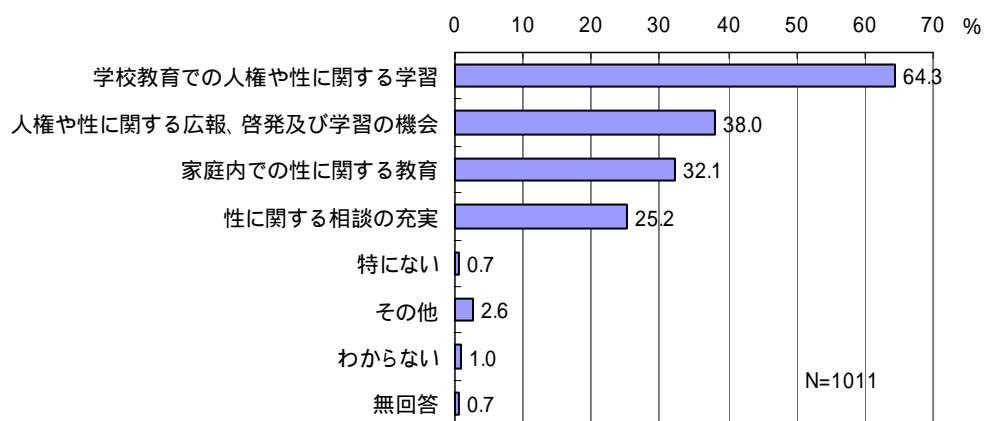
図表6 - 5 属性にみた「女性の性が商品化されている一方で、性に関する正しい情報を得ることができない」に対する意見



さらに、「そう思う(計)」と回答した1,011人に、性に関する正しい情報を得るために何が必要だと思うかをたずねた。

「学校教育での人権や性に関する学習」が64.3%と最も高く、続いて「人権や性に関する広報、啓発及び学習の機会」が38.0%、「家庭内での性に関する教育」が32.1%となっている。

図表 6 - 6 性に関する正しい情報を得るために必要なこと(複数回答)

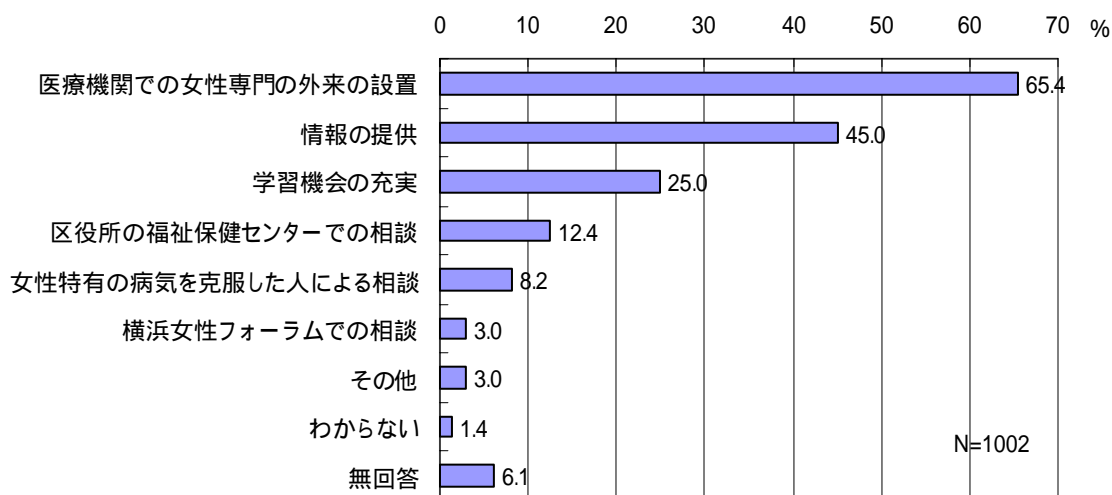


#### 4 女性の生涯にわたる健康づくりのための支援策（問17）

女性に対して、女性の生涯にわたる健康づくりのための支援策として必要なことをたずねた。

「医療機関での女性専門の外来の設置」が65.4%と最も高く、以下「女性の健康に関する情報の提供」45.0%、「女性の健康に関する学習機会の充実」25.0%となっている。

図表6 - 7 女性の生涯にわたる健康づくりのための支援策として必要なこと（複数回答）



#### 【属性別にみた傾向】

年代別にみると、いずれも「医療機関での女性専門の外来の設置」が最も高くなっているが、特に20歳代と40歳代では70%を超えている。また、「女性の健康に関する情報の提供」は30歳以下でいずれも50%以上となっている。

図表6 - 8 女性の年代別にみた女性の生涯にわたる健康づくりのための支援策として必要なこと（複数回答）

単位：%

	医療機関での女性専門の外来の設置	女性の健康に関する情報の提供	学習機会の充実	区役所の福祉保健センターでの相談	女性特有の病気を克服した人による相談	横浜女性フォーラムでの相談	その他	わからない	無回答
全体 (N=1002)	65.4	45.0	25.0	12.4	8.2	3.0	3.0	1.4	6.1
20歳未満 (N = 12)	66.7	58.3	16.7	8.3	25.0	0.0	0.0	8.3	0.0
20歳代 (N = 140)	71.4	55.7	22.9	10.7	7.1	0.7	6.4	0.7	1.4
30歳代 (N = 195)	67.7	51.8	19.5	14.4	7.2	1.0	6.7	1.0	3.1
40歳代 (N = 172)	74.4	48.3	25.0	7.0	7.0	2.3	0.6	1.2	6.4
50歳代 (N = 207)	66.7	45.4	27.5	7.2	8.7	5.8	0.5	0.0	6.3
60歳代 (N = 168)	60.1	29.2	26.8	17.9	6.5	4.8	3.6	3.6	8.9
70歳以上 (N = 106)	45.3	35.8	31.1	21.7	13.2	2.8	0.0	1.9	13.2

\* 合計よりも5ポイント高い数値に

## 第7章 女性に対する暴力について

### 1 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）の周知（問17）

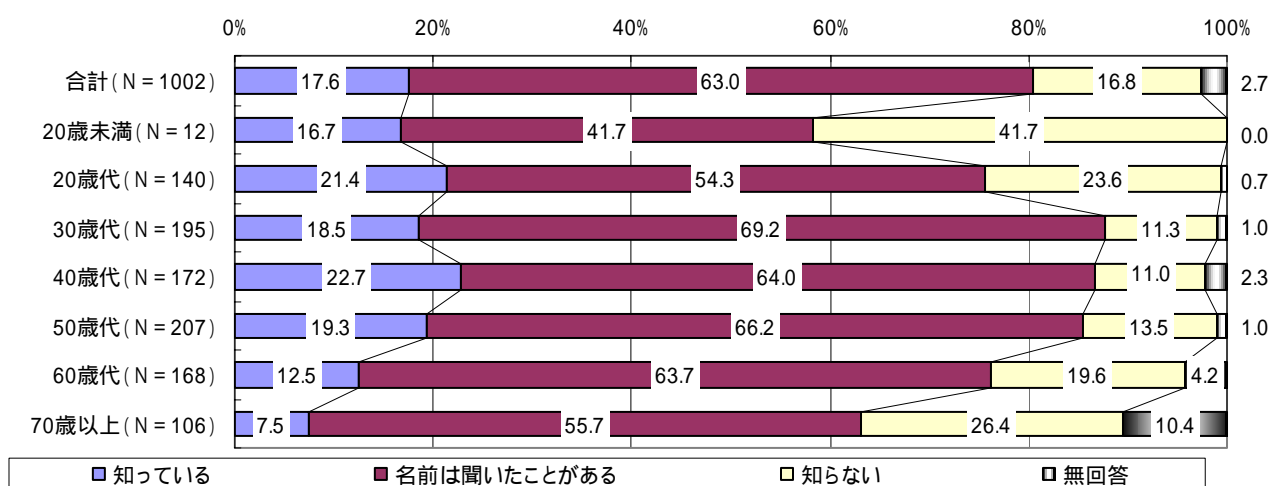
女性に対し、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（DV防止法）を知っているかをたずねた。

「名称は聞いたことがある」が63.0%と最も高く、「内容まで知っている」と回答したのは17.6%である。

性別では大きな差はみられない。

年代別にみると、「知っている」の割合が最も高いのは40歳代で22.7%、次に20歳代で21.4%となっている。60歳以上になると「知っている」の割合は減少し、70歳以上では7.5%である。

図表7-1 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の周知





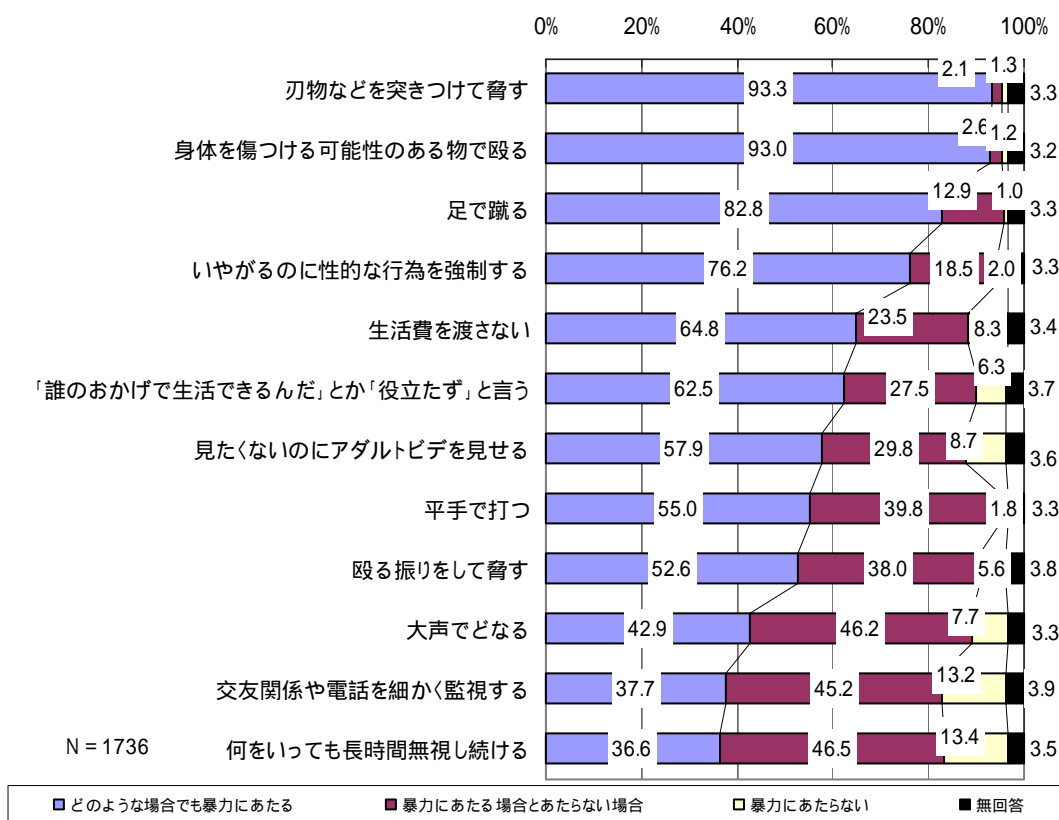
## 2 女性に対する暴力と思われる行為（問18）

夫や恋人、パートナーから女性に対して行われた行為に対し、それが暴力にあたると思うかをたずねた。

「どのような場合でも暴力にあたる」と思う割合についてみると、「刃物などを突きつけて脅す」が93.3%と最も高く、以下「身体を傷つける可能性のある物などで殴る」93.0%、「足で蹴る」82.8%と続いている。

一方、「大声でどなる」、「交友関係や電話を細かく監視する」「何をいっても長時間無視し続ける」は、「暴力にあたる」と答えた人の割合より「暴力にあたる場合とあたらない場合がある」と答えた人の割合の方が高い。

図表7 - 2 暴力と思われる行為



## 【属性別にみた傾向】

### 刃物などを突きつけて脅す

性別では、男女とも90%以上が「どのような場合でも暴力にあたる」と答えている。

年代別にみると、50歳代以下では90%以上が「どのような場合でも暴力にあたる」と答えている。

図表 7 - 3 - 属性別にみた「刃物などを突きつけて脅す」に対する意見

		どのような場合でも 暴力にあたる	暴力にあたる場合 とあたらない場合	暴力にあたらない	無回答
性別	男性(N = 718)	92.2	2.5	1.7	3.6
	女性(N = 1002)	94.4	1.9	0.9	2.8
年代別	20 歳未満(N = 27)	88.9	7.4	0.0	3.7
	20 歳代(N = 214)	97.2	1.9	0.5	0.5
	30 歳代(N = 303)	97.0	1.0	0.7	1.3
	40 歳代(N = 274)	96.4	1.5	0.7	1.5
	50 歳代(N = 362)	97.0	0.8	0.8	1.4
	60 歳代(N = 323)	88.5	4.0	3.1	4.3
	70 歳以上(N = 220)	82.7	3.6	1.8	11.8

### 身体を傷つける可能性のある物で殴る

性別にみても、年代別にみても、「どのような場合でも暴力にあたる」の割合が高く、50歳代以下では90%を超えている。

図表 7 - 3 - 属性別にみた「身体を傷つける可能性のある物で殴る」に対する意見

		どのような場合でも 暴力にあたる	暴力にあたる場合 とあたらない場合	暴力にあたらない	無回答
性別	男性(N = 718)	92.5	2.8	1.7	3.1
	女性(N = 1002)	93.8	2.4	0.8	3.0
年代別	20 歳未満(N = 27)	96.3	3.7	0.0	0.0
	20 歳代(N = 214)	97.7	1.9	0.5	0.0
	30 歳代(N = 303)	95.4	2.6	0.7	1.3
	40 歳代(N = 274)	95.6	2.2	0.7	1.5
	50 歳代(N = 362)	95.3	1.7	1.4	1.7
	60 歳代(N = 323)	88.9	4.3	1.9	5.0
	70 歳以上(N = 220)	85.0	2.7	1.8	10.5

## 足で蹴る

性別にみると、男女ともに「どのような場合でも暴力にあたる」の割合が高い。

図表 7 - 3 - 属性別にみた「足で蹴る」に対する意見

		どのような場合でも 暴力にあたる	暴力にあたる場合 とあたらない場合	暴力にあたらない	無回答
性別	男性(N = 718)	82.5	13.4	1.3	2.9
	女性(N = 1002)	83.6	12.5	0.7	3.2
年代別	20 歳未満(N = 27)	44.4	55.6	0.0	0.0
	20 歳代(N = 214)	83.6	15.0	0.5	0.9
	30 歳代(N = 303)	83.2	14.9	0.3	1.7
	40 歳代(N = 274)	88.7	9.9	0.0	1.5
	50 歳代(N = 362)	86.7	9.7	1.7	1.9
	60 歳代(N = 323)	81.7	12.7	1.9	3.7
	70 歳以上(N = 220)	75.9	11.4	1.4	11.4

## 相手がいやがっているのに性的な行為を強制する

性別にみても、年代別にみても、「どのような場合でも暴力にあたる」の割合が高い。特に20～50歳代の割合が高い。

図表 7 - 3 - 属性別にみた「相手がいやがっているのに性的な行為を強制する」に対する意見

		どのような場合でも 暴力にあたる	暴力にあたる場合 とあたらない場合	暴力にあたらない	無回答
性別	男性(N = 718)	74.7	19.8	2.6	2.9
	女性(N = 1002)	77.5	17.8	1.4	3.3
年代別	20 歳未満(N = 27)	77.8	22.2	0.0	0.0
	20 歳代(N = 214)	80.8	17.3	1.4	0.5
	30 歳代(N = 303)	79.5	17.5	1.3	1.7
	40 歳代(N = 274)	81.8	15.3	1.1	1.8
	50 歳代(N = 362)	81.8	15.2	1.7	1.4
	60 歳代(N = 323)	67.8	25.1	3.1	4.0
	70 歳以上(N = 220)	63.2	20.9	3.6	12.3

### 生活費を渡さない

性別にみると、「どのような場合でも暴力にあたる」の割合が、男性は60.0%、女性は68.6%で、男性より女性の方が高い。

また、男性は「暴力にあたる場合とあたらない場合とがある」が27.6%で、女性の20.7%を上回っている。

図表7 - 3 - 属性別にみた「生活費を渡さない」に対する意見

		どのような場合でも 暴力にあたる	暴力にあたる場合 とあたらない場合	暴力にあたらない	無回答
性別	男性(N = 718)	60.0	27.6	9.2	3.2
	女性(N = 1002)	68.6	20.7	7.6	3.2
年代別	20 歳未満(N = 27)	55.6	40.7	3.7	0.0
	20 歳代(N = 214)	59.8	27.1	12.1	0.9
	30 歳代(N = 303)	65.7	24.8	8.3	1.3
	40 歳代(N = 274)	63.5	28.1	6.6	1.8
	50 歳代(N = 362)	69.6	19.1	9.9	1.4
	60 歳代(N = 323)	66.9	22.9	5.6	4.6
	70 歳以上(N = 220)	60.5	19.1	8.6	11.8

### 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」と言う

性別にみると、「どのような場合でも暴力にあたる」の割合が、男性54.9%、女性68.4%で、女性の方が男性よりも高い。

また、男性は「暴力にあたる場合とあたらない場合とがある」が34.8%で、女性の22.4%よりも高い。

図表7 - 3 - 属性別にみた「誰のおかげで生活できるんだ」とか「役立たず」と言う」に対する意見

		どのような場合でも 暴力にあたる	暴力にあたる場合 とあたらない場合	暴力にあたらない	無回答
性別	男性(N = 718)	54.9	34.8	6.8	3.5
	女性(N = 1002)	68.4	22.4	5.7	3.6
年代別	20 歳未満(N = 27)	81.5	18.5	0.0	0.0
	20 歳代(N = 214)	66.8	27.6	4.7	0.9
	30 歳代(N = 303)	64.4	29.7	4.6	1.3
	40 歳代(N = 274)	62.0	30.3	5.8	1.8
	50 歳代(N = 362)	65.5	27.1	5.5	1.9
	60 歳代(N = 323)	61.0	26.9	7.1	5.0
	70 歳以上(N = 220)	51.8	24.1	11.4	12.7

### 見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

性別にみても、年代別にみても、「どのような場合でも暴力にあたる」が約6割、「暴力にあたる場合とあたらない場合とがある」が約3割、となっている。

図表7 - 3 - 属性別にみた「見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる」に対する意見

		どのような場合でも暴力にあたる	暴力にあたる場合とあたらない場合	暴力にあたらない	無回答
性別	男性(N = 718)	57.4	29.7	9.9	3.1
	女性(N = 1002)	58.8	29.7	7.8	3.7
年代別	20 歳未満(N = 27)	66.7	29.6	3.7	0.0
	20 歳代(N = 214)	56.1	32.2	11.2	0.5
	30 歳代(N = 303)	63.0	27.7	7.6	1.7
	40 歳代(N = 274)	66.1	27.0	5.1	1.8
	50 歳代(N = 362)	59.1	31.2	7.7	1.9
	60 歳代(N = 303)	53.9	31.6	10.2	4.3
	70 歳以上(N = 220)	46.8	27.7	12.3	13.2

### 平手で打つ

男性は「どのような場合でも暴力にあたる」51.3%、「暴力にあたる場合とあたらない場合とがある」43.7%なのに対し、女性は「どのような場合でも暴力にあたる」58.2%、「暴力にあたる場合とあたらない場合とがある」36.7%となっている。

図表7 - 3 - 属性別にみた「平手で打つ」に対する意見

		どのような場合でも暴力にあたる	暴力にあたる場合とあたらない場合	暴力にあたらない	無回答
性別	男性(N = 718)	51.3	43.7	2.2	2.8
	女性(N = 1002)	58.2	36.7	1.6	3.5
年代別	20 歳未満(N = 27)	22.2	70.4	7.4	0.0
	20 歳代(N = 214)	46.7	50.5	1.9	0.9
	30 歳代(N = 303)	53.1	43.6	1.3	2.0
	40 歳代(N = 274)	57.7	40.5	0.4	1.5
	50 歳代(N = 362)	58.8	38.7	0.8	1.7
	60 歳代(N = 323)	56.0	37.2	2.5	4.3
	70 歳以上(N = 220)	60.0	24.5	4.5	10.9

### 殴る振りをして脅す

男性が「どのような場合でも暴力にあたる」47.4%、「暴力にあたる場合とあたらない場合とがある」42.6%なのに対し、女性は「どのような場合でも暴力にあたる」56.8%、「暴力にあたる場合とあたらない場合とがある」34.7%となっている。

図表 7 - 3 - 属性別にみた「殴る振りをして脅す」に対する意見

		どのような場合でも 暴力にあたる	暴力にあたる場合 とあたらない場合	暴力にあたらない	無回答
性別	男性(N = 718)	47.4	42.6	6.8	3.2
	女性(N = 1002)	56.8	34.7	4.7	3.8
年代別	20 歳未満(N = 27)	22.2	70.4	7.4	0.0
	20 歳代(N = 214)	40.7	48.1	11.1	0.0
	30 歳代(N = 303)	61.4	36.0	1.3	1.3
	40 歳代(N = 274)	59.9	33.9	4.4	1.8
	50 歳代(N = 362)	54.7	37.0	5.5	2.8
	60 歳代(N = 323)	44.0	43.3	8.7	4.0
	70 歳以上(N = 220)	41.4	34.5	10.5	13.6

### 大声でどなる

性別にみると、女性の方が「どのような場合でも暴力にあたる」が49.2%とやや高い。男性は「暴力にあたる場合とあたらない場合とがある」が53.1%で、「どのような場合でも暴力にあたる」34.3%よりも高い。

図表 7 - 3 - 属性別にみた「大声でどなる」に対する意見

		どのような場合でも 暴力にあたる	暴力にあたる場合 とあたらない場合	暴力にあたらない	無回答
性別	男性(N = 718)	34.3	53.1	9.5	3.2
	女性(N = 1002)	49.2	41.5	6.2	3.1
年代別	20 歳未満(N = 27)	37.0	63.0	0.0	0.0
	20 歳代(N = 214)	45.8	47.2	6.1	0.9
	30 歳代(N = 303)	44.9	48.8	4.6	1.7
	40 歳代(N = 274)	41.6	50.7	6.2	1.5
	50 歳代(N = 362)	47.0	43.6	8.0	1.4
	60 歳代(N = 323)	39.9	45.5	10.5	4.0
	70 歳以上(N = 220)	36.8	40.5	10.9	11.8

### 交友関係や電話を細かく監視する

性別にみると、男女ともに「どのような場合でも暴力にあたる」よりも「暴力にあたる場合とあたらぬ場合とがある」と答えた人の割合が高い（男性47.1% 女性43.7%）。

また、男性の13.9%、女性の12.8%が「暴力にあたらぬ」と回答している。

図表 7 - 3 - 属性別にみた「交友関係や電話を細かく監視する」に対する意見

		どのような場合でも 暴力にあたる	暴力にあたる場合 とあたらぬ場合	暴力にあたらぬ	無回答
性別	男性(N = 718)	35.0	47.1	13.9	4.0
	女性(N = 1002)	40.0	43.7	12.8	3.5
年代別	20 歳未満(N = 27)	48.1	51.9	0.0	0.0
	20 歳代(N = 214)	31.3	47.2	20.1	1.4
	30 歳代(N = 303)	36.3	46.5	15.5	1.7
	40 歳代(N = 274)	38.7	48.9	10.6	1.8
	50 歳代(N = 362)	44.2	41.4	12.2	2.2
	60 歳代(N = 323)	36.5	46.7	12.1	4.6
	70 歳以上(N = 220)	35.0	39.5	12.3	13.2

### 何をいっても長時間無視し続ける

性別にみると、男女ともに「どのような場合でも暴力にあたる」よりも「暴力にあたる場合とあたらぬ場合とがある」と答えた人の割合が高い（男性47.6% 女性45.8%）。

また、「暴力にあたらぬ」とする割合も男性14.5%、女性12.6%と、他の項目に比べて最も高い。

図表 7 - 3 - 属性別にみた「何をいっても長時間無視し続ける」に対する意見

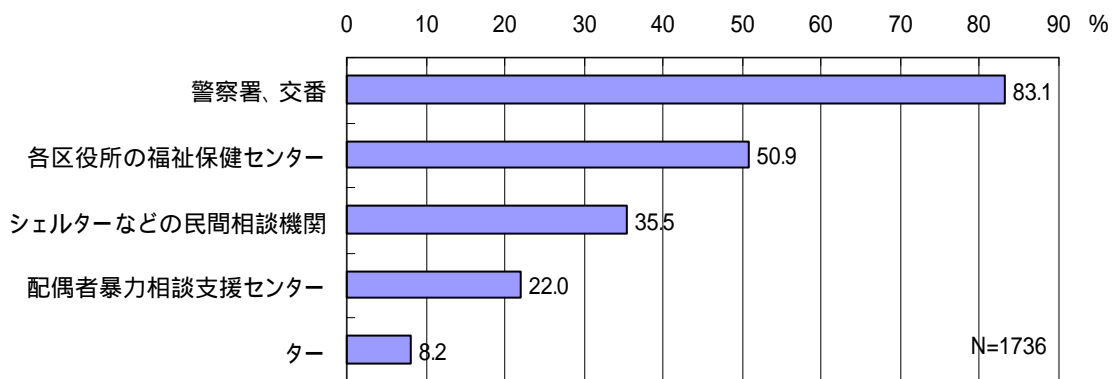
		どのような場合でも 暴力にあたる	暴力にあたる場合 とあたらぬ場合	暴力にあたらぬ	無回答
性別	男性(N = 718)	34.8	47.6	14.5	3.1
	女性(N = 1002)	38.1	45.8	12.6	3.5
年代別	20 歳未満(N = 27)	44.4	51.9	3.7	0.0
	20 歳代(N = 214)	34.1	46.7	18.2	0.9
	30 歳代(N = 303)	38.0	49.8	10.9	1.3
	40 歳代(N = 274)	37.2	50.4	10.6	1.8
	50 歳代(N = 362)	39.8	46.1	12.4	1.7
	60 歳代(N = 323)	33.7	48.3	13.3	4.6
	70 歳以上(N = 220)	34.5	35.0	18.2	12.3

### 3 女性に対する暴力についての相談機関（問19）

女性に対する暴力についての相談機関を知っているかたずねた。

「知っている」の割合をみると、「警察署、交番」が83.1%と最も知られている。

図表7 - 4 女性に対する暴力についての相談機関（「知っている」の割合）



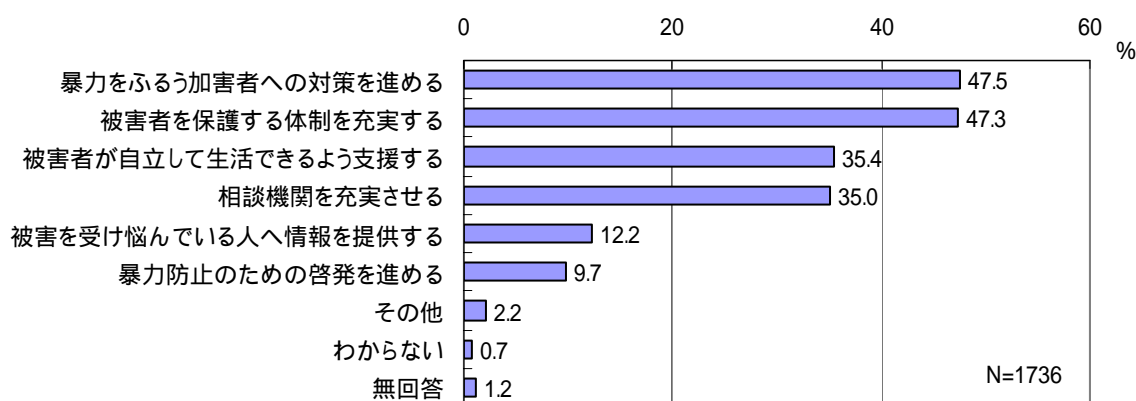


#### 4 女性に対する暴力への取り組みとして必要なこと（問20）

女性に対する暴力への取り組みとしてどのようなことが必要かをたずねた。

「暴力をふるう加害者への対策を進める」が47.5%、「被害者を保護する体制を充実する」が47.3%と、この2つの意見がほぼ同じ割合となっている。次いで「被害者が自立して生活できるように支援する」が35.4%、「相談機関を充実させる」35.0%となっている。

図表7-5 女性に対する暴力への取り組みとして必要なこと（複数回答）



#### 【属性別にみた傾向】

性別にみると、男性では「暴力をふるう加害者への対策を進める」が50.0%、女性では「被害者を保護する体制を充実する」が50.0%で、それぞれ最も高くなっている。

また、女性は「被害者が自立して生活できるように支援する」も40.6%で、男性の28.7%に比べて高い。

図表7-6 属性別にみた、女性に対する暴力への取り組みとして必要なこと（複数回答）

単位：%

	暴力をふるう加害者への対策を進める	被害者を保護する体制を充実する	被害者が自立して生活できるように支援する	相談機関を充実させる	被害を受け悩んでいる人へ情報を提供する	暴力防止のための啓発を進める	その他	わからない	無回答
<b>全体 (N = 1736)</b>	<b>47.5</b>	<b>47.3</b>	<b>35.4</b>	<b>35.0</b>	<b>12.2</b>	<b>9.7</b>	<b>2.2</b>	<b>0.7</b>	<b>1.2</b>
<b>性別</b>									
男性 (N = 718)	50.0	44.3	28.7	35.8	13.6	12.1	2.9	1.3	1.0
女性 (N = 1002)	45.9	50.0	40.6	34.9	11.2	8.0	1.6	0.3	0.7
<b>年代別</b>									
20歳未満 (N = 27)	70.4	55.6	22.2	18.5	14.8	3.7	0.0	0.0	0.0
20歳代 (N = 214)	52.3	53.7	28.5	29.0	15.4	7.9	6.5	0.0	0.0
30歳代 (N = 303)	54.5	53.5	35.6	27.7	11.9	6.9	1.7	0.7	0.3
40歳代 (N = 274)	50.4	52.6	34.3	32.8	10.6	8.4	2.2	0.7	0.4
50歳代 (N = 362)	42.8	51.7	44.2	34.8	10.5	6.4	1.9	0.6	0.6
60歳代 (N = 303)	42.7	40.9	37.2	42.7	12.7	12.7	0.9	0.9	1.2
70歳以上 (N = 220)	42.7	28.6	29.5	46.4	12.7	18.6	1.4	1.8	2.7

\* 合計よりも5ポイント高い数値に

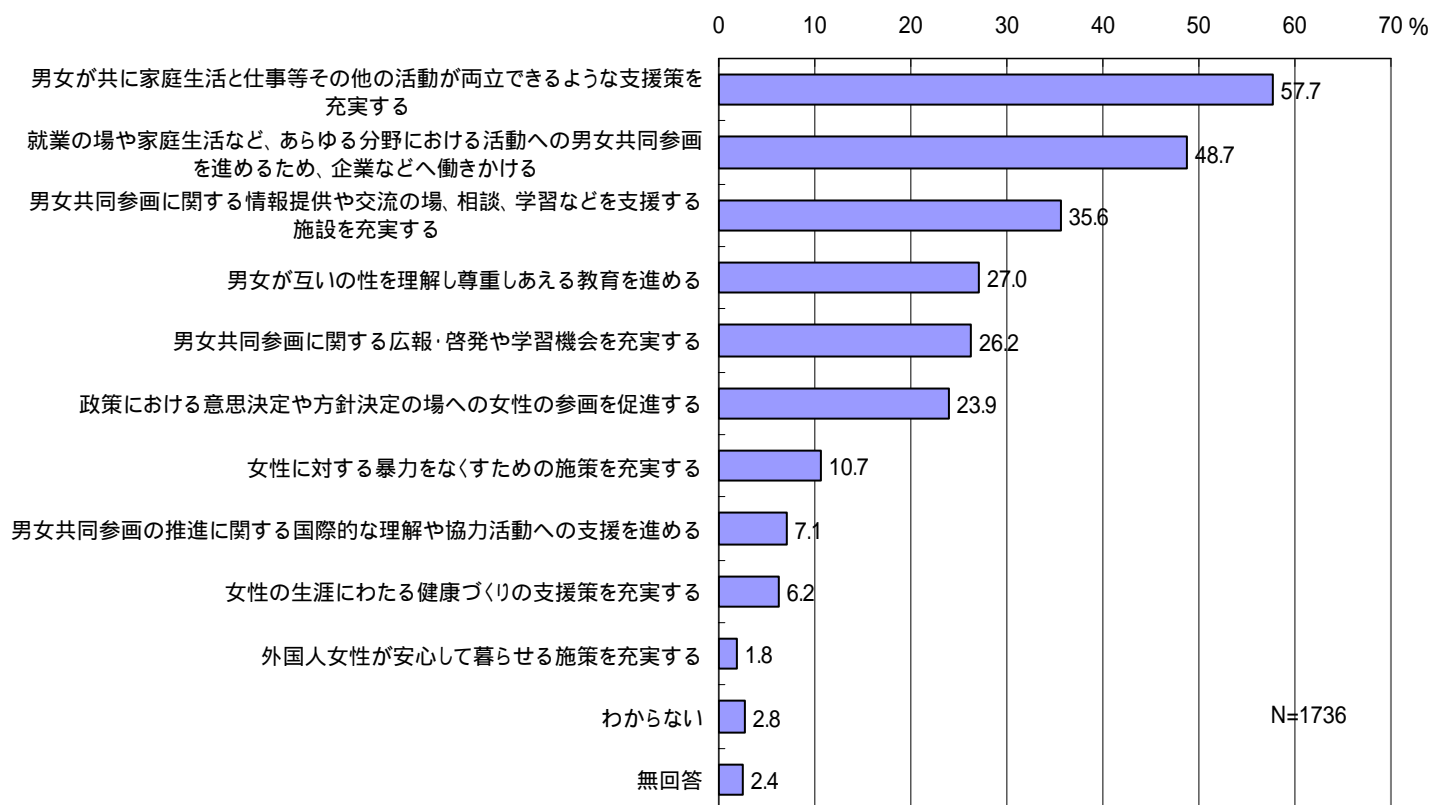
## 第8章 行政への要望について

### 1 「男女共同参画社会」を形成していくために取り組むべきこと（問21）

「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、国や自治体が特に力を入れて取り組むべきことは何かたずねた。

「男女が共に家庭生活と仕事等その他の活動が両立できるような支援策を充実する」が57.7%と最も高く、以下「就業の場や家庭生活など、あらゆる分野における活動への男女共同参画を進めるため、企業などへ働きかける」48.7%、「男女共同参画に関する情報提供や交流の場、相談、学習などを支援する施設を充実する」35.6%、「男女が互いの性を理解し尊重しあえる教育を進める」27.0%と続いている。

図表8-1 「男女共同参画社会」を形成していくために取り組むべきこと（複数回答）



【属性別にみた傾向】

性別にみると、男女ともに「男女が共に家庭生活と仕事等その他の活動が両立できるような支援策を充実する」が最も高くなっているが、その割合は女性の方が高い。また「男女共同参画に関する広報・啓発や学習機会を充実する」は男性の方が高い。

有職者と無職者を比べた場合、「男女が共に家庭生活と仕事等その他の活動が両立できるような支援策を充実する」と「就業の場や家庭生活など、あらゆる分野における活動への男女共同参画を進めるため、企業などへ働きかける」は有職者の方が無職者より高く、「男女共同参画に関する情報提供や交流の場、相談、学習等を支援する施設を充実する」と「男女共同参画に関する広報・啓発や学習機会を充実する」は有職者より無職者の方が高くなっている。

図表8 - 2 属性別にみた「男女共同参画社会」を形成していくために取り組むべきこと（複数回答）

単位：%

		男女が共に家庭生活と仕事等その他の活動が両立できるような支援策を充実する	就業の場や家庭生活など、あらゆる分野における活動への男女共同参画を進めるため、企業などへ働きかける	男女共同参画に関する情報提供や交流の場、相談、学習等を支援する施設を充実する	男女が互いの性を理解し尊重しあえる教育を進める	男女共同参画に関する広報・啓発や学習機会を充実する	政策における意思決定や方針の場への女性の参画を促進する	女性に対する暴力をなくすための施策を充実する	男女共同参画を推進する国際的な協力活動への支援を進める	女性の生涯にわたる健康づくりの支援策を充実する	外国人女性が安心して暮らせる施策を充実する	わからない	無回答
全体 (N=1736)		57.7	48.7	35.6	27.0	26.2	23.9	10.7	7.1	6.2	1.8	2.8	2.4
性別	男性 (N = 718)	54.3	46.9	37.0	24.7	31.3	24.2	8.8	8.1	4.2	2.2	2.4	2.6
	女性 (N = 1002)	60.8	50.4	34.9	28.9	22.5	24.0	12.2	6.4	7.6	1.5	3.0	1.5
仕事の有無	有職 (N = 1002)	59.9	51.1	33.8	27.7	24.5	24.0	9.5	6.7	5.6	2.2	2.4	2.0
	無職 (N = 714)	56.0	45.5	38.5	26.3	29.0	23.8	12.6	8.0	6.7	1.3	3.1	2.0

\* 合計よりも5ポイント高い数値に

## 資料編

# 「男女共同参画に関するアンケート」調査票及び性別単純集計結果

## 男女共同参画に関するアンケート

調査の趣旨とご協力をお願い

平素から、市政にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

横浜市では、平成13年に「男女共同参画推進条例」を制定しました。さらに平成14年には条例に基づく行動計画を策定し、男女共同参画推進のための様々な取り組みを行っています。

「男女共同参画」とは、「男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって、社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担う」ことを意味します。しかし、現実には性別に基づく役割分担意識や社会慣行は依然として根強く存在し、あらゆる分野で、男女が対等な構成員として共に個性と能力を発揮するためには、解決すべき多くの問題を抱えています。

このような状況を踏まえ、横浜市が男女共同参画の施策をさらに進めるために、「男女共同参画に関するアンケート」を行い、市民の皆様のお考えをうかがうこととなりました。

今回、ご回答をお願いしているのは、横浜市にお住まいの18歳以上の方5,000人で、無作為に選ばせていただきました。調査の結果については、すべて統計的に処理した上で、分析しますので、個人の名前が出たり、他の目的に使用することは決してありません。ご多忙とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成15年1月

横浜市市民局男女共同参画推進室

### ご記入にあたって

- 1 この調査は、あなた（あて名の方）ご自身のお考えでご記入ください。
- 2 ご回答は、特に説明のない限り、あてはまる項目を選び、その番号を で囲んでください。なお、設問には（ は1つ ）（ は2つまで ）（ はいくつでも ）と書いてありますので、その数にしたがってご回答ください。
- 3 回答が「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが（ ）内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 4 一部の方だけお答えいただく設問もありますが、その場合は の指示にしたがってお答えください。
- 5 ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて封をし（切手は不要です）、平成15年1月31日（金）までにご投函くださいますようお願いいたします。

調査の趣旨や目的に関するお問い合わせは

横浜市市民局男女共同参画推進室

〒231-0017 横浜市中区港町 1-1

TEL.045-671-2035 担当：内藤、飯塚

調査の内容や回答方法に関するお問い合わせは

（財）日本総合研究所

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-21-2

TEL.03-3351-7575 担当：小林

## 男女共同参画に関するアンケート

N：該当する回答者総数（特に記載がない場合はN = 1736）

（ ）のない数値：女性の回答(%)、（ ）内の数値：男性の回答(%)、N.A.：不明回答

### 男女の役割や地位に関する意識について

問1 あなたは、以下の意見についてどう思いますか。(1)～(5)それぞれについてお答え下さい。( はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	N.A.
(1) 男は仕事、女は家庭を中心にする方がよい	14.6 (28.3)	40.6 (38.4)	44.6 (32.9)	0.2 (0.4)
(2) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけた方がよい	35.3 (67.8)	37.6 (20.2)	26.3 (11.8)	0.7 (0.1)
(3) 夫婦は別々の姓を名乗っても構わない	42.2 (32.0)	29.9 (24.9)	27.0 (42.6)	0.8 (0.4)
(4) 妻は当然、夫の家の墓に入るものだ	17.1 (32.5)	34.5 (36.6)	47.3 (30.4)	1.1 (0.6)
(5) 人にはそれぞれ向き不向きがあるのだから、男か女かによって生き方を決めつけてしまわない方がよい	89.0 (83.6)	7.9 (11.4)	2.9 (4.6)	0.2 (0.4)

問2 あなたは、以下のような各分野で、男女は対等になっていると思いますか。(1)～(7)それぞれについてお答え下さい。( はそれぞれ1つずつ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	対等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	N.A.
(1) 家庭生活で	15.0 (8.2)	55.8 (48.2)	17.6 (31.5)	7.0 (8.6)	1.9 (2.1)	2.8 (1.4)
(2) 職場で	34.8 (20.1)	52.0 (51.3)	8.2 (19.5)	1.6 (5.6)	0.5 (1.8)	2.9 (1.8)
(3) 学校教育の場で	4.1 (2.1)	23.2 (13.9)	63.5 (72.4)	2.6 (5.8)	0.4 (1.3)	6.3 (4.5)
(4) 町内会・自治会活動の場で	12.7 (6.7)	42.6 (28.1)	32.7 (46.9)	6.3 (13.0)	0.8 (1.8)	4.9 (3.5)
(5) 政治の場で	49.1 (27.9)	38.4 (44.2)	9.4 (23.5)	0.7 (1.8)	0.0 (0.6)	2.4 (2.1)
(6) 法律や制度の上で	22.6 (8.4)	46.5 (34.3)	22.1 (45.8)	4.4 (7.8)	0.7 (1.4)	3.8 (2.4)
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで	40.1 (23.0)	48.7 (59.2)	7.4 (13.0)	2.0 (2.8)	0.0 (0.7)	1.8 (1.4)

問3 横浜市では「横浜市男女共同参画推進条例(平成13年4月1日施行)」に基づき、平成14年7月に「横浜市男女共同参画行動計画(いきいき 未来計画)」を策定しました。あなたは「横浜市男女共同参画推進条例」や「横浜市男女共同参画行動計画(いきいき 未来計画)」を知っていますか。

(1)「横浜市男女共同参画推進条例」について( は1つ)

1 内容まで知っている	0.6(0.7)	2 名称だけは聞いたことがある	20.5(19.4)
3 知らない	77.9(78.3)		N.A. 1.0(1.7)

(2)「横浜市男女共同参画行動計画(いきいき 未来計画)」について( は1つ)

1 内容まで知っている	0.8(0.6)	2 名称だけは聞いたことがある	15.8(15.7)
3 知らない	82.2(81.8)		N.A. 1.2(1.9)

家事・育児・介護などの家庭生活に場面での分担について

問4 【配偶者またはパートナーと同居されている方にうかがいます（それ以外の方は、問6へ進んでください）】次にあげる家事等は主にどなたが担っていますか。（1）～（7）それぞれについてお答え下さい。（ はそれぞれ1つずつ）

N=1273

	自分	配偶者またはパートナー	その他	N.A.
(1) 食事の用意	88.9( 3.6)	5.9(86.5)	3.9( 5.2)	1.3(4.7)
(2) 食事の後かたづけ	82.7( 9.6)	10.4(74.4)	5.3(11.0)	1.5(5.1)
(3) 食料品・日用品の買い物	76.6( 4.9)	12.8(71.5)	8.6(18.8)	2.1(4.9)
(4) 掃除	81.1(10.3)	10.7(69.5)	6.6(15.5)	1.7(4.7)
(5) 洗濯	88.2( 4.9)	7.2(82.9)	3.1( 7.6)	1.5(4.7)
(6) 日常の家計管理	82.0(10.8)	11.8(78.3)	4.3( 6.1)	1.8(4.7)
(7) 町内会・自治会等の地域活動	59.7(24.4)	21.5(49.6)	16.8(20.6)	2.0(5.4)

問5 【配偶者またはパートナーと同居されている方で、小学生以下のお子さんのいる方にうかがいます（それ以外の方は問6へ進んでください）】次にあげる育児は主にどなたが担っていますか（いましたか）。（1）～（6）についてそれぞれお答え下さい。（ はそれぞれ1つずつ）

N=236

	自分	配偶者またはパートナー	その他	N.A.
(1) ミルク・食事の世話	75.2( 1.4)	4.2(67.6)	1.8( 9.9)	18.8(21.1)
(2) おしめの取り替え・排泄の世話	64.2( 5.6)	10.9(57.7)	5.5(18.3)	19.4(18.3)
(3) お風呂に入れる	39.4(28.2)	31.5(25.4)	9.1(26.8)	20.0(19.7)
(4) 保育園や幼稚園の送迎	59.4( 4.2)	6.7(49.3)	11.5(25.4)	22.4(21.1)
(5) しつけをする	52.7( 9.9)	13.9(36.6)	14.5(33.8)	18.8(19.7)
(6) 勉強をみる	43.6(15.5)	15.8(38.0)	17.6(25.4)	23.0(21.1)
(7) 幼稚園・学校の行事への参加	54.5( 7.0)	7.3(39.4)	15.8(32.4)	22.4(21.1)

問6 あなたの家庭には介護が必要な方が同居されていますか。（ は1つ）

1 いる 7.4(6.0) SQ1へ 2 いない 89.3(91.2) 問7へ N.A. 3.3(2.8)



SQ1 【問6で「1 いる」とお答えの方にうかがいます】その方の介護を主になさっているのはどなたですか。要介護の方からみた続柄でお答え下さい。( は1つ)

N = 118

1 妻	20.3(25.6)	2 夫	6.8(14.0)	3 娘	29.7(16.3)
4 息子	4.1( 9.3)	5 息子の配偶者	13.5( 9.3)	6 娘の配偶者	0.0( 0.0)
7 孫	0.0( 0.0)	8 兄弟姉妹	4.1( 0.0)	9 その他	14.9(23.3)
					N.A. 6.8( 2.3)

問7 あなたは、次にあげる家庭における役割は夫と妻のどちらが行うのが望ましいと思いますか。(1)～(4)それぞれについてお答え下さい。( はそれぞれ1つずつ)

	主に妻	主に妻 で夫が 一部分 担	夫と妻 と同じ 程度分 担	主に夫 で妻が 一部分 担	主に夫	N.A.
(1) 炊事、洗濯、掃除などの家事	18.0 (22.6)	54.7 (53.3)	24.8 (21.7)	0.1 (0.3)	0.0 (0.3)	2.5 (1.8)
(2) 育児、子どもの養育	4.8 (10.4)	30.0 (36.1)	60.4 (47.9)	0.5 (0.1)	0.1 (0.3)	4.2 (5.2)
(3) 高齢の親の介護	3.2 (5.4)	21.3 (25.2)	70.2 (62.0)	0.7 (1.5)	0.3 (0.3)	4.4 (5.6)
(4) 町内会・自治会活動	5.7 (10.7)	13.4 (17.3)	58.4 (46.1)	16.2 (15.0)	4.0 (8.1)	2.4 (2.8)

問8-1 育児や家族介護を行うために育児休業や介護休業を取得できる制度がありますが、あなたは、男性が育児休業や介護休業をとることについてどう思いますか。

(1) 育児休業制度 ( は1つ)

1 積極的にとった方がよい	41.7(29.5)	
2 どちらかといえばとった方がよい	38.9(38.6)	
3 どちらかといえばとらない方がよい	7.8(15.2)	
4 とらない方がよい	2.0( 5.6)	
5 わからない	7.9( 8.1)	N.A.1.7 ( 3.1)

(2) 介護休業制度 ( は1つ)

1 積極的にとった方がよい	50.8(36.4)	
2 どちらかといえばとった方がよい	35.7(40.3)	
3 どちらかといえばとらない方がよい	3.5(10.0)	
4 とらない方がよい	0.7( 2.9)	
5 わからない	7.1( 6.7)	N.A.2.2 ( 3.8)

問8-2 あなたは、男性が育児休業や介護休業をとることについて、現在、社会や企業の支援は十分だと思いますか。(1)(2)についてお答え下さい。( はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	ある程度 そう思う	あまりそ うは思わ ない	そう思わ ない	わからな い	N.A.
(1) 育児休業	2.1 (2.9)	5.2 (7.7)	25.0 (26.2)	58.0 (54.7)	6.9 (6.1)	2.8 (2.4)
(2) 介護休業	1.8 (2.9)	5.3 (6.5)	21.7 (25.5)	60.4 (56.4)	7.9 (6.1)	3.0 (2.5)

問9 あなたは、男性と女性がともに家事、育児、介護等を担っていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。( は1つ)

1 男女の固定的な役割分担意識を変えるための広報・啓発活動を充実する	8.2( 9.3)
2 学校教育や生涯学習の場で男女共同参画についての学習機会を充実する	12.2(15.3)
3 家事、育児、介護等がしやすい労働環境を企業が整備する	45.3(40.8)
4 就労状況にあった保育サービス(乳児保育、延長保育等)や介護サービスを充実する	24.4(21.3)
5 その他( )	2.6( 5.8)
6 特になし	1.1( 1.3)
7 わからない	2.8( 2.9)
	N.A 3.5( 3.2)

#### さまざまな地域活動への参加について

問10-1 あなたは、この3年くらいに、仕事以外に家庭の外で、以下のような活動に 参加したことがありますか。また 今後参加してみたい活動はありますか。 、 それぞれについてお答えください。( はいいくつでも)

	参加したこ とがある	今後参加し てみたい
(1) 一人でする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動	46.1(39.8)	24.3(30.9)
(2) 仲間とする学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽活動	52.5(44.4)	28.8(35.5)
(3) 町内会や自治会などの地域活動	43.9(35.5)	12.5(23.5)
(4) 民生委員など公的な立場で地域社会に貢献するような活動	6.0( 5.3)	22.6(32.2)
(5) *NPO(非営利団体)やボランティアなどの活動	12.9( 8.5)	36.2(40.8)
	N.A.	24.6(32.0)
		37.2(34.1)

\*NPO(非営利団体)とは、非営利の事業や活動を行う民間団体のことをいいます。

問 10-2 【問 10-1 で、(1) ~ (5) のいずれの活動にも参加したことがない方 ( 参加したことがあるに が1つもない方) にうかがいます】参加したことがないのはどのような理由ですか。( はいくつでも)

N = 483

1 関心がない	11.7(15.7)	2 時間がとれない	47.2(43.5)
3 きっかけがない	41.1(48.3)	4 情報がない	20.6(26.1)
5 その他 ( )	11.3( 4.8)	N.A.	8.9( 7.4)

問 11 男性と女性がともにさまざまな活動に積極的に参画していくために、あなたは、どのようなことが必要だと思いますか。( は1つ)

1 男女がともに地域活動に参加することの大切さを広報・啓発する	7.3(11.4)
2 学校教育や生涯学習の場で男女共同参画についての学習機会を充実する	9.9(11.7)
3 さまざまな活動に関する情報提供など身近な情報を充実する	28.5(24.0)
4 仕事以外の活動に費やせる時間を増やすように、企業が労働環境を変えていく	24.5(27.9)
5 さまざまな活動に参画しやすいよう子育てや介護の支援サービスなどを充実する	18.3(10.6)
6 その他 ( )	2.1( 4.5)
7 特にない	3.2( 3.2)
8 わからない	2.7( 2.8)
	N.A. 3.6( 4.0)

### 生き方について

問 12 あなたがお考えになる「女性の仕事や結婚についての理想像」はどれに近いですか。( は1つ)

1 結婚をせずに、仕事を続ける	0.9( 0.1)
2 結婚はするが、出産はせず、仕事を続ける	1.3( 0.7)
3 結婚をし、出産をし、仕事も続ける	23.6(18.4)
4 結婚を機に仕事をやめて家庭に入る	3.4( 4.9)
5 出産を機に仕事をやめて家庭に入る	4.0( 7.1)
6 結婚を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事につく	12.4(13.8)
7 出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事につく	46.2(42.9)
8 仕事にはつかずに、家庭に入る	1.1( 1.5)
9 その他 ( )	2.3( 3.9)
10 特にない	1.2( 2.4)
11 わからない	1.1( 1.8)
	N.A. 2.6( 2.5)

問 13 結婚、家庭、離婚について、次のような考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(1)～(5)それぞれについてお答え下さい。( はそれぞれ1つずつ)

	そう 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	N.A.
(1)「結婚」という形式にとらわれず、「生涯独身」という生き方があってもよい	53.2 (40.7)	18.0 (16.3)	10.3 (14.9)	10.9 (22.0)	4.7 (3.2)	3.0 (2.9)
(2)「結婚」という形式にとらわれず、「パートナーと暮らす」という生き方があってもよい	45.2 (33.1)	18.3 (17.7)	14.4 (14.6)	14.8 (27.4)	5.0 (3.8)	2.4 (3.3)
(3)「結婚」をしないで、「子供を産み育てる」という生き方があってもよい	21.0 (17.8)	14.5 (10.0)	22.0 (16.9)	34.4 (47.8)	5.0 (4.3)	3.2 (3.2)
(4)「結婚」をしても、必ずしも子どもを持つ必要はない	41.0 (31.6)	18.5 (16.0)	15.9 (17.3)	16.1 (26.7)	5.8 (5.0)	2.8 (3.3)
(5)夫婦間の愛情や信頼がなくなれば、離婚するのもやむを得ない	57.8 (50.0)	26.0 (29.2)	4.6 (7.9)	3.6 (5.7)	5.6 (3.8)	2.4 (3.3)

#### 性に関する情報について

問 14 女性の性が商品として扱われることは、女性に対する人権の侵害にあたります。女性の性が商品化され、女性の人権が侵害されていると、あなたが思うのはどのようなことですか。( はいくつでも)

1 売買春	59.1 ( 52.2 )
2 援助交際	45.6 ( 39.6 )
3 ソープランドなどの性風俗営業	44.7 ( 33.8 )
4 女性のヌード写真などを掲載している新聞や雑誌	39.3 ( 25.1 )
5 女性の性を誇張した広告	53.4 ( 38.9 )
6 ポルノ雑誌・コミックやアダルトビデオ等	44.4 ( 31.3 )
7 インターネットのアダルト向けホームページ	42.9 ( 31.3 )
8 その他 ( )	3.7 ( 5.2 )
9 特になし	6.9 ( 13.1 )
	N.A. 3.8 ( 2.8 )

問 15 あなたは、女性の性が商品化されるのは、どのようなことが原因だと思いますか。  
( は2つまで)

1	学校での性や人権に関する教育が不足している	13.7(14.8)
2	家庭での性や人権に関する情報提供、啓発が不足している	11.5( 9.9)
3	メディアからの性に関する情報が氾濫している	43.7(36.1)
4	性風俗営業の規制が不足している	14.7(12.5)
5	個人の問題意識が低下している	45.6(44.2)
6	社会全体の性に関するモラルが低い	44.5(38.3)
7	その他( )	2.6( 6.8)
8	わからない	2.0( 3.8)
		N.A. 1.1( 1.9)

問 16 女性の性が商品化されている一方で、性に関する正しい情報を得ることができない、という意見がありますが、あなたはこのことについてどのように思いますか。( は1つ)

1	そう思う	22.2(18.9)	SQ 1 へ
2	どちらかといえばそう思う	39.4(34.7)	SQ 1 へ
3	どちらかといえばそう思わない	12.4(13.2)	問 17 へ
4	そう思わない	10.3(20.5)	問 17 へ
5	わからない	11.4( 8.5)	問 17 へ
		N.A. 4.4( 4.2)	

SQ 1 【問 16 で「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」とお答えの方にうかがいます】では、性に関する正しい情報を得るために、あなたは何が必要だと思いますか。( は2つまで)

N = 1011

1	学校教育での人権や性に関する学習	65.2(62.9)
2	家庭内での性に関する教育	33.7(30.1)
3	人権や性に関する広報、啓発及び学習の機会	36.1(40.3)
4	性に関する相談の充実	25.1(25.5)
5	特にない	1.0( 0.3)
6	その他( )	1.9( 3.4)
7	わからない	0.8( 1.3)
		N.A. 0.6( 0.8)

問 17 【女性の方にうかがいます(男性の方は問 18 へ進んでください)】女性は、妊娠、出産や女性特有の病気など、男性と異なる健康上の問題を生じることがあります。女性の生涯にわたる健康づくりのための支援策として、あなたは何が必要だと思いますか。(は2つまで)

N = 1002

1	女性の健康に関する学習機会の充実	25.0
2	女性の健康に関する情報の提供	45.0
3	女性特有の病気を克服した人による相談	8.2
4	横浜女性フォーラムでの相談	3.0
5	区役所の福祉保健センターでの相談	12.4
6	医療機関での女性専門の外来の設置	65.4
7	その他 ( )	3.0
8	わからない	1.4
		N.A. 6.1

### 女性に対する暴力について

\*夫や恋人、パートナー等からの女性に対する暴力等の根絶は、横浜市男女共同参画推進条例の基本理念の1つとして掲げられています。また、平成13年10月には、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が施行され、配偶者からの暴力は犯罪である、と明示されました。現在、配偶者等による暴力の被害者を救済するための様々な取り組みが進められています。

問 17 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)についてご存じですか。(は1つ)

N = 1002

1	内容まで知っている	17.6	2	名称は聞いたことがある	63.0
3	知らない	16.8		N.A.	2.7

問 18 あなたは、次のようなことが夫や恋人、パートナーから女性に対して行われた場合、それを暴力だと思えますか。(1)～(12)それぞれについてお答えください。( はそれぞれ1つずつ)

	どのよう な場合で も暴力に あたると 思う	暴力にあ たる場合 とそうで ない場合 があると思 う	暴力にあ たると思 わない	N.A.
(1) 平手で打つ	58.2(51.3)	36.7(43.7)	1.6( 2.2)	3.5( 2.8)
(2) 足で蹴る	83.6(82.5)	12.5(13.4)	0.7( 1.3)	3.2( 2.9)
(3) 身体を傷つける可能性のある物などで 殴る	93.8(92.5)	2.4( 2.8)	0.8( 1.7)	3.0( 3.1)
(4) 殴る振りをして脅す	56.8(47.4)	34.7(42.6)	4.7( 6.8)	3.8( 3.2)
(5) 刃物などを突きつけて脅す	94.4(92.2)	1.9( 2.5)	0.9( 1.7)	2.8( 3.6)
(6) 相手がいやがっているのに性的な行為 を強制する	77.5(74.7)	17.8(19.8)	1.4( 2.6)	3.3( 2.9)
(7) 見たくないのにアダルトビデオやポル ノ雑誌を見せる	58.8(57.4)	29.7(29.7)	7.8(9.9)	3.7( 3.1)
(8) 何をいっても長時間無視し続ける	38.1(34.8)	45.8(47.6)	12.6(14.5)	3.5( 3.1)
(9) 交友関係や電話を細かく監視する	40.0(35.0)	43.7(47.1)	12.8(13.9)	3.5( 4.0)
(10) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか 「役立たず」と言う	68.4(54.9)	22.4(34.8)	5.7( 6.8)	3.6( 3.5)
(11) 大声でどなる	49.2(34.3)	41.5(53.1)	6.2( 9.5)	3.1( 3.2)
(12) 生活費を渡さない	68.6(60.0)	20.7(27.6)	7.6( 9.2)	3.2( 3.2)

問 19 女性に対する暴力について、次の相談機関がありますが、知っていますか。(1)～(5)についてそれぞれお答えください。( はそれぞれ1つずつ)

	知っている	知らない	N.A.
(1) 配偶者暴力相談支援センター	23.0(20.9)	74.7(75.9)	2.4( 3.2)
(2) 各区役所の福祉保健センター	49.7(52.6)	47.9(44.7)	2.4( 2.6)
(3) 横浜市男女共同参画相談センター	8.3( 8.1)	88.8(88.3)	2.9( 3.6)
(4) 警察署、交番	81.6(85.7)	16.4(12.1)	2.0( 2.2)
(5) * シェルターなど民間の相談機関	42.6(26.0)	54.9(69.9)	2.5( 4.0)

\* 配偶者等から暴力の被害を受けた女性等を一時保護する施設

問 20 あなたは、女性に対する暴力への取り組みとして、どのようなことが必要だと思いますか。( は2つまで)

1 暴力防止のための啓発を進める	8.0(12.1)
2 被害を受け悩んでいる人へ情報を提供する	11.2(13.6)
3 相談機関を充実させる	34.9(35.8)
4 被害者を保護する体制を充実する	50.0(44.3)
5 被害者が自立して生活できるように支援する	40.6(28.7)
6 暴力をふるう加害者への対策を進める	45.9(50.0)
7 その他 ( )	1.6( 2.9)
8 わからない	0.3( 1.3)
	N.A. 0.7( 1.0)

### 行政への要望について

問 21 あなたは、「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、国や自治体が特に力を入れて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。( は3つまで)

1 男女共同参画に関する広報・啓発や学習機会を充実する	22.5(31.3)
2 就業の場や家庭生活など、あらゆる分野における活動への男女共同参画を進めるため、企業などへ働きかける	50.4(46.9)
3 政策における意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する	24.0(24.2)
4 男女が共に家庭生活と仕事等その他の活動が両立できるような支援策を充実する	60.8(54.3)
5 男女が互いの性を理解し尊重しあえる教育を進める	28.9(24.7)
6 女性の生涯にわたる健康づくりの支援策を充実する	7.6( 4.2)
7 男女共同参画の推進に関する国際的な理解や協力活動への支援を進める	6.4( 8.1)
8 外国人女性が安心して暮らせる施策を充実する	1.5( 2.2)
9 女性に対する暴力をなくすための施策を充実する	12.2( 8.8)
10 男女共同参画に関する情報提供や交流の場、相談、学習などを支援する施設を充実する	34.9(37.0)
11 わからない	3.0( 2.4)
	N.A. 1.5( 2.6)

他にあれば何でも下欄にお書きください。

別紙 自由回答のまとめ参照



あなた自身のことについて

問 22 あなたの性別

1 男性	41.4	2 女性	57.7	N.A.	0.9
------	------	------	------	------	-----

問 23 あなたの年代 ( は1つ)

1 20歳未満	1.2( 2.1)	2 20~24歳	6.4( 3.6)	3 25~29歳	7.6( 6.5)
4 30~34歳	10.6( 7.8)	5 35~39歳	8.9( 7.1)	6 40~44歳	8.3( 7.7)
7 45~49歳	8.9( 6.5)	8 50~54歳	11.2(11.7)	9 55~59歳	9.5( 9.9)
10 60~64歳	9.2(11.3)	11 65~69歳	7.6(10.0)	12 70歳以上	10.6(15.6)
					N.A. 0.2( 0.1)

問 24 あなたがお住まいの区 ( は1つ)

1 鶴見区	5.0(5.7)	2 神奈川区	6.1(5.0)	3 西区	2.0(1.9)
4 中区	3.4(3.5)	5 南区	4.6(5.7)	6 港南区	7.2(7.7)
7 保土ヶ谷区	6.4(5.6)	8 旭区	6.6(7.7)	9 磯子区	4.4(6.1)
10 金沢区	6.8(8.5)	11 港北区	9.9(8.4)	12 都筑区	4.7(4.6)
13 緑区	5.5(3.5)	14 青葉区	8.2(7.0)	15 戸塚区	6.5(6.8)
16 栄区	3.9(4.9)	17 泉区	4.9(3.3)	18 瀬谷区	4.1(3.6)
					N.A. 0.0(0.6)

問 25 あなたは結婚していらっしゃいますか。( は1つ)

1 結婚している (配偶者と同居)	69.3(75.5)
2 結婚していないがパートナーと暮らしている	1.9( 1.7)
3 結婚している (配偶者と別居)	1.7( 1.1)
4 離別、死別	12.0( 4.0)
5 結婚していない	14.9(17.5)
N.A. 0.3( 0.1)	

問 26 あなたが現在、同居しているご家族の構成は次のうちどれですか。( は1つ)

1 一人世帯	11.3(11.7)
2 夫婦世帯 (同居しているカップルのみ)	24.1(28.3)
3 二世帯 (親と子ども)	52.4(51.8)
4 三世帯 (親と子どもと孫)	9.5( 5.2)
5 その他 ( )	2.1( 2.4)
N.A. 0.7( 0.7)	

問 27 あなたは、現在収入を伴う仕事をしていますか。( は1つ)

1 している	49.9(69.2)	2 していない	49.1(30.4)	問 28 へ	N.A. 1.0(0.4)
--------	------------	---------	------------	--------	---------------

SQ1 【問27で「1 している」とお答えの方にうかがいます】どのような形で働いていますか。( はいくつでも)

N = 1002

1 正社員・正規職員	32.0(69.6)
2 パート、アルバイト、嘱託、非常勤職員、派遣登録社員	52.6(13.3)
3 自営業・自由業	6.0(14.5)
4 家族従業者	4.0( 0.0)
5 家庭内職、在宅ワーク	3.8( 0.2)
6 その他( )	1.8( 2.0)
	N.A 0.8( 0.8)

配偶者のいない方は、これで終了です。

配偶者(結婚はしてないがパートナーと暮らしている方も含みます)のいる方は問28をお答えください。

問28 配偶者またはパートナーの方は、現在収入を伴う仕事をしていますか。( は1つ )

N = 1298

1 している 75.8(38.8)	SQ1へ	2 していない 20.3(56.8)	これで終了です
			N.A 4.0(4.4)

SQ1 【問28で「1 している」とお答えの方にうかがいます】配偶者またはパートナーの方はどのような形で働いていますか。( はいくつでも)

N = 773

1 正社員・正規職員	74.9(24.3)
2 パート、アルバイト、嘱託、非常勤職員、派遣登録社員	9.2(57.8)
3 自営業・自由業	13.2( 6.0)
4 家族従業者	0.9( 8.3)
5 家庭内職、在宅ワーク	0.4( 1.8)
6 その他( )	1.1( 1.4)
	N.A 0.9( 0.9)

ご協力ありがとうございました

## 別紙 自由回答のまとめ

### < 女性の意見 >

男女の違いをしっかりと理解する教育をし、男女の固定的役割分担意識を変えていく必要がある。(20歳代)
これからの社会は、学校や家庭での教育学習の充実や個人の意識が大切である。また、それらを指導してゆく立場の者の教育も徹底していくこと。(20歳代)
男性の教育が必要。(30歳代)
本来なら家庭の中で、人権の尊重や人に対する思いやりなど基本的な道徳を学ばなければならないが、現代の親ですら、学んでいない状況。学校や自治体が子供と親を交えて人間一人一人を尊敬しあえるような教育を行うこと。女性も男性も双方に理解できる学習が大切だと思う。(30歳代)
男女の性差、人権などに関する具体的な啓発、学習は小学校から常に機会を設け、その際、保護者も参加し、家庭で話し合うきっかけを作るなど具体的、積極的に行ってほしい。(40歳代)
男女共同でといって、むしろ親が子供から離れていってしまっているのが現在の状況ではないだろうか。男女共同だから女性が手を離していいのではなく、双方が歩み寄るような関わり方がもっと必要である。(40歳代)
子供の時からの教育が大切だと思う。(50歳代)
教育において性差別をなくし、性による男女の相違にもとづく、役割のありかたを教えるべきである。(60歳代)
大学を卒業するまでは、平等の教育がされているが、社会に出ればすべて平等ではない。(70歳以上)
家庭生活の中で個人個人が考えて子育てをするのは重要だが、個を重んじるから孤立化しやすい。家庭の温もりが少ない。(70歳以上)
保育制度の充実が必要。保育が不安だと女性の社会へ出る機会が減り、収入も消費もなく、経済は悪くなる。(20歳代)
女性が子供を産んだ場合、仕事と子育ての両立はとても大変だし、その事で女性が出産をしないことを選択しているのも多いと思う。保育所の増設等「産みたい」と思えるような環境づくりをしてほしい。(20歳代)
女性が働きやすくするように、支援策として保育所、夜間保育、一時預かりなどの充実などと言われるが、やはり家庭あつての家族。家族の温かみを知って、大事に育てることこそが大事だと思う。(20歳代)
産休、育休の期間延長、保育所の増設など女性が子供を産んでも働き続けていけるような社会を作ってほしい。環境が整っていると子供を産み易くなるし、働き続けられることで、将来の不安もなくなり女性も自立できる。(30歳代)
子供が2～3歳になったら、保育園に預けて働きたいと思っているが、産休中で復帰する職場がある人が優先。今働いていないから受け入れてくれないという矛盾が現実にある。(30歳代)
出産しても働けるように子供を預けられる施設や補助支援を進めてほしい。(30歳代)
子供をもって、保育所の少なさに驚いた。(30歳代)
児童手当をもう少し上げられないのだろうか。(30歳代)
保育所の定員を増やす。(30歳代)
結婚、出産、仕事について全て個々の考えで意志決定をすべきだと思うのに、周りの風潮やそうしなければ認められない社会はおかしい。性の問題は、小学生のうちから家庭や学校で「愛」を教えていくべきだと思う。隠すから曲がった情報しか伝わらなくなる。(30歳代)
子供達にしわ寄せがいかず女性自身が生き生きと生きていけるような、働く女性のための子育て支援。(40歳代)
保育園・学童保育の充実と拡大。男女ともに働いて協力して子供を大切に扶養する社会制度を作る。(50歳代)
働きたい女性が子供の保育所不足や遠すぎて不適當な所等のため、仕事を辞めざるを得ない人が多くいる。駅に保育所を隣接させて職場の行き帰りに寄れる保育所を切に希望する。(60歳代)

女性も男女平等について知り、理解し行動してほしい。そうしないと男性も変わらない。(30歳代)
確かに男女で知力、体力、行動面で差があるが、女性はそんなに弱い存在でもないと思う。男性の方から見る目を変える、考え方を変える必要もあると思う。(30歳代)
それぞれの性差を認め合い、それにふさわしい行動をするのが正当だと思う。また夫も家庭でそれなりの役割を担えるよう、企業意識を変えてもらいたい。まだ男性中心の社会だが、地域社会で活躍する男の姿を見かけるようになったのはよいこと。(30歳代)
「男女共同参画社会」を実現するには、女性自身が自立する意識をもつことが大事かと思う。(40歳代)
男女平等といわれているが、同じ職業においても初めから女性は結婚したらやめるかもしれない、結婚していれば出産で休む、と思われる。企業内の固定観念をすて、意識改革をしていかないと、少子化問題は解決できない。(40歳代)
「男女共同参画社会」を形成していくには、人間はあらゆる意味で平等であるという基本をまず理解することであり、それぞれの人格や特徴を認め合うことであると考え。(50歳代)
性の商品化による女性の人権侵害については、手っ取り早い収入源として好んで選択する女性もいることも考えなくてはならないと思う。(40歳代)
女性が男性と平等に働いたり、家事を行う事は、現状の社会では難しいことだと痛感している。家事は、夫の理解と協力があれば可能だが、世間からそういった理解はまだ得られない。特に職場では女性は昇格できず給与もちがう。さらに女性が結婚して仕事を続けている、まるで家事も何もしていないのではなど周りから言われる。そういった社会が変わらなければ難しいことだと思う。(20歳代)
「女性だから」と許されている部分がかかなりあり、男性の方が立場的に不利と感じていることもあると思う。私も日常の中で、「女性だからこれはしなくて良い」という事が多く、とても不満に思っている。(30歳代)
仕事(職業)面でも家庭面でも「男女差」がなくなっていると言われていたが、実際リストラにあうのはまず女性。家庭で介護等が必要となると、まず女性。(30歳代)
職場には女性のための制度があるが活用できない場合が多い。企業や女性を支援する制度を充実させる必要がある。(20歳代)
ワークシェアなどが充実してくれば、女性も仕事と子育てを両立できるのではないか。(20歳代)
企業の体制が変わらない限りは、何も変わらないと思う。(20歳代)
単なる働きかけにとどまらず、「企業」なり「個人」にある程度罰則を設けることが必要であると思う。(20歳代)
職場での平等というのはなかなか難しいと思う。(20歳代)
利益最優先の企業がもう少し社会のことを考えてほしい。平日は父親に会えない子供達が多いこと。家のことをすべてまかされて、仕事をするのをあきらめた母親が多いこと。保育園を増やしても仕事量が今のままでは何も変わらないと思う。(30歳代)
今、出産後も仕事を続けたいと思っている。もっと女性に広い場をあたえてほしい。(30歳代)
女性の仕事や家事・育児に対する評価を企業が公正にしてほしい。(40歳代)
男女共同参画推進条例を初めて知った。若い人は知らないと思うので広報に力を入れた方がいい。(20歳代)
今まで市でこのような活動をしていることをまったく知らなかった。今回この活動を知り得ただけでも有意義であるのに、自分の考え方を市政に役立てて頂けるのはとてもありがたい。男であろうと女であろうと生活しやすい市になるよう少しでも努力したいと思う。(20歳代)
堅苦しいものではなく、わかりやすいものがよいと思う。(30歳代)
男女共同参画に関する知識がほとんどない。役所などに紹介するパンフレットなどがあるのだろうか？やはり最初の一步は啓蒙活動だろう。(30歳代)
本人への対策もいろいろあるだろうが、さらにその両親への勉強会も必要なのではないか。(50歳代)
女性が子供を育てる場合、子供を抱えて仕事をして生活するには仕事面、収入面での支援がほしい。(50歳代)

男女別の苗字に結婚後もなるようにしてほしい。(30歳代)
専業主婦は年金についてもとても不利である。子どもの人数に応じた年金の割り増しを希望する。(30歳代)
性的な暴力について親身に相談にのってくれる所が必要である。(50歳代)
互いの立場を尊重するところまで成長していないので、結婚適齢期の男女の交際の場を作ってほしい。(60歳代)
男女の違いは当たり前だと思う。(20歳代)
根本のところには男は紳士であり、女は淑女であることで礼儀に厚くあってほしいと思う。(70歳以上)
「男女共同参画社会」とは、私にとってうらやましい理想世界だ。(70歳以上)

## < 男性の意見 >

現在の風潮として「自分のやっていることを悪いことだと認識していない」場合が多い。認識させるような広報が必要。(20歳代)
趣味や地域生活を楽しめるゆとりある環境づくりにより、男女お互いを尊重するゆとりある気持ちを得ることができるのではないだろうか。(30歳代)
男女は当然「平等」でなければならないが、何を以て平等と考えるかを考える必要があると思う。(40歳代)
男性が仕事をし、女性が家庭を守るという構図は、例外もあるが、何千年という歴史の中で続いてきた。これは相対的に男性の方が力が強かったり、女性の方がきめ細やかであったりという身体的な差、故であろう。男性・女性がお互いの社会に進出していくのは決して否定されるべきではないがあえてこの構図を打破する必要はないと思う。(20歳未満)
女性だからという理由をつけて権利を侵害されていると思いこむ人も少なくない。女性だから許されていることも多い。(20歳代)
昔から現在まで女性社会という領域が部分的にはあるのだから、すべての領域で男女平等である必要はなく、男性社会といわれる領域が残ってもいいと思う。(30歳代)
男女平等という言葉が一人歩きしている感があり、各個人の自覚が欠けているように思う。(30歳代)
男性には男性しかできないもの、女性には女性しかできないものをそれぞれ自覚できるように社会に広めていき、なんでも男女均等という考えをあらためて、社会に働きかけてほしい。(30歳代)
男女共同参画、平等とは、男性、女性のそれぞれが役割を果たすことだと思う。女性が参加(参画)できないもの、男性が参加(参画)できないものがあるべきだと思う。(30歳代)
男女生まれながら同じではない、という前提で考えるべき。生まれながらの女性としてのハンディ(出産)を何らかの方法で補うべきである。(60歳代)
社会の中には、男に向いていることと、女に向いていることというのは(体力等を考えて)確実に存在する。それを男社会・女社会と否定的に考えるのではなく、社会の中での分担と考えるべきであると思う。(20歳代)
自分はこの条例や計画については知らなかったが、男女がその性別に関わらず才能を發揮できるべきだと思う。社会、個人の意識もまだまだだと思うので、ぜひ横浜市でこの計画を進めてほしい。(20歳代)
横浜市の行政は20歳未満の住民には全く見えてこない。「横浜市はコレをします」などの内容を具体的に書いたポスターを若い人の目につく場所、コンビニ、ファミレス等に貼ってくれると関心は高まると思う。(20歳未満)
自分の意識の中では、男女平等な社会と思うが、女性の立場からみて何が不平等、対等でないかという情報をもっと知りたいと考える。(30歳代)
自由や個性を善とし、義務や協調をないがしろにする教育・風潮が問題だと思う。安心して子育てのできる社会環境を早急に整える必要がある。また企業だけに負担を押し付けない行政のあり方を望む。(40歳代)
国政、市政に係わる議員数の女性比を法律で決めて参加が当然の風潮を作っていく。(20歳未満)

DVは乳幼児時代より、両親より学習すると言われている。人権を尊重され優しく育てられた子に粗暴な犯罪者は出ないと言うアメリカ小児学会の報告もあり、家庭教育が原点と思われる。(40歳代)
女性が社会に進出する機会はすでに充分用意されていると思うので、次は男性が家庭に入るモデルケースがあるのではないかと。(20歳代)
育児休業制度は民間(零細)企業にはない。これは一部の恵まれた人々のもので大多数の人々は利用できないのが現実だ。制度ではなく、法律で決めた方がよい。(20歳代)
保育園を増やしてほしい。妻が働きたくても、子供を預かってくれるところがなければ就職活動すらできない。(30歳代)
問題発生時、気楽に相談できる場所。および相談員の常駐。(70歳以上)
女性の社会的地位が向上しないのは、国や社会、企業が本気でそれに取り組んでいないから。様々な活動の場で女性の登用を促進していかなければいけないと思う。(70歳以上)

市民局男女共同参画推進室

平成 15 年 3 月 発行

〒 231-0017 横浜市中区港町 1 - 1

TEL.(045) 671-2017

FAX.(045) 663-3431

E-mail danjo@city.yokohama.jp

<http://www.city.yokohama.jp/me/shimin/danjo/>

横浜市広報印刷物登録 第 140769 号

類別・分類 A-DA170

(古紙配合 100%再生紙を使用しています)